

鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.19

2019・2020

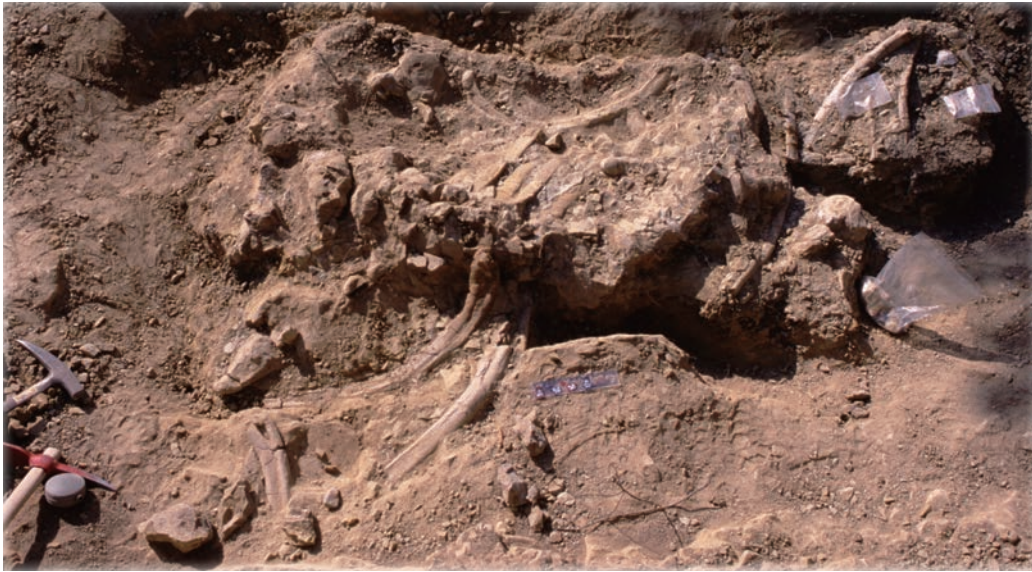
鹿児島大学総合研究博物館

The Kagoshima University Museum

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.19

2019・2020



鹿児島大学総合研究博物館
The Kagoshima University Museum

中表紙

上：タイ国　メーソイのゾウ化石発掘産状：仲谷英夫撮影

下：閉め切り前の諫早湾の小野島（長崎県）でのシチメンソウの紅葉。遠方に雲仙普賢岳を望む。

1996年11月10日：佐藤正典撮影

年報 No.19 目次

2019 年度

| | | | |
|----|---|----------|----|
| 1 | 総合研究博物館の組織 - 2019 年度 - | 橋本達也 | 1 |
| | 館長 研究部 運営委員 兼務教員 学外協力研究者 専門部会 | | |
| 2 | 2019 年度の企画事業 | | |
| | 1. 研究交流会 | | |
| | 第 26 回研究交流会 「キリシタン考古学の最前線 — 遺跡・墓地・ミゲル墓所 —」 | 橋本 | 3 |
| | 2. 市民講座 | | |
| | 第 37 回市民講座 「「ミステリーサークル」をつくるフグ」 | 本村浩之 | 3 |
| | 3. 公開講座 | | |
| | 第 19 回自然体験ツアー 「寺山の植物」 | 田金秀一郎 | 4 |
| | 4. 第 19 回 特別展 「タイ王国の化石—後期新生代の哺乳類化石の 年代層序とその古環境—」 | 橋本 | 4 |
| | 5. その他の活動 | | |
| | (1) 第 1 回バックヤードツアー植物標本庫 | 田金 | 6 |
| | (2) 企画展示「薩摩半島の魚類 in 笠沙恵比寿」 | 本村 | 6 |
| | (3) 企画展示「薩摩半島の魚類 in 鹿児島大学」 | 本村 | 6 |
| | (4) 特別イベント「鹿児島の子をさわろう！」 | 本村 | 7 |
| | (5) プレゼントグッズくじ | 橋本 | 7 |
| | (6) ミニ企画展「アマミホシゾラフグのすべて」 | 本村 | 8 |
| | (7) 鹿児島植物研究会講演会「鹿児島の植物相の紹介」 | 田金 | 8 |
| 3 | 常設展示室 | 上村 文 | 9 |
| | 1. 入館者数 2. 利用・活用状況 3. 室内環境 | | |
| | 4. 常設展示室アンケート | | |
| | 5. 常設展示室 展示品目録 - 2019 年度 - (2018 年度からの変更点) | | |
| | 6. 常設展示室の課題 | | |
| 4 | 教育活動 | | |
| | 1. 博物館実習・博物館学関連講義 | 橋本・本村・田金 | 12 |
| | 2. 教員免許更新講習 | 橋本・本村 | 12 |
| | 3. インターンシップ | 橋本・本村・田金 | 13 |
| 5 | 出版・広報 | 橋本 | 13 |
| 6 | ボランティア活動 | 本村 | 14 |
| 7 | 標本管理活動 | | |
| | 1. 植物標本室 | 田金 | 15 |
| | 2. 魚類標本の利用状況 | 本村 | 15 |
| | 3. その他の標本等の管理・利用 | 橋本 | 17 |
| 8 | 2019 年度 専任教員の活動業績 | 各教員 | 18 |
| 9 | 2019 年度 ポスター | 各教員 | 28 |
| 10 | 2019 年度 魚類ポスター | 本村 | 30 |

2020年度

| | | | |
|----|---|----------|----|
| 11 | 総合研究博物館の組織 - 2020年度 - | 橋本達也 | 31 |
| 12 | 2020年度の企画事業 | | |
| | 1. 研究交流会 | 橋本 | 31 |
| | 2. 市民講座 | | |
| | 第38回市民講座「有明海の干潟の生物と人々の暮らし」 | 大西佳子 | 31 |
| | 3. 公開講座 | | |
| | 第20回自然体験ツアー「磯間岳の植物」 | 田金秀一郎 | 31 |
| | 4. 第20回 特別展「有明海の干潟の生物と人々の暮らし」 | 大西 | 32 |
| | 5. その他の活動 | | |
| | (1) 特別公開「南西諸島で国内35年ぶり新種発見 アカボシシリゴキブリ・ウスオビシリゴキブリ」 | 橋本 | 32 |
| | (2) 特別公開「ホソバノキミズ」 | 田金 | 33 |
| | (3) ミニ企画展示「出水市高尾野川河口の生きもの」 | 本村浩之 | 33 |
| | (4) 第2回バックヤードツアー「植物標本庫」 | 田金 | 33 |
| 13 | 常設展示室 | 上村 文 | 35 |
| | 1. 入館者数 2. 利用・活用状況 3. 室内環境 | | |
| | 4. 常設展示室アンケート | | |
| | 5. 常設展示室 展示品目録 - 2020年度 - (2019年度からの変更点) | | |
| | 6. 常設展示室の課題 | | |
| 14 | 教育活動 | | |
| | 1. 博物館実習・博物館学関連講義 | 橋本・本村・田金 | 38 |
| | 2. 教員免許更新講習 | 橋本・本村 | 39 |
| | 3. インターンシップ | 橋本 | 39 |
| 15 | 出版・広報 | 橋本 | 39 |
| 16 | ボランティア活動 | 本村 | 40 |
| 17 | 標本管理活動 | | |
| | 1. 植物標本室 | 田金 | 41 |
| | 2. 魚類標本の利用状況 | 本村 | 42 |
| | 3. その他の標本等の管理・利用 | 橋本 | 44 |
| | 4. 奄美の高倉補修 | 橋本 | 45 |
| 18 | 2020年度 専任教員の活動業績 | 各教員 | 45 |
| 19 | 2020年度 ポスター | 各教員 | 55 |
| 20 | 2020年度 魚類ポスター | 本村 | 57 |

1 総合研究博物館の組織－2019 年度－

| | |
|--------------|------------------|
| 館長 | 本村 浩之 |
| 研究部 | |
| 資料研究系 | 橋本 達也 教授 考古学 |
| 分析研究系 | 本村 浩之 教授 魚類分類学 |
| | 田金秀一郎 特任助教 植物分類学 |
| | 大西 佳子 助教 地球人間圏科学 |
| 事務補佐員 | 西元 暢子 |
| 事務補佐員（常設展示室） | 上村 文 |
| 技術補佐員 | 大西 聡子 |
| 技能補佐員 | 西原 茉莉・中原 敏昭 |
| 研究支援推進員 | 福元 しげ子 |
| | 寒川 朋枝 |
| 事務局 | 研究推進部研究協力課研究支援係 |

運営委員（総合研究博物館専任教員を除く）

| | | | |
|----------|-----------|------|-----------|
| 法文学部 | 福永 善隆 准教授 | 教育学部 | 平野 拓朗 准教授 |
| 理学部 | 上野 大輔 准教授 | 医学部 | 牧迫飛雄馬 教授 |
| 歯学部 | 上川 善昭 准教授 | 工学部 | 加藤 龍蔵 准教授 |
| 農学部 | 朴 炳宰 准教授 | 水産学部 | 中村 啓彦 教授 |
| 共同獣医学部 | 小尾 岳士 准教授 | | |
| 医歯学総合研究科 | 後藤 哲哉 教授 | | |

兼務教員（敬称略）

地球科学分野

北村 有迅：理学部（地質学）
 中尾 茂：理学部（地球科学）

生物学分野

栗和田 隆：教育学部（生物学、特に動物生態学）
 大塚 靖：国際島嶼研（衛生動物学）
 河合 溪：国際島嶼研（海洋生物学）
 佐藤 正典：理学部（底生生物学）
 山本 雅史：農学部（果樹園学）
 一谷 勝之：農学部（植物育種学）
 鶴川 信：農学部（森林生態学）
 中西 良孝：農学部（生物学、在来家畜および再野生化家畜の研究）
 坂巻 祥孝：農学部（害虫学（昆虫学））
 寺田 竜太：連合大学院 農学研究科（藻類学・水産植物学）
 山本 智子：水産学部（海洋生態学）
 大富 潤：水産学部（水産資源生物学）

考古学・歴史学・民俗学分野

高津 孝：法文学部（東アジア海域交流史・博物学）

丹羽 謙治：法文学部（日本近世文学・日本近世文化）

石田 智子：法文学部（考古学）

兼城 糸絵：法文学部（文化人類学）

小林 善仁：法文学部（歴史地理学・集落地理学・古地図学）

渡辺 芳郎：法文学部（考古学）

教育学・理学・学術情報学分野

中川亜紀治：理学部（電波天文学・VLBI 位置天文学）

升屋 正人：学術情報基盤センター（情報ネットワーク・生命情報学）

学外協力研究者（敬称略）

石畑 清武：鹿児島大学名誉教授（熱帯園芸学）

上野 浩子：かごしま環境未来館（魚類寄生虫学）

浦嶋 幸世：鹿児島大学名誉教授（地質における元素の移動と濃集）

大木 公彦：鹿児島大学名誉教授（第四紀層位学・微古生物学（底生有孔虫）、海洋質学）

鹿野 和彦：産業技術総合研究所（地質学）

川端 訓代：鹿児島大学アドミッションセンター（地震の発生機構の解明）

木下 紀正：鹿児島大学名誉教授（環境物理学、素粒子・原子核物理学）

坂元 隼雄：（財）鹿児島県環境技術協会理事長、鹿児島大学名誉教授（地球化学、分析化学、環境化学）

櫻井 真：鹿児島純心女子短期大学教授（動物生態学、鹿児島県内野生生物の生態・分布調査、野生生物保存生態学）

塚原 潤三：鹿児島大学名誉教授（発生生物学）

土田 充義：鹿児島大学名誉教授・NPO 法人文化財保存工学研究室理事長（日本建築史）

西中川 駿：鹿児島県考古学会会長、鹿児島大学名誉教授（動物考古学、動物解剖学）

福田 晴夫：環境省希少野生動植物種保存推進員（生物学、昆虫生態学）

丸野 勝敏：（鹿児島県産植物相の調査、マメ科ハギ属カヤツリグサ科スゲ属植物の分類）

山下 智：鹿児島大学名誉教授（魚類・両生類・ほ乳類の味覚神経情報の比較生理学）

山根 正氣：鹿児島大学名誉教授（有剣ハチ類・アリ類の分類学および生物地理学）

湯川 淳一：鹿児島大学名誉教授・九州大学名誉教授（タマバエ類の分類学的及び生態学的研究）

専門部会

委員長 佐藤 正典（理）

委員 石田 智子（法文） 鶴川 信（農） 栗和田 隆（教育）

山本 智子（水産） 寺田 竜太（連大） 大塚 靖（島嶼研）

総合研究博物館専任教員 4 名

2 2019年度の企画事業

1. 研究交流会

第26回研究交流会 「キリシタン考古学の最前線—遺跡・墓地・ミゲル墓所—」

2019年7月27日(土)13:30～15:00、鹿児島大学 総合教育研究棟102講義室にて、田中 祐介氏(別府大学文学部教授)を招き、研究交流会を開催した。

2018年、世界遺産に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連」が登録されるなど、近年、キリシタンの考古学が注目されつつある。とくに、戦国時代のキリシタン遺跡では新たな調査・発見が続いている。そこで、講師に諫早市の千々石ミゲル墓とされる伊木力墓所の調査を担当するなど、その最先端の研究を主導する田中氏にキリシタン考古学の最前線について解説いただいた。

キリシタン考古学について、基礎から最新の調査成果まで幅広く、膨大な情報量を整理して解説いただいた。参加者は21人であった。



第26回 研究交流会



田中 祐介 氏

2. 市民講座

第37回市民講座 「[ミステリーサークル]をつくるフグ」

2020年1月11日(土)の10:00から11:00まで、千葉県立中央博物館分館・海の博物館の川瀬裕司氏を講師としてお招きし、郡元キャンパス連合農学研究科3階会議室にて、第38回市民講座を開催した。アマミホシゾラフグの繁殖行動をはじめ、ミステリーサークルの3D構造や形成ロジックについて解説して頂いた。講演後の11:00に総合研究博物館常設展示室へ移動して、12:00まで実物大のミステリーサークル模型とフグの標本を見学しながら、解説して頂いた。一般と大学生を中心に45名が聴講し、盛況であった。

午後にはかごしま水族館に移動し、14:30から15:15まで、特別講演会「ミステリーサークルをつくるフグ」をかごしま水族館1階レクチャールームにて開催した。午前中よりもビデオを中心とした平易な解説をして頂き、参加者の小学生にも理解ができる内容であった。講演後、フリートークで子供たちが積極的に話していた。子供から大人まで42人が聴講し、予定時間を越えた活発な質疑応答もあった。



第37回 市民講座



川瀬 裕司 氏

3. 公開講座

第19回自然体験ツアー 「寺山の植物」

2019年8月3日(土)9:00～15:30に博物館の田金が講師となり、鹿児島大学教育学部 寺山自然教育研究施設を利用して、植物標本を基礎とした地域の植物相調査について解説を行った。参加者は施設周辺に生育している植物を自ら採取し、図鑑等を用いて名前を調べ、押し葉標本の作成を行った。小学校低学年から50代までの7名の参加者があり、植物の名前や標本資料の作成や大事さについて実体験を通して学習する機会を提供した。



第19回 自然体験ツアー



田金と参加者



第19回 自然体験ツアーにおける標本製作

4. 第19回特別展「タイ王国の化石

—後期新生代の哺乳類化石の年代層序とその古環境—

2019年12月16日～2020年1月16日(12月27日～1月5日・1月13日は休館)、10:00～17:

00、鹿児島大学附属図書館 ギャラリーアトリウムにて、大学院理工学研究科・仲谷英夫教授が長年行ってきたタイ国での化石に関するフィールドワークについて紹介する特別展を開催した。

タイ国において後期新生代から更新世（約 2300 万年～ 100 万年前）の哺乳類化石の調査に関わる資料とポスターによる展示であり、本展示終了後、3 月には仲谷教授の定年退職に伴ってタイ国に



展示準備



展示会場入口



展示会場全景



展示風景



ギャラリートーク



ギャラリートーク



仲谷 英夫 氏



NHK 取材風景



展示資料の一部

返却されることが決まっている資料であるため、日本国内では、最初で最後の貴重な公開となった。

資料はいずれも小片が多く、けっしてわかりやすいものではないが、じっくりと観察する見学者がみられた。会場係員は置いていないので、来場者数はカウントしていない（入場無料）。会場には、展示解説シートを置き、必要に応じて持ち帰ることができるようにした（無料）。

展示期間中2度、水曜日昼休憩時間に、仲谷教授によるギャラリートークを実施した。第1回は20人、第2回は25人の参加があった。またNHKの取材もあり、鹿児島島の話として放映された。

5. その他の活動

(1) 第1回 バックヤードツアー 植物標本庫

2019年8月10日（土）9：00～12：00、田金を講師とする定員5名（参加無料）の総合研究博物館植物標本庫の見学ツアーを企画したが、参加希望者がなく、イベントを催行しなかった。

総合研究博物館が収蔵する植物標本庫を紹介し、押し葉から「標本」を作製し、博物館に収蔵されるまでの流れについて解説する企画であった。

(2) 企画展示「薩摩半島の魚類 in 笠沙恵比寿」

2019年7月12日～8月25日（9：00～17：00）

場所：笠沙恵比寿（鹿児島県南さつま市）

2018年に開催した第18回特別展「笠沙の魚たち」の規模をやや拡大して、薩摩半島西岸海域にみられる魚約600種の標本を展示した。各標本に各種の分類や生態に関する解説を書いたカードを添えるとともに、薩摩半島の魚について解説した28枚のA0パネルも設置した。会期中、約1000名が展示会場に足を運んでくださり、希望者には「笠沙の魚たち」A1ポスターを差し上げた。本企画展示は鹿児島大学総合研究博物館、笠沙恵比寿、および鹿児島水圏生物博物館の共催で、笠沙町漁業協同組合の協力のもと実施された。



「薩摩半島の魚類 in 笠沙恵比寿」



同左・設営風景

(3) 企画展示「薩摩半島の魚類 in 鹿児島大学」

2019年8月26日～9月26日

場所：鹿児島大学附属図書館中央ギャラリー

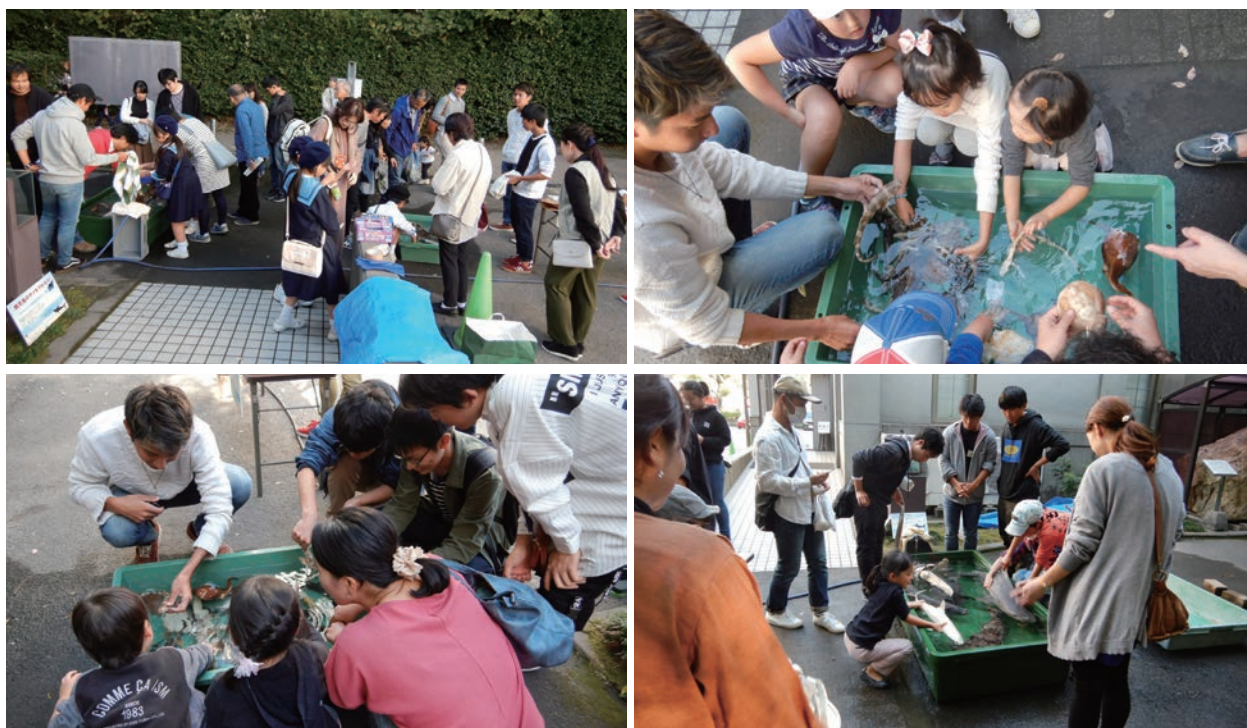
笠沙恵比寿で開催した展示魚類標本を2トントラックで運び、同じ展示を鹿児島大学で開催した。会期終了後、展示標本は再度笠沙恵比寿に搬出された。



「薩摩半島の魚類 in 鹿児島大学」

(4) 特別イベント「鹿児島のサメをさわろう！」

鹿大祭期間中の2019年11月16～17日に、総合研究博物館常設展示室前で「鹿児島のサメをさわろう！」を開催した。2018年に引き続き、総合研究博物館に所蔵されている約20万点の魚類標本から100点のサメやエイを一般公開した。世界一小さいサメから人を襲うこともある大型のイタチサメ（標本は約2m）、発電器を有するシビレエイ、白いハナザメ（アルビノ）などを流水にさらした状態で公開した。2日間で1240人（1日目:540人;2日目:700人）が来場した。希望者には「鹿児島のサメとエイ」のポスターをプレゼントした。



「鹿児島のサメをさわろう」

(5) プレゼントグッズくじ

「鹿児島のサメをさわろう」と同じく鹿大祭にあわせて、常設展示室にて開催した。プレゼントのグッズは以前に標本受け入れに伴って収集していた未使用のガラス製実験道具や竿天秤の分銅などで、1970年代頃のものと考えられる。博物館ですべてを保存する必要はないことから、入館者プレゼントに利用した。

鹿大祭の際が、常設展示室にとって一年でもっとも多くの人々が訪れるため、この機会にお楽しみ企画として行った。本企画は3年目であり、グッズの在庫は限られているので恒常的に続けることはできないが、事前にTwitterでも情報を流していたこともあって、くじ目当てでの来館者が

あるほどで、大人にも子どもにも反応は良好であった。約4割程度を当たりくじとした。入館者とプレゼントのストックの状況からあと1回は開催できる見込みである。

(6) ミニ企画展「アマミホシゾラフグのすべて」

2020年1月11日～3月31日 場所：鹿児島大学総合研究博物館常設展示室

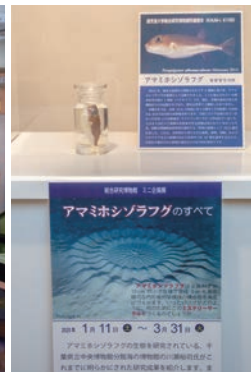
2014年に新種として記載されたアマミホシゾラフグは、砂底に多くの溝や土手を配置した直径2mほどの正円形の産卵巣を作る。このような巨大で複雑な産卵巣を作る魚類は知られていなかったため、国際生物種探査研究所が選考する「世界の新種トップテン」に選ばれた。本ミニ企画展では、産卵巣の実物大模型や発見された最初の個体（命名の基準となった標本）を展示した。



アマミホシゾラフグの産卵巣の実物大模型



模型展示の解説をする川瀬氏



アマミホシゾラフグの標本展示

(7) 鹿児島植物研究会講演会「鹿児島の植物相の紹介」

2020年1月25日（土）13：00～15：30、鹿児島大学郡元キャンパスにて、鹿児島植物研究会の講演会を博物館と共催で開催した。26名の聴講者があり、田金は「鹿児島大学総合研究博物館の植物研究の紹介」という演題で、博物館に収蔵されている植物標本資料の紹介や、これらを基に実施されたこれまでの研究成果について講演した。その後、「鹿児島県立博物館の植物研究の紹介」（久保紘史郎氏）、「奄美の植物～3年間の植物撮影旅行～」（片野田逸朗氏）、「薩摩半島の植物相～サツマハギ類を中心に～」（丸野勝敏氏）の講演があり、普段とは違う視点で鹿児島の植物を考える良い機会を提供した。

3 常設展示室

1. 入館者数

常設展示室 月別入館者数 2019年度

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|------|
| 総入館者数 | 275 | 86 | 149 | 202 | 199 | 58 | 273 | 518 | 95 | 151 | 97 | 65 | 2168 |
| 団体 | 180 | 19 | 85 | 133 | 53 | 0 | 175 | 47 | 21 | 0 | 17 | 0 | 730 |
| 一般 | 95 | 67 | 64 | 69 | 146 | 58 | 98 | 471 | 74 | 151 | 80 | 65 | 1438 |
| 開館日数 | 20 | 19 | 21 | 22 | 20 | 19 | 22 | 21 | 19 | 19 | 19 | 20 | 241 |

曜日別入館者数 2019年度

| | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | | 土 | | 日 | | 月 | | 合計 | | 総計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|------|------|------|
| | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | |
| 4月 | 103 | 13 | 0 | 12 | 7 | 31 | 0 | 21 | 70 | 18 | 0 | 0 | 0 | 0 | 180 | 95 | 275 |
| 5月 | 14 | 13 | 5 | 15 | 0 | 8 | 0 | 23 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 19 | 67 | 86 |
| 6月 | 0 | 16 | 11 | 17 | 0 | 9 | 74 | 14 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 85 | 64 | 149 |
| 7月 | 128 | 12 | 0 | 2 | 5 | 11 | 0 | 25 | 0 | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 | 133 | 69 | 202 |
| 8月 | 0 | 23 | 0 | 16 | 0 | 39 | 53 | 38 | 0 | 24 | 0 | 0 | 0 | 6 | 53 | 146 | 199 |
| 9月 | 0 | 6 | 0 | 9 | 0 | 20 | 0 | 10 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 58 | 58 |
| 10月 | 0 | 17 | 60 | 24 | 27 | 28 | 41 | 12 | 47 | 17 | 0 | 0 | 0 | 0 | 175 | 98 | 273 |
| 11月 | 0 | 8 | 0 | 12 | 0 | 20 | 34 | 14 | 13 | 209 | 0 | 208 | 0 | 0 | 47 | 471 | 518 |
| 12月 | 0 | 8 | 0 | 14 | 21 | 11 | 0 | 12 | 0 | 25 | 0 | 0 | 0 | 4 | 21 | 74 | 95 |
| 1月 | 0 | 20 | 0 | 26 | 0 | 17 | 0 | 19 | 0 | 60 | 0 | 0 | 0 | 9 | 0 | 151 | 151 |
| 2月 | 0 | 23 | 0 | 17 | 17 | 10 | 0 | 13 | 0 | 15 | 0 | 0 | 0 | 2 | 17 | 80 | 97 |
| 3月 | 0 | 15 | 0 | 18 | 0 | 12 | 0 | 9 | 0 | 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 65 | 65 |
| 合計 | 245 | 174 | 76 | 182 | 77 | 216 | 202 | 210 | 130 | 422 | 0 | 208 | 0 | 26 | 730 | 1438 | 2168 |
| | 419 | | 258 | | 293 | | 412 | | 552 | | 208 | | 26 | | 2168 | | |

今年度の総入館者数は2168名で、昨年度に比べ176名増加している。団体が197名の増加で、一般が15名の減少だった。

学内の各部署より依頼された大学訪問の際の団体見学での利用がとくに増えた。

2. 利用・活用状況

大学関係では、4月のフレッシュマンセミナー（工学部）をはじめ、教育学部・法文学部・農学部および共通教育の授業のほか、教員免許状更新講習などの利用があった。学外からは、海外協定校をはじめ、小・中・高校・PTAなどから、修学旅行・施設見学・研修などでの利用があった。

大学関係

- ・工学部機械工学科（1年）フレッシュマンセミナー
- ・大学院理工学研究科（電気電子工学専攻）講義見学
- ・教育学部「地学概論」
- ・法文学部「心理療法演習」ほか講義見学
- ・農学部「地学概論」
- ・農学部「理科教材研究法Ⅱ」
- ・共通教育科目「鹿児島探訪」
- ・教員免許状更新講習
- ・グローバルセンター：大学の世界展開力強化事業（台湾国立成功大学・タイ・ブーラーパー大学）
- ・ボランティアサークル Freespot（宿利原小学校児童見学）

学外

- ・海外協定校（台湾・高雄科技大ほか）施設見学
- ・教育懇話会（鹿児島県高等学校長会）
- ・曾於高校（大学訪問）
- ・国分高校 PTA（大学訪問）
- ・玉龍中学校（中大連携）
- ・県工業技術センター
- ・日本図学会
- ・天保山内科松風会
- ・出水中央高校（大学訪問）
- ・志布志高校（大学訪問）
- ・郁文館高校（東京都）修学旅行
- ・伊佐市立牛尾小学校
- ・NPO 法人 こどものけんちくがっこう
- ・進研アド
- ・ダイケアセンターひまわり

3. 室内環境

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 平均 |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 1階ケース温度（℃） | 19.8 | 22.3 | 24.1 | 25.4 | 25.3 | 26.0 | 23.9 | 18.9 | 17.2 | 15.6 | 16.4 | 17.4 | 21.0 |
| 1階ケース湿度（％） | 64.4 | 67.7 | 64.0 | 58.0 | 60.4 | 62.6 | 62.4 | 70.1 | 65.3 | 56.9 | 64.8 | 64.6 | 63.4 |
| 2階ケース温度（℃） | 20.0 | 21.9 | 23.3 | 24.0 | 25.6 | 25.3 | 23.2 | 18.5 | 16.8 | 15.4 | 18.0 | 17.5 | 20.8 |
| 2階ケース湿度（％） | 68.1 | 66.2 | 60.2 | 55.5 | 61.6 | 62.1 | 63.1 | 67.4 | 64.6 | 62.0 | 58.4 | 60.7 | 62.5 |

4. 常設展示室アンケート

アンケート集計結果

1) 性別

男 56名 女 48名 無回答 3名 合計 107名

2) 年齢

小学生以下 8名 中学生 0名 高校生 5名 大学生 27名
上記以外の10代 2名 20歳代 4名 30歳代 4名 40歳代 24名
50歳代 20名 60歳代 9名 70歳以上 4名 無回答 0名

3) 居住地

鹿児島市内 51名 鹿児島県内 5名 鹿児島県外 43名
大学関係者（学生・教職員） 8名 無回答 0名

4) 常設展示室を知った理由

立て看板 39名 ホームページ 7名 ポスター 2名
授業・講座等 20名 人にすすめられて 11名 その他 28名 無回答 0名

5) 感想

大変よい 65名 よい 38名 どちらともいえない 2名
つまらない 0名 大変つまらない 0名 無回答 2名

6) 感想・意見・要望等

アンケート107件中97件に自由記述欄の記入があった。

内容を見てみると全般的な感想としては、「程よい情報量で楽しめた」「このような質・量・内容で無料であることに驚きだ」「鹿児島県の地形や社会の成り立ちについてよくまとめられている。離島の説明もあるのがよかった」などがあった。

展示内容については、「アマミホシゾラフグのミステリーサークルはテレビで見て知っていたが、あんなに小さな体でこんなに大きな産卵巣を作るのかと、実物大の模型を目にして驚いた」「ストロマトライトや縞状鉄鉱層の実物を見たり触れたりできてよかった。高校の授業

で紹介したい」などがあった。

来館のきっかけとしては「構内を歩いていて偶然通りがかった」「Googlemapを見て」「特別展（タイ王国の化石）観覧のついでに」「学内に新しくできたレストラン（稲盛記念館）を利用のついでに」などがあった。

意見・要望として、「場所がわかりにくい」「その時々で話題になっているテーマや世間の関心事を取り込んだ展示もあると、もう少し親しみやすく感じられると思う」「自然体験ツアーやバックヤードツアーに参加してみたい。イベント情報を早めに告知してほしい」などがあった。

5. 常設展示室 展示品目録－ 2019 年度－（2018 年度からの変更点）

展示追加

- ・扁平両刃石斧／朝鮮半島に起源をもつ弥生土器
石庖丁／紡錘車／敲石・磨石／軽石製品
鹿大埋蔵文化財調査センター報告書作成のため展示資料入替（4/22）
- ・筒型器台／壺／須恵器（はそう・壺・取っ手付き）
盾持人埴輪貸出に伴い展示（5/29）
- ・アマミホシゾラフグ標本
産卵巣 3D 模型（千葉県立中央博物館所蔵）
ミニ企画展「アマミホシゾラフグのすべて」（1/10～3/31）

展示終了

- ・石庖丁／紡錘車／敲石・磨石／軽石製品
鹿大埋蔵文化財調査センター報告書作成のため撤去（4/22）
- ・筒型器台／壺
盾持人埴輪返却に伴い撤去（9/29）
- ・金銀鉱石（菱刈鉱山・大口鉱山）
ミニ企画展「アマミホシゾラフグのすべて」展示のため撤去（1/10）

展示貸出

- ・盾持人埴輪
宮崎県立西都原考古博物館特別展に貸出（5/29～9/29）

6. 常設展示室の課題

今年度は昨年度に比べると、アドミッションセンターなど学内の他部署から依頼を受けた団体見学の利用が件数、人数ともにとくに増加した。

また一般の入館者数についても、特別展「タイの化石」（12・1月）、ミニ企画展「アマミホシゾラフグのすべて」（1・2・3月）開催期間中には、常設展示室の利用者が例年の同時期よりも増加した。

アンケートの回答を見ると、「ホームページだけでなく、県内のほかの博物館・美術館・水族館や観光案内所、人の集まる施設などにパンフレットやチラシを置いて、認知度を上げたらどうか」といった意見や、「アマミホシゾラフグのように地元に着した話題性のある企画展示に期待する」などの要望が寄せられている。

4 教育活動

1. 博物館実習・博物館学関連講義

博物館実習 総合研究博物館では、博物館実習の学内実習を分担で担当している。実習受講登録学生は法文学部3名、教育学部7名、理学部2名、水産学部8名・農学部4名であった。

5月25日は理学部・水産学部・農学部、6月1日は法文学部・教育学部の学生に対して、橋本が担当し、博物館に関わる全分野において基本技術である写真に関する実習を行った。まずは、カメラ・写真に関する基礎知識について説明を行い、理解を深めた後に撮影台の設営から、博物館資料の撮影まで行った。今回は、被写体を土器とし、実際に全員が一眼レフカメラで撮影するまでを行った。また撮影した画像をフォトタッチソフトを使って加工するところまで説明した（橋本）。

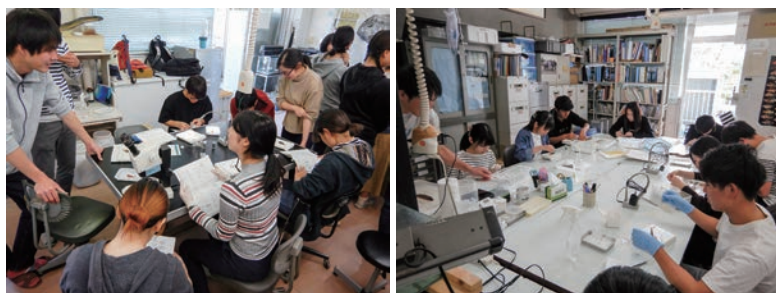
4月20日と5月11日は本村が担当し、博物館標本作成室で魚類の液浸標本の作製、登録、撮影作業を行い、およそ200点の標本を新規登録した（本村）。

4月27日、5月11日は田金が担当し、植物標本室にて植物のさく葉標本の作成・データベース化(台紙への貼り付け、ラベル情報の入力、標本のスキャンによるデジタル画像化)を行い、78点の植物標本の情報をデータベースに登録した（田金）。

博物館学関連講義 学芸員資格取得のための講義は、資格の取得可能な法文学部・教育学部・理学部・水産学部が受講する科目として共通教育において開講されているが、総合研究博物館の教員も分担して担当している。橋本は、博物館教育論・博物館展示論の責任教員として担当、各2名の非常勤講師の調整を行いつつ講義を実施している。本村・田金は、博物館資料論を分担で実施している（橋本）。



考古資料撮影実習作品



魚類標本作製実習

2. 教員免許更新講習

2009年4月1日から教員免許更新制が導入され、鹿児島大学でも免許状更新講習が開設された。免許状更新講習とは、教員免許状をもつ人に対して、文部科学大臣の認定を受けて大学などが開設する最新の知識技能の修得を目的とする講習である。総合研究博物館では同講習の選択科目の開設を行っている。



教員免許更新講習（自然を記録する方法）

8月2日（金）には橋本が、「郷土の歴史の学び方～考古学と博物館～」を開講した。参加者は18名、小学校・中学校（社会）・高等学校（地歴）を主な対象者として実施した。実講義は考古学という学問の概要から、遺跡の調べ方、考古資料の見方について説明し、また博物館の役割とその活用方法の解説をとおして、各地域の郷土の歴史を学ぶ方法を考えるものである。講義と実習は8:50から16:30まで行われ、プログラムには博物館見学・発掘調査見学・拓本実習を含んでいる（橋本）。

9月28日（土）に本村を講師として「自然を記録する方法～魚類の博物学と標本の作製法～」が開講された。対象は小学校教諭と中学校・高等学校の理科教諭の合わせて8名。大航海時代から現代までの魚類コレクション構築の歴史を世界の博物館紹介を通して振り返るとともに、生物多様性を理解するための博物館コレクションの役割を解説した。また、標本の重要性を踏まえたうえで、魚類標本の最新の作製・保存方法を紹介し、実際に液浸標本を作製した。講義と実習は8:50から16:30まで行われ、後日、受講者8名全員が履修認定された（本村）。

3. インターンシップ

鹿児島県教育委員会より依頼があったインターンシップの受け入れを行った。これは、産業界と教育界が連携して中・高校生のためのインターンシップを全県的に実施し、勤労観・職業観の育成を図るとともに、高校や大学進学後の学問の意義を体験的に自覚させ、学習意欲の向上を図ることを目的とした「未来を拓くキャリア教育推進事業」の一環である。

8月6日（火）は橋本が担当し考古学資料の整理を行う予定であったが、当日が台風の予定となったため中止した（橋本）。

8月7日（水）の午前は本村が担当し、博物館における標本の保存・管理をテーマに、魚類の標本作製、撮影、登録作業を行った（本村）。

8月7日（水）の午後からは田金が担当した。博物館における植物標本の整理・データベース化を行い、植物標本の意義と管理に関して体験学習した（田金）。



インターンシップ

5 出版・広報

2019年度の出版物は下記のとおりである。

ニューズレター 1冊は特別展関連資料として計画したが、準備が間に合わずに断念した。そのほか、総合研究博物館にかかわる情報を掲載した通常号を1冊刊行した。

ニューズレター No.45は、総合研究博物館スタッフおよび関連分野教員の大学院生の研究紹介からなる4件の記事を掲載した。著者とタイトルは下記のとおりである。全12ページ。

鹿児島島のシダと鹿児島大学総合研究博物館のシダ標本ノート 田金秀一郎

博士論文研究に係る 2019 年度の海外渡航記 藤原恭司

For Mac ~ Office365、Excel の検索抽出のプログラム~ 大西佳子

諏訪考古資料コレクション5—古代土師器と縄文後期土器— 橋本達也

その他出版物 総合研究博物館関連出版物として下記の2冊を刊行している。

研究報告 No.11 園山貴之・萩本啓介・堀成夫・内田喜隆・河野光久・2020 (Feb.). 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録

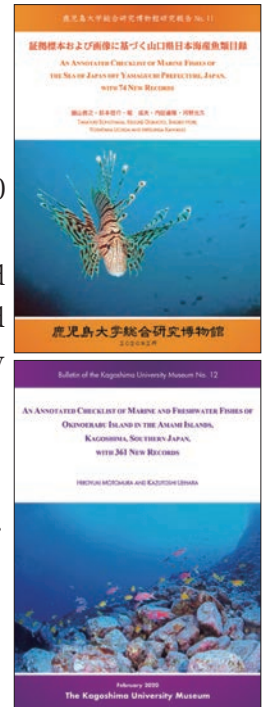
Bulletin No.12 Motomura, H. and K. Uehara. 2020 (March). An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records

年報 毎年1冊、前年度分の年報を刊行している。本年は、年報 No.18、2018 年度分を刊行した。

ポスター・チラシ 第19回特別展にあわせて、展示案内用のB2版ポスター・A4版チラシを作成し、学内各所および他の博物館、教育委員会などに送付し、掲示・配布を依頼した。

「日本のハタ」の魚類ポスターを作成し、配布した。

その他広報 ホームページ、ブログ、Twitter を継続的に更新している。



2019 年度研究報告

6 ボランティア活動

魚類標本の作製・登録・データベース化 総合研究博物館では2006年度から魚類標本の受け入れおよび標本の作製を積極的に行っている。ボランティアは本学学生、一般市民、漁業従事者、水族館職員など多彩な構成である。ボランティアの活動は、大きく分けると魚類の採集、学習会、標本の作製と保存、および教育普及活動の4つの要素から成る（詳しくは『総合研究博物館ニューズレター No. 16』と総合研究博物館出版『魚類標本の作製と管理マニュアル』を参照）。本年度は本学水産学部と鹿児島県環境技術協会から移管された標本と鹿児島県産の標本を中心に約10000標本の登録を行い、標本データのデータベースと、約50000件の画像データベースを作成した。

生きもの観察会 総合研究博物館の魚類ボランティアチームは、県内の各種自然観察会に講師・採集指導者として依頼されて参画している。今年度は永田川の生きもの観察会（7月11日）、和田川の生きもの観察会（7月30日）、平川動物公園における川の生きもの観察会（8月5日）、甲突川の生きもの観察会（8月25日）、松元ダムの外来魚駆除（8月28日）などを行った。



永田川の生きもの観察会

ボランティア学習会 6月6日にボランティア英語学習会を行い、インドネシアからの留学生がフサカサゴ属魚類の多様性に関する発表を行った。総合研究博物館に来館中のフィリピン大学長の Ricard Babaran 教授も参加した。



和田川の生きもの観察会



ボランティア学習会



ボランティア活動を見学しに訪れたオーストラリア連邦科学産業研究機構のAlastair Graham氏の歓迎会



ボランティア活動の見学に訪れた竹島の中学生

7 標本管理活動

1. 植物標本室

植物標本のデータベース化 植物標本室では収蔵する植物標本の全容把握、および管理・利便性向上のため、植物標本のデータベース化を2003年から継続して実施している。2019年度も継続し、鈴木英治氏（前館長、現国際島嶼教育研究センター）、および一般財団法人沖縄美ら島財団との共同研究「西表植物誌編纂事業のためのデータベース」の遂行に伴って雇用した技能補佐員2名（中原敏昭氏・西原茉莉氏）と共に、標本整理・データベース化作業を進めた。

2019年度は27,747点の植物標本をKAGデータベースに登録した。登録した標本情報は植物標本室のwebsite（<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/hyouhonsitu.html>）にて公開を行っている。

学外研究者等による研究活動 学外研究者の丸野勝敏氏は、2018年度に引き続き、ご自身が採集された植物標本約2万点を整理するため、ほぼ毎日標本室に来館し、標本ラベル作成などの作業に従事された。福元しげ子氏には通年を通してマウント作業（標本貼り）にご協力いただいた。

新規植物標本の受け入れ・寄贈状況 2019年度は田金が鹿児島県内を中心とする野外調査を通して2,434点の植物標本を収集し、これらをKAGデータベースに登録した。

KAG標本の整理の過程で出てきた重複標本5点を東北大学植物園の植物標本室（TUSG）に寄贈した。

植物標本の利用状況 2019年度の総合研究博物館植物標本室所蔵の植物標本資料の利用状況は次の表の通りである。インターネット上に公開している植物標本室のデータベースには、集計を開始した2019年9月から2020年3月の期間に672件の訪問者があった。

2019年度の植物標本の利用状況

| 利用年月日 | 所属 | 分類群 | 点数 | 利用目的 |
|-----------------|--------|-----------------------|-------|--------|
| 2019年4月5-6日 | 琉球大学 | Swertia | 77 | 研究 |
| 2019年5月16日 | 神戸大学 | Gastrodia | 4 | 研究 |
| 2019年9月30日 | 東京学芸大学 | Eurya | 1 | 研究 |
| 2019年10月24日 | 京都大学 | Carex | 35 | 研究 |
| 2019年12月18日 | 名城大学 | Deinostema, Lindernia | 90 | 研究 |
| 2020年1月16日 | 神奈川県 | Cyperus | 233 | 研究 |
| 2019年1月7日～3月31日 | 日本シダの会 | シダ類 | 21000 | 図鑑執筆資料 |

2. 魚類標本の利用状況

2019年度の総合研究博物館所蔵脊椎動物標本・資料の利用状況を報告する（学内での利用数は膨大であるため除く）。

動物標本の利用状況

| 貸出・利用年月 | 分類群 | 標本・資料 | 点数 | 貸出・利用先 | 目的 |
|----------|-----|-------|-----|--|----------|
| 2019年4月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | 西海区水産研究所 | 研究 |
| 2019年4月 | 魚類 | 液浸標本 | 1 | 西海区水産研究所 | 研究 |
| 2019年4月 | 魚類 | 筋肉組織 | 28 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2019年4月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 北九州市立自然史・歴史博物館 | 研究 |
| 2019年4月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | かごしま水族館 | 展示 |
| 2019年5月 | 魚類 | 筋肉組織 | 8 | 琉球大学 | 研究 |
| 2019年5月 | 魚類 | 液浸標本 | 421 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2019年5月 | 魚類 | 筋肉組織 | 10 | 京都大学 | 研究 |
| 2019年5月 | 魚類 | 液浸標本 | 21 | 西海区水産研究所 | 研究 |
| 2019年5月 | 魚類 | 筋肉組織 | 11 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2019年5月 | 魚類 | 標本画像 | 6 | California Academy of Sciences, USA | 研究 |
| 2019年5月 | 魚類 | 液浸標本 | 1 | California Academy of Sciences, USA | 研究 |
| 2019年5月 | 魚類 | 標本画像 | 3 | 近畿大学 | 研究 |
| 2019年6月 | 魚類 | 筋肉組織 | 11 | Australian Museum, Australia | 研究 |
| 2019年6月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 鹿児島県大島支庁農林水産部 | 観光客向け小冊子 |
| 2019年6月 | 魚類 | 標本画像 | 365 | 近畿大学 | 研究 |
| 2019年7月 | 魚類 | 筋肉組織 | 31 | 京都大学 | 研究 |
| 2019年7月 | 魚類 | 筋肉組織 | 9 | Australian Museum, Australia | 研究 |
| 2019年7月 | 魚類 | 標本画像 | 72 | 近畿大学 | 研究 |
| 2019年7月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | Australian Museum, Australia | 研究 |
| 2019年7月 | 魚類 | 標本画像 | 118 | Museum & Art Gallery of the Northern Territory, Australia | 研究 |
| 2019年7月 | 魚類 | 筋肉組織 | 5 | 京都大学 | 研究 |
| 2019年7月 | 魚類 | 液浸標本 | 51 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2019年7月 | 魚類 | 筋肉組織 | 403 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2019年7月 | 魚類 | 液浸標本 | 10 | 鹿児島水圏生物博物館 | 展示 |
| 2019年7月 | 魚類 | 筋肉組織 | 107 | 東海大学 | 研究 |
| 2019年8月 | 魚類 | 液浸標本 | 1 | Bochum, Germany | 研究 |
| 2019年8月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | Aquatic Photographics | 図鑑 |
| 2019年8月 | 魚類 | 標本画像 | 4 | Senckenberg Research Institute and Natural History Museum, Germany | 研究 |
| 2019年9月 | 魚類 | 液浸標本 | 18 | なぎさミュージアム | 企画展 |
| 2019年9月 | 魚類 | 標本画像 | 36 | なぎさミュージアム | 企画展 |
| 2019年10月 | 魚類 | 液浸標本 | 22 | 近畿大学 | 研究 |
| 2019年10月 | 魚類 | 標本画像 | 78 | 近畿大学 | 研究 |
| 2019年10月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 鹿児島県大島支庁農林水産部 | 旅行者向けガイド |
| 2019年10月 | 魚類 | 液浸標本 | 1 | 海響館 | 研究 |
| 2019年10月 | 魚類 | 液浸標本 | 3 | 東京海洋大学 | 研究 |
| 2019年10月 | 魚類 | 標本画像 | 135 | 黒潮生物研究所 | 研究 |
| 2019年10月 | 魚類 | 筋肉組織 | 3 | 高知大学 | 研究 |
| 2019年10月 | 魚類 | 標本画像 | 35 | 高知大学 | 研究 |
| 2019年10月 | 魚類 | 液浸標本 | 114 | 西海区水産研究所 | 研究 |
| 2019年10月 | 魚類 | 標本画像 | 4 | 宮崎大学 | 研究 |
| 2019年11月 | 魚類 | 標本画像 | 6 | 日本テレビ | 番組 |
| 2019年11月 | 魚類 | 標本画像 | 8 | 大阪市立自然史博物館 | 企画展 |
| 2019年11月 | 魚類 | 標本画像 | 69 | Victoria Museum, Australia | 研究 |
| 2019年12月 | 魚類 | 液浸標本 | 50 | 鹿児島県立博物館 | 企画展 |
| 2019年12月 | 魚類 | 筋肉組織 | 46 | 京都大学 | 研究 |
| 2019年12月 | 哺乳類 | 骨格標本 | 1 | 明治大学 | 研究 |
| 2019年12月 | 魚類 | 液浸標本 | 3 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2019年12月 | 魚類 | 筋肉組織 | 1 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2019年12月 | 魚類 | 液浸標本 | 58 | 高知大学 | 研究 |
| 2019年12月 | 魚類 | 標本画像 | 66 | 高知大学 | 研究 |
| 2019年12月 | 魚類 | 液浸標本 | 6 | 琉球大学 | 研究 |
| 2019年12月 | 魚類 | 筋肉組織 | 2 | 琉球大学 | 研究 |
| 2019年12月 | 魚類 | 標本画像 | 100 | 琉球大学 | 研究 |
| 2019年12月 | 魚類 | 液浸標本 | 2 | 筑波大学 | 研究 |
| 2020年1月 | 魚類 | 液浸標本 | 5 | フィリピン大学 | 研究 |
| 2020年1月 | 魚類 | 標本画像 | 6 | Delémont, Switzerland | 研究 |
| 2020年1月 | 魚類 | 液浸標本 | 7 | 北九州市立自然史・歴史博物館 | 研究 |
| 2020年1月 | 魚類 | 標本画像 | 49 | 北九州市立自然史・歴史博物館 | 研究 |
| 2020年2月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 宮崎大学 | 研究 |
| 2020年2月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 国立科学博物館 | 研究 |

| | | | | | |
|----------------|----|------|----|-----------|------------|
| 2020年2月 | 魚類 | 筋肉組織 | 1 | 九州大学 | 研究 |
| 2020年2月 | 魚類 | 液浸標本 | 7 | 九州大学 | 研究 |
| 2020年2月 | 魚類 | 筋肉組織 | 7 | 九州大学 | 研究 |
| 2020年2月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | 佐川印刷株式会社 | 愛媛のフリーマガジン |
| 2020年3月 | 魚類 | 液浸標本 | 6 | 鹿児島県立博物館 | 企画展 |
| 2020年3月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 朝日新聞 | 新聞 |
| 2020年3月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 読賣新聞 | 新聞 |
| 2020年3月 | 魚類 | 標本画像 | 6 | 南日本新聞 | 新聞 |
| 2020年3月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | MBC 南日本放送 | 放送 |
| 2020年3月 | 魚類 | 標本画像 | 3 | KKB 鹿児島放送 | 放送 |
| 2020年3月 | 魚類 | 液浸標本 | 57 | 西海区水産研究所 | 研究 |
| 2020年3月 | 魚類 | 液浸標本 | 11 | 近畿大学 | 研究 |
| 2020年3月 | 魚類 | 筋肉組織 | 6 | 近畿大学 | 研究 |
| 合計 74 件 2758 点 | | | | | |

3. その他の標本等の管理・利用

資料の登録 総合研究博物館開設当初に、農学部害虫学教室から移管された鹿児島高等農林学校の得業論文等のデータの登録を継続して行っている。

鹿児島高等農林学校の植物採集において、新聞には含まれたまま保管された予備標本が大量に存在しており、その標本および新聞の整理・登録を継続している。とくに新聞は他に残っていないような稀少なものを含む可能性があるため、新聞名・年月日等の基本情報に加えて、記載記事見出しのテキストデータの登録を行っている。2019年度は約700件ほどの登録を行った。

理学部地球環境科学科(旧地学科)から移管された化石標本について、標本収蔵状態に問題があり、資料情報も不明なものが多いため、整理・再収納を継続的にしている。19年度は約715件の整理を行った。

資料の受け入れ 森脇広・名誉教授の収集した地学標本を受け入れた。鹿児島県内のボーリングコア標本として以下のものがある。霧島市国分平野(火山灰調査)・垂水市柘原貝塚・鹿児島市思川。そのほかには、薩摩・大隅各地の桜島テフラ調査にかかわる土壌サンプル、種子島・口永良部島の土壌サンプルなどの地学標本などがある。

鹿児島県立博物館に長期貸し出ししていた重要鉱物標本(浦島標本)を6点を引き取り、収蔵した。標本概要は以下のとおりである。金銀鉱石(菱刈鉱山)・自然硫黄(牧園町硫黄谷?)・金鉱石(自然硫黄含有)(春日鉱山)・魚卵状珪華(牧園町坂下)・管状珪華(牧園町坂下)・木の実の化石(珪華)(牧園町坂下)。

教育学系生物技術学研究室より研究室に残されていた次の資料の寄贈を受けた。

機織り機：大島紬の織物作家の越間巽氏からの寄贈資料。

綿繰り機：島津斉彬の集成館事業を描いた「薩州鹿児島見取絵図」中の綿繰り機を玉川寛治氏が復元した資料。

ほか、教育学部の改修工事に伴って、技術・物理・地学教育で使用された以下のような教育史資料を受け入れた。

顕微鏡・化学天秤・上皿天秤・台秤・幾何立体模型・手回し計算機・計算尺・電卓・温度計・謄写板・投影機・スラウドプロジェクター・ポータブルオーバーヘッドプロジェクター・オシロスコープ・抵抗器・米穀検査機・鹿児島師範学校の机。

また、農学部よりベックマン水銀温度計、医学部より比重計各1点寄贈を受けた。

その他標本の利用状況

| 利用年月 | 標本・資料 | 利用形態 | 点数 | 利用先 | 目的 |
|----------|------------------------|----------|----|----------------|--------------------|
| 2019年5月 | 神領10号埴盾持人埴輪 | 借用 | 1 | 宮崎県立西都原考古博物館 | 特別展展示 |
| 2019年6月 | 新島軽石 | サンプリング | 一括 | 個人 | 微小組織解析 |
| 2019年6月 | 鹿児島高等農林学校農村調査報告 | 撮影 | 1 | 神崎市教育委員会市史編纂室 | 資料として利用 |
| 2019年8月 | 鹿児島高等農林学校農村調査報告・作物調査報告 | 撮影・計測 | 3 | 徳之島町教育委員会町誌編纂室 | 町史編纂にかかる調査 |
| 2019年8月 | 成川式土器写真 | 借用・掲載 | 1 | 中央公論社 | 広瀬和雄『前方後円墳とはなにか』掲載 |
| 2019年12月 | 成川遺跡空中写真 | 借用・掲載・展示 | 1 | 指宿市考古博物館 | 特別展展示・図録掲載 |
| 2019年12月 | 現生家畜骨格標本・遺跡出土動物遺体 | 撮影・計測 | 3件 | 個人 | 調査 |
| 2020年1月 | 鹿児島高等農林学校農村調査報告 | 掲載 | 2 | 徳之島町教育委員会町誌編纂室 | 町誌への翻刻掲載 |
| 2020年3月 | 岡崎18号墳出土鉄器 | 撮影 | 2 | 個人 | 調査 |
| 2020年3月 | 神領10号墳出土土器 | 借用 | 5 | 国立歴史民俗博物館 | 常設展示 |

8 2019年度 専任教員の活動業績

橋本達也 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「古代東アジアの王陵」担当

共通教育科目「博物館展示論」担当

共通教育科目「博物館教育論」担当

2) その他

「博物館実習」担当

教員免許状更新講習

放送大学 非常勤講師 面接授業「古墳と隼人による新しい古代史」

京都大学大学院文学研究科・文学部 非常勤講師(集中) 考古学特殊講義(「古墳時代の中心一周縁関係、広域交流論 一九州南部を中心に」) 2019年9月9日～12日

(2) 研究活動

1) 著書

共著(渡辺芳郎ほか11名) 2020.3『奄美群島の歴史・文化・社会的多様性』渡辺芳郎編 南方新社 pp.260
(「須恵器流通からみた南島と古墳社会の関係」pp.36-69)

共著(土生田純之ほか32名) 2020.2『横穴式石室の研究』同成社 500pp. (「地下式横穴墓の構造」pp.3-15)

2) 論文等(査読無)

橋本達也 2020.3「下北方5号地下式横穴墓出土の武装具の評価と被葬者像」『下北方5号地下式横穴墓』宮崎市文化財調査報告書第128集 宮崎市教育委員会 pp.197-208

橋本達也 2019.10「東アジアの甲冑副葬と古墳時代社会の特質」『古墳と国家形成の諸問題』白石太一郎先生傘寿記念論文集編集委員会 pp.407-412

橋本達也 2019.7「大隅・薩摩地域における古墳時代中期の集落と古墳」『集落と古墳の動態Ⅱ－古墳時代前期末～古墳時代中期－』九州前方後円墳研究会宮崎大会事務局 pp.217-230

3) 調査報告

中野和浩・竹中正巳・橋本達也 2020.3『島内地下式横穴墓群Ⅵ・灰塚地下式横穴墓群Ⅱ』えびの市教育委員会(「77号地下式横穴墓の胡籙」,pp.60～62、「島内164号～173号地下式横穴墓の三次元計測」pp.63-74)

4) その他

橋本達也 2020.3「諏訪コレクション5—古代土師器と縄文後期土器—」『鹿児島大学総合研究博物館 News Letter』No.45 鹿児島大学総合研究博物館 pp.10-11

橋本達也・相美伊久雄・大窪祥晃 2019.5「甲冑出土地下式横穴墓と古墳築造南限域の社会—鹿児島県志布志市原田3号地下式横穴墓の発掘調査—」『日本考古学協会第85回総会 発表要旨』日本考古学協会 pp.48-49

5) 学会・研究会発表

橋本達也 2019.7.7「大隅・薩摩地域における古墳時代中期の集落と古墳」『集落と古墳の動態Ⅱ』第22回九州前方後円墳研究会宮崎大会 九州前方後円墳研究会(都城市・宮崎)

橋本達也・相美伊久雄・大窪祥晃 2019.5.19「甲冑出土地下式横穴墓と古墳築造南限域の社会—鹿児島県志布志市原田3号地下式横穴墓の発掘調査—」『日本考古学協会第85回総会』日本考古学協会(駒澤大学・東京)

(3) 外部資金

研究分担者

基盤研究C. 2017～2019年度. 「古墳時代鉄鍬の変化と地域性に関する数理的解析」(研究代表者・松木武彦・国立歴史民俗博物館教授ほか2名との共同研究)

基盤研究 B. 2019～2022(2020)年度. 「「消滅」首長墳の再評価による古墳時代研究資料の基盤整備」(阪口英毅・京都大学大学院文学研究科助教ほか4名との共同研究)

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

文化財保存全国協議会全国委員
鹿児島県考古学会幹事
九州前方後円墳研究会幹事
東串良町唐仁古墳群保存活用検討委員会 委員 (鹿児島県肝属郡東串良町)

2) 公開講座等講師

2019年11月24日 えびの市歴史民俗資料館 企画展講演会「島内139号墓の調査とその後の新発見4—未盗掘古墳の世界—」えびの市文化センター大研修室
2019年11月9日 神奈川大学生涯学習エクステンション講座「考古学が描き出すヤマタイ国時代の列島の姿Ⅲ 古墳築造南限域の社会と広域交流—九州南部の古墳と隼人—」神奈川大学みなとみらいエクステンションセンター
2019年10月19日 宮崎市世界文化遺産登録推進事業・遊古館10周年記念講演「端っこの古墳文化を語る」九州南部の古墳から日本古代の国家形成を考える—端っこのは辺境ではない—」宮崎市教育委員会
2019年8月4日 堺市博物館特別展 百舌鳥古墳群—巨大墓の時代—関連講演会「百舌鳥・古市古墳群と九州南部の古墳」堺市博物館

3) 調査指導・協力

2020年3月3日 えびの市島内139号出土資料 調査指導
2019年8月16日 えびの市島内174号地下式調査指導
2019年6月24日 えびの市島内139号出土資料 調査指導

(5) 学内委員

放射線安全管理委員会委員
学芸員資格科目委員会委員
七十年史編集委員会委員
七十年史編集専門部会委員
総合研究博物館 第26回研究交流会「キリシタン考古学の最前線—遺跡・墓地・ミゲル墓所—」担当
総合研究博物館 学祭企画イベント「プレゼントグッズくじ!」担当
総合研究博物館 第19回特別展「タイ王国の化石—後期新生代の哺乳類化石の年代層序とその古環境—」担当

(6) 調査研究

大崎町神領10号墳の研究
えびの市島内139号地下式横穴墓出土資料調査

本村浩之 [教授]

(1) 教育活動

1) 専門教育

水産学研究科専門科目「修士研究ゼミⅠ」(前期)
水産学研究科専門科目「リーディングコースⅠ」(前期)
水産学研究科専門科目「総合型指導AⅡ」(前期)
水産学研究科専門科目「修士論文研究」(前期・後期)
水産学研究科専門科目「修士研究ゼミⅡ」(後期)
水産学研究科専門科目「リーディングコースⅡ」(後期)
水産学研究科専門科目「総合型指導AⅠ」(後期)
農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学倫理特論」
農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅰ」
農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅱ」
農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅲ」
農林水産学研究科専門科目「生物環境科学特別講義」
大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別演習」(前期・後期)
大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別研究」(前期・後期)

2) その他

博物館資料論(前期)
教員免許状更新講習(前期)
博物館実習(前期)
博物館実習(理系学部合同)事後指導(後期)

3) 研究教育

博士課程4人, 修士課程6人, 学部3人

(2) 研究活動

1) 研究論文(査読付)

Miki, R., H. Hata and H. Motomura. 2019 (May). Records of the barracuda *Sphyræna genie* from Japan, with notes on the taxonomic status of *Sphyræna nigripinnis* (Teleostei: Sphyrænidae). *Species Diversity*, 24: 23-27. (1 May 2019)

- 川路由人・瀬能 宏・武藤望生・本村浩之. 2019 (May). ハタ科イズハナダイ属魚類 *Plectranthias longimanus* ムラモミジハナダイ (新称), *P. nanus* チビハナダイ, および *P. winniensis* デイゴハナダイ (新称) の日本における記録と分類学的再検討. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.19-004 (28 May 2019), 66 (2): 137-154 (5 Nov. 2019).
- Hata, H., S. Lavoué and H. Motomura. 2019 (June). Taxonomic status of seven nominal species of the anchovy genus *Stolephorus* described by Delsman (1931), Hardenberg (1933), and Dutt and Babu Rao (1959), with redescriptions of *Stolephorus tri* (Bleeker 1852) and *Stolephorus waitei* Jordan and Seale 1926 (Clupeiformes: Engraulidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-019-00697-7 (10 June 2019), 67 (1): 7-38. (17 Jan. 2020)
- 吉田朋弘・萩原清司・本村浩之. 2019 (June). 石垣島から得られたハタ科魚類の稀種クレナイトゲメギス *Suttonia coccinea* の記録. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.19-008 (18 June 2019), 66 (2): 217-219 (5 Nov. 2019).
- Wibowo, K. and H. Motomura. 2019 (June). Redescription of the Indo-West Pacific scorpionfish *Scorpaena neglecta* Temminck & Schlegel 1843, a senior synonym of four nominal species (Teleostei: Scorpaenidae). Zootaxa, 4619 (2): 311-329. Doi: 10.11646/zootaxa.4619.2.7 (19 June 2019)
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2019 (June). *Kopua minima* (Döderlein 1887), a senior synonym of *K. japonica* Moore, Hutchins and Okamoto 2012, and description of a new species of *Aspasma* (Gobiesocidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-019-00701-0 (25 June 2019), 67 (1): 50-67. (17 Jan. 2020)
- Nakamura, J., P. Béarez and H. Motomura. 2019 (July). *Scolopsis lacrima*, a new species of monocle bream (Teleostei, Perciformes, Nemipteridae) from New Caledonia. ZooKeys, 861: 119-128. Doi: 10.3897/zookeys.861.35052 (8 July 2019)
- 和田英敏・伊東正英・本村浩之. 2019 (July). 鹿児島県から得られた日本初記録のアジ科魚類 *Trachinotus anak* ヨコヅナマルコバン (新称). 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.19-009 (9 July 2019), 66 (2): 181-186 (5 Nov. 2019).
- Wibowo, K. and H. Motomura. 2019 (July). *Scorpaena dabryi*, a junior synonym of *Scorpaena miostoma*, with notes on morphological ontogenetic changes (Teleostei: Scorpaenidae). Species Diversity, 24: 169-177. Doi: 10.12782/specdiv.24.169 (25 July 2019)
- Yoshida, T., T. Kawai and H. Motomura. 2019 (Aug.). *Gymnapogon sagittarius*, a new species of cardinalfish (Perciformes: Apogonidae) from the South China Sea and Andaman Sea. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-019-00706-9 (12 Aug. 2019), 67 (1): 92-97. (17 Jan. 2020)
- Hata, H. and H. Motomura. 2019 (Sept.). First records of the perciform fish *Nippon spinosus* from the Satsunan Islands, northern Ryukyu Islands, Japan. Biological Magazine Okinawa, 57: 201-209. (5 Sept. 2019)
- Bandai, A., T. Matsubara, R. Goto, T. Hayakawa, Y. Iwatsuki and H. Motomura. 2019 (Sept.). Sexual dichromatism and dimorphism in the goatfish *Parupeneus spilurus* (Perciformes: Mullidae) in southern Japan. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-019-00707-8 (14 Sept. 2019), 67 (1): 203-211. (17 Jan. 2020)
- Koeda, K., H. Motomura and H.-C. Ho. 2019 (Sept.). First record of a rare scorpionfish *Scorpaenopsis orientalis* (Actinopterygii: Scorpaeniformes: Scorpaenidae) from Taiwan. Acta Ichthyologica et Piscatoria, 49 (3): 305-309 (15 Sept. 2019). Doi: 10.3750/AIEP/02579
- Yoshida, T. and H. Motomura. 2019 (Sept.). First record of a rare cardinalfish *Apogon tricinctus* (Perciformes: Apogonidae) from Indonesia. Biogeography, 21: 56-59 (20 Sept. 2019)
- Yoshida, T., S. Harazaki and H. Motomura. 2019 (Sept.). Yellow-lined Cardinalfish *Ostorhinchus chrysotaenia* (Perciformes: Apogonidae) from Yaku Island, Osumi Islands; first specimen-based Japanese records, with an assessment of the holotype of the species. Species Diversity, 24 (2): 189-193 (25 Sept. 2019). Doi: 10.12782/specdiv.24.189
- Fujiwara, K., T. Suzuki and H. Motomura. 2019 (Oct.). Two new dwarfgobies (Gobiidae) from southern Japan: *Eviota amamiko* and *Eviota perspicilla*. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-019-00712-x (12 Oct. 2019), 67 (1): 139-154. (17 Jan. 2020)
- Hata, H. and H. Motomura. 2019 (Oct.). Two new species of *Thrissina* (Clupeiformes: Engraulidae) from the northern Indian Ocean and redescription of *Thrissina vitrirostris* (Gilchrist and Thompson 1908). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-019-00713-w (17 Oct. 2019), 67 (1): 155-166. (17 Jan. 2020)
- Wada, H., H. Hata and H. Motomura. 2019 (Oct.). First Northern Hemisphere record of a poorly known armored searobin *Peristedion richardsi* (Actinopterygii: Teleostei: Peristediidae) from Taiwan. Species Diversity, 24: 203-207. Doi: 10.12782/specdiv.24.203 (25 Oct. 2019)
- Takahashi, Y., S. Kimura and H. Motomura. 2019 (Nov.). A new sea catfish, *Netuma patriciae* (Siluriformes: Ariidae) from the Philippines. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-019-00719-4 (6 Nov. 2019), 67 (2): 264-273 (27 Apr. 2020)
- Okamoto, J., S. Tafzilveriam S. A. K., H. Motomura, T. N. A. M. Jaafar and Y. G. Seah. 2019 (Nov.). First records of the sole, *Aseraggodes kobensis* (Steindachner, 1896) (Pleuronectiformes, Soleidae), from Malaysia. Check List, 15 (6): 991-995 (15 Nov. 2019). Doi: 10.15560/15.6.991.
- Hata, H. and H. Motomura. 2019 (Dec.). *Sardinella alcyone* n. sp., a new sardine (Teleostei: Clupeiformes: Clupeidae) from the northwestern Pacific Ocean. Zootaxa, 4702 (1): 19-25. Doi: 10.11646/zootaxa.4702.1.6 (4 Dec. 2019)
- Wibowo, K., J. W. Johnson and H. Motomura. 2019 (Dec.). *Scorpaena regina*, a new species of scorpionfish (Teleostei: Scorpaenidae) from the east coast of Queensland, Australia. Zootaxa, 4706 (2): 296-310. Doi: 10.11646/zootaxa.4706.2.5 (9 Dec. 2019)
- 本村浩之・田口潤平・今村 央・松沼瑞樹. 2019 (Dec.). 高知県から得られた北西太平洋初記録のコチ科魚類 *Thysanophrys randalli* コクテクロシマゴチ (新称), および *T. chiltonae* クロシマゴチとの形態比較. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.19-034 (12 Dec. 2019), 67 (1): 1-9 (25 Apr. 2020)
- Hata, H. and H. Motomura. 2019 (Dec.). Validity of *Sardinella dayi* Regan 1917 and redescription of

- Sardinella jussieu* (Valenciennes 1847) (Teleostei: Clupeiformes: Clupeidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-019-00722-9 (17 Dec. 2019), 67 (2): 287-293 (27 Apr. 2020)
- 吉田朋弘・本村浩之. 2019 (Dec.). 石垣島から得られたテンジクダイ科魚類の稀種セノウヒカリイシモチ. 日本生物地理学会会報, 74: 50-53. (20 Dec. 2019)
- 渋谷駿太・伊東正英・桜井 雄・和田英敏・本村浩之. 2019 (Dec.). 薩摩半島と琉球列島から得られたテルメアジ (アジ科) の記録. 日本生物地理学会会報, 74: 84-89. (20 Dec. 2019)
- Hata, H., K. Koeda, H.-C. Ho and H. Motomura. 2019 (Dec.). First record of the Longfin Escolar *Scombrolabrax heterolepis* Roule, 1921 (Perciformes, Scombrobracoidei, Scombrobracidae) from Taiwan. *Platax*, 16: 83-89. Doi: 10.29926/PLATAX.201912_2019.0007
- Hata, H., S. Lavoué and H. Motomura. 2020 (Jan.). *Stolephorus babarani*, a new species of anchovy (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae) from Panay Island, central Philippines. *Zootaxa*, 4718 (4): 509-520. Doi: 10.11646/zootaxa.4718.4.5 (8 Jan. 2020)
- Wada, H., T. Suzuki, H. Senou and H. Motomura. 2020 (Jan.). *Plectranthias ryukyuensis*, a new species of perchlet from the Ryukyu Islands, Japan, with a key to the Japanese species of *Plectranthias* (Serranidae: Anthiadinae). *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-019-00725-6 (10 Jan. 2020), 67 (2): 294-307 (27 Apr. 2020)
- Inoue, Y., H. Endo, H. Motomura and M. Matsunuma. 2020 (Jan.). First Japanese record of the Fivebar Grouper *Epinephelus kupangensis* (Perciformes: Serranidae). *Species Diversity*, 25 (1): 39-47 (25 Jan. 2020). Doi: 10.12782/specdiv.25.39
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020 (Jan.). Revised diagnosis of the rare clingfish *Kopua nuimata* (Gobiesocidae) with notes on fresh coloration and first Australian record. *Species Diversity*, 25 (1): 49-54 (25 Jan. 2020). Doi: 10.12782/specdiv.25.49
- 吉田朋弘・萩原清司・本村浩之. 2020 (Jan.). 和歌山県から得られたテンジクダイ科魚類の稀種シキナミヤツトゲテンジクダイ *Neamia notula* の北限記録. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.19-047. (28 Jan. 2020), 67 (1): 107-110 (25 Apr. 2020)
- Uejo, T., H. Senou and H. Motomura. 2020 (Feb.). *Roa haraguchiae*, a new species of butterflyfish (Teleostei: Perciformes: Chaetodontidae) from Japan and the Philippines. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-020-00735-9 (13 Feb. 2020), 67 (3): 408-415 (30 June 2020)
- 出羽優風・桜井 雄・中村潤平・本村浩之. 2020 (Feb.). 琉球列島から得られたベラ科魚類 *Oxycheilinus arenatus* ヒイロモチノウオ (新称) および標準名モチノウオの再検討. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.19-049 (17 Feb. 2020), 67 (1): 67-71 (25 Apr. 2020)
- 鈴木悠理・遠藤広光・本村浩之・瀬能 宏・松沼瑞樹. 2020 (Feb.). 高知県および南シナ海南部から得られたハタ科 *Epinephelus craigi* スミツキアオハタ (新称) の記録およびアオハタモドキに適用すべき学名の再検討. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.19-041 (17 Feb. 2020), 67 (1): 31-40 (25 Apr. 2020)
- Fujiwara, K., K. Hagiwara and H. Motomura. 2020 (Feb.). Redescription of *Lepadichthys coccinotaenia* Regan 1921 and description of *Lepadichthys trishula* sp. nov. from southern Japan (Gobiesocidae: Diademichthyinae). *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-020-00737-7 (25 Feb. 2020), 67 (3): 422-438 (30 June 2020)
- Delloro Jr., E. S., H. Motomura and R. P. Babaran. 2020 (Feb.). Sexual dimorphism in the Spotted Stinger *Inimicus sinensis* (Valenciennes, 1833) and notes on pore structures on the body. *Philippine Journal of Systematic Biology*, 13 (1): 28-38. Doi: 10.26757/pjsb2019a13004 (25 Feb. 2020)
- 中村潤平・本村浩之. 2020 (Feb.). 鹿児島県から得られた日本初記録のエソ科魚類 *Saurida undosquamis* ツケアゲエソ (新称). タクサ, 48: 41-48. (29 Feb. 2020)
- 和田英敏・甲斐嘉晃・本村浩之. 2020 (Feb.). 岩手県沖から得られた北限記録のヘリキホウボウ *Peristedion riversandersoni*. および本種の標徴に関する新知見. タクサ, 48: 63-70. (29 Feb. 2020)
- Morishita, S., R. Miki, H. Wada, M. Itou and H. Motomura. 2020 (Mar.). Morphological comparisons of *Sphyraena genie* with *S. putnamae*, with a revised key to Indo-Pacific species of *Sphyraena* lacking gill rakers (Sphyraenidae). *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-020-00738-6 (7 Mar. 2020), 67 (3): 456-463 (30 June 2020)
- Hata, H. and H. Motomura. 2020 (Mar.). A new species of anchovy, *Encrasicolina sigma* (Teleostei, Clupeiformes, Engraulidae), from Sulawesi, Indonesia. *Zootaxa*, 4750 (2): 261-268. Doi: 10.11646/zootaxa.4750.2.9. (11 Mar. 2020)
- 中村潤平・本村浩之. 2020 (Mar.). 鹿児島湾から得られたハタ科魚類の稀種フタイロハナスズキ *Liopropoma dorsoluteum* の記録. 鹿児島大学水産学部紀要, 68: 19-23. (13 Mar. 2020)
- Cabebe, R. A., K. D. E. Barnuevo, J. Okamoto, R. P. Babaran, H. Motomura and J. E. Donato. 2020 (Mar.). First specimen-based record of *Eumegistus illustris* Jordan and Jordan, 1922 (Perciformes: Bramidae) from Panay Island, Philippines. *Memoirs of Faculty of Fisheries Kagoshima University*, 68: 25-29. (13 Mar. 2020)
- 森下悟至・三木涼平・瀬能 宏・本村浩之. 2020 (Mar.). 太平洋初記録のカマス科魚類 *Sphyraena arabiansis* ヤシカマス (新称) と本種の標徴に関する新知見, および *S. barracuda* オニカマスとの形態比較. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.19-051 (24 Mar. 2020), 67 (1): 73-83 (25 Apr. 2020)
- 中村潤平・福地伊美映・立原一憲・本村浩之. 2020 (Mar.). ハタ科魚類 *Cephalopholis polleni* ミナミハタの標本に基づく日本からの記録. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.19-044 (24 Mar. 2020), 67 (1): 123-128 (25 Apr. 2020)
- 2) 研究論文 (査読なし)
- 和田英敏・伊東正英・本村浩之. 2019 (Apr.). 薩摩半島南西岸から得られたオオクチケカツオの日本における3個体目の記録およびブリハダムシの新たな宿主事例. *Nature of Kagoshima*, 45: 323-327. (3 Apr. 2019)
- 荒木萌里・伊東正英・本村浩之. 2019 (Apr.). 薩摩半島西岸から得られた鹿児島県初記録のホシヨウジと九州沿岸初記録のホソウミヤッコ (ヨウジウオ科: ウミヤッコ属). *Nature of Kagoshima*, 45: 335-339. (10 Apr. 2019)

- 岡本 情・大富 潤・本村浩之. 2019 (Apr.). 大隅諸島種子島から得られたアジ科の稀種アンダマンアジ. Nature of Kagoshima, 45: 353-356. (18 Apr. 2019)
- 渋谷駿太・高山真由美・本村浩之. 2019 (Apr.). 種子島から得られた琉球列島初記録のクサカリツボダイ. Nature of Kagoshima, 45: 357-360. (18 Apr. 2019)
- 上城拓也・前川隆則・本村浩之. 2019 (Apr.). 奄美大島から得られた琉球列島初記録の黒褐色を呈するハモ. Nature of Kagoshima, 45: 367-371. (18 Apr. 2019)
- 中村潤平・本村浩之. 2019 (Apr.). トカラ列島平島から得られたネコザメ. Nature of Kagoshima, 45: 373-375. (18 Apr. 2019)
- 上城拓也・前川隆則・本村浩之. 2019 (Apr.). 奄美大島から得られた奄美群島初記録のミカツキツバメウオ. Nature of Kagoshima, 45: 377-379. (22 Apr. 2019)
- 森下悟至・本村浩之. 2019 (Apr.). 平島から得られた標本に基づくトカラ列島初記録のヒゲニジギンポ. Nature of Kagoshima, 45: 381-384. (23 Apr. 2019)
- 和田英敏・本村浩之. 2019 (Apr.). モヨウキカイウツボの奄美群島からの初めての記録. 本種の国内における分布記録の再検討, および水中写真に基づく *Uropterygius cf. polyspilus* の記録. Nature of Kagoshima, 45: 385-390. (23 Apr. 2019)
- 餅田 樹・森下悟至・本村浩之. 2019 (Apr.). 九州沿岸初記録のマツバギンポとフタホシニジギンポ. Nature of Kagoshima, 45: 391-396. (23 Apr. 2019)
- 藤原恭司・本村浩之. 2019 (May). 鹿児島県南さつま市における 2018-2019 年の魚類相調査で得られた九州沿岸初記録の魚類 9 種. Nature of Kagoshima, 45: 397-403. (3 May 2019)
- 藤原恭司・鈴木寿之・本村浩之. 2019 (May). 鹿児島県薩摩半島西岸から得られた九州初記録のハゼ亜目魚類 8 種. Nature of Kagoshima, 45: 405-410. (3 May 2019)
- 畑 晴陵・本村浩之. 2019 (July). 大隅半島東岸の内之浦湾から得られたキビレヒイラギ (スズキ目: ヒイラギ科). Nature of Kagoshima, 46: 33-37 (3 July 2019)
- 荒木萌里・日比野友亮・本村浩之. 2019 (July). 鹿児島県薩摩半島西岸から得られた九州沿岸初記録のタカムユウツボ. Nature of Kagoshima, 46: 49-52 (29 July 2019)
- 和田英敏・伊東正英・本村浩之. 2019 (Aug.). 薩摩半島西岸から得られた北限記録のオオフエフキ. Nature of Kagoshima, 46: 53-56 (7 Aug. 2019)
- 古橋龍星・本村浩之. 2019 (Aug.). 九州沿岸, 種子島, および沖永良部島から初めて記録されたチブルネッタイフサカサゴ. Nature of Kagoshima, 46: 57-61 (7 Aug. 2019)
- 古橋龍星・是枝伶旺・赤池貴大・本村浩之. 2019 (Sept.). 鹿児島県薩摩半島南岸から得られたミナミサルハゼとカマヒレマツゲハゼの記録 (ハゼ科: サルハゼ属) および両種の生息環境に関する新知見. Nature of Kagoshima, 46: 81-87 (5 Sept. 2019)
- Cabebe, R. A. and H. Motomura. 2019 (Oct.). Nomeid fishes (Perciformes) from Kagoshima Prefecture, southern Kyushu, Japan. Nature of Kagoshima, 46: 117-124 (9 Oct. 2019)
- Wibowo, K., S. Z. A. M. Zaidon and H. Motomura. 2019 (Oct.). Records of *Banjios banjos banjos* (Perciformes: Banjosidae) from Amami-oshima island, Amami Islands, Kagoshima Prefecture, Japan. Nature of Kagoshima, 46: 125-128 (9 Oct. 2019)
- Cabebe, R., T. Maekawa and H. Motomura. 2019 (Oct.). First specimen-based record of *Bodianus leucosticticus* (Perciformes: Labridae) from the Amami Islands, Japan. Nature of Kagoshima, 46: 129-132 (10 Oct. 2019)
- 畑 晴陵・本村浩之. 2019 (Oct.). 笠沙町沖から得られた薩摩半島初記録のニシン科魚類ミズン. Nature of Kagoshima, 46: 137-142 (11 Oct. 2019)
- 和田英敏・伊東正英・本村浩之. 2019 (Oct.). 薩摩半島南西沖から得られた東シナ海 3 例目のマルカワカジカ. Nature of Kagoshima, 46: 151-154 (18 Oct. 2019)
- 藤原恭司・久米 元・本村浩之. 2019 (Oct.). 鹿児島県から得られたシャチブuri科の稀種ヒョウモンシャチブuri. Nature of Kagoshima, 46: 155-158 (18 Oct. 2019)
- 吉田朋弘・高山真由美・本村浩之. 2019 (Oct.). 種子島から得られたコンゴウテンジクダイおよびスジイシモチ属魚類 8 種の標本に基づく記録. Nature of Kagoshima, 46: 163-166 (26 Oct. 2019)
- 本村浩之・宮原雄介・加藤昌一. 2019 (Oct.). 沖縄島で撮影されたマルスベカサゴ (フサカサゴ科: オニカサゴ属) の稚魚. Nature of Kagoshima, 46: 167-169 (26 Oct. 2019)
- 吉田朋弘・桜井 雄・高山真由美・本村浩之. 2019 (Nov.). 種子島から得られた大隅諸島初記録のカエルアンコウ. Nature of Kagoshima, 46: 181-183 (6 Nov. 2019)
- 荒木萌里・山田守彦・本村浩之. 2019 (Nov.). 鹿児島県本土におけるヨウジウオ科魚類タツノイトコの標本に基づく記録. Nature of Kagoshima, 46: 185-188 (8 Nov. 2019)
- 是枝伶旺・前川隆則・本村浩之. 2019 (Nov.). 奄美群島におけるメカジキの確かな記録. Nature of Kagoshima, 46: 189-191 (8 Nov. 2019)
- 伊藤大介・本村浩之. 2019 (Nov.). トカラ列島平島から得られた琉球列島近海におけるカガミダイの確かな記録. Nature of Kagoshima, 46: 203-206 (13 Nov. 2019)
- 渋谷駿太・高久 至・日比野友亮・本村浩之. 2019 (Nov.). 水中写真に基づく屋久島初記録のキリアナゴ. Nature of Kagoshima, 46: 207-209 (15 Nov. 2019)
- 本村浩之・原崎 森. 2019 (Nov.). 屋久島初確認のアカオビハナダイ (ハタ科ハナダイ亜科) および明治時代から現在までに屋久島から確認された魚類の総種数. Nature of Kagoshima, 46: 211-214 (16 Nov. 2019)
- 中村潤平・樋之口蓉子・本村浩之. 2019 (Nov.). 水抜き調査によって明らかになった鹿児島県霧島市国分広瀬の小村新田干拓潮遊池の魚類相. Nature of Kagoshima, 46: 225-230 (22 Nov. 2019)
- 中村潤平・原崎 森・本村浩之. 2019 (Dec.). 屋久島初記録のネコザメ. Nature of Kagoshima, 46: 251-253. (20 Dec. 2019)
- 古橋龍星・中村潤平・是枝伶旺・米沢俊彦・本村浩之. 2020 (Jan.). 鹿児島県北西部の川内川水系における定着が確認された国内外来魚 2 種 (ハスとギギ) の標本に基づく記録. Nature of Kagoshima, 46: 259-265. (4 Jan. 2020)
- 是枝伶旺・久木田直斗・本村浩之. 2020 (Jan.). 絶滅危惧魚類イドミズハゼの鹿児島湾からの初めての記録. Nature of Kagoshima, 46: 267-269. (4 Jan. 2020)

- 伊藤大介・平 瑞樹・S. Chungthanawong・K. Wibowo・上城拓也・中村潤平・R. A. Cabebe・荒木萌里・岡本 情・渋谷駿太・堀内大敬・出羽優風・本村浩之. 2020 (Jan.). 鹿児島県いちき串木野市新観音ヶ池の水抜き調査によって得られた魚類相の把握と在来種の保護. *Nature of Kagoshima*, 46: 275-278. (16 Jan. 2020)
- 古橋龍星・是枝伶旺・本村浩之. 2020 (Feb.). 徳之島初記録のナンヨウボウズハゼ. *Nature of Kagoshima*, 46: 307-310. (10 Feb. 2020)
- 中川龍一・伊東正英・本村浩之. 2020 (Feb.). 九州初記録のムラサキヌタウナギおよび鹿児島湾から得られたヌタウナギ属の未同定個体. *Nature of Kagoshima*, 46: 351-354. (15 Feb. 2020)
- 是枝伶旺・山下龍之丞・古橋龍星・斉藤洪成・本村浩之. 2020 (Feb.). 鹿児島湾初記録のミミズハゼ属3種(キマイラミミズハゼ・ヤリミミズハゼ・ナガミミズハゼ). *Nature of Kagoshima*, 46: 357-366. (21 Feb. 2020)
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020 (Mar.). An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1-125. (2 Mar. 2020)
- 中村潤平・前川隆則・本村浩之. 2020 (Mar.). 奄美大島から得られた国内2例目のウグイスゴマダラハタ. *Nature of Kagoshima*, 46: 495-498. (30 Mar. 2020)

3) 書籍

- 本村浩之・鈴木廣志. 2019 (Apr.). 第1部 南西諸島の生物地理, pp. 8-22. 鹿児島大学生物多様性研究会(編). 奄美群島の水生生物—山から海へ—生き物たちの繋がりに. 南方新社, 鹿児島.
- 本村浩之. 2019 (Apr.). 第4部 海中で暮らす生き物たち, 第4章 水塊で暮らす生き物たち, pp. 208-223. 鹿児島大学生物多様性研究会(編). 奄美群島の水生生物—山から海へ—生き物たちの繋がりに. 南方新社, 鹿児島.
- Motomura, H. 2019 (Dec.). Sebastidae, pp. 497-500; Neosebastidae, p. 501; Scorpaenidae, pp. 506-531; Synanceiidae, pp. 532-537; Tetrarogidae, pp. 538-540; Aploactinidae, pp. 541-542; Plectrogeniidae, p. 543; Polynemidae, pp. 891-892. In: Koeda, K. and H.-C. Ho (eds.), 2019. Fishes of southern Taiwan. Vols. 1-2. National Museum of Marine Biology & Aquarium, Pingtung.
- Motomura, H. 2020 (Mar.). Review of the ichthyofaunal studies in the Tokara Islands, southern Japan, pp. 153-163. In Otsuka, Y., R. Terada and S. Nishimura (eds.) *The Tokara Islands: Culture, Society, Industry and Nature*. Hokuto Shobou, Kyoto.
- 本村浩之. 2020 (May). 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 360 pp.

4) その他の出版物

- 本村浩之. 2019 (June). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 9 アオスミヤキ. さくらじまの海, 23 (1): 8.
- 本村浩之. 2019 (Sept.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 10 ウグイスゴマダラハタ. さくらじまの海, 23 (2): 8.
- 本村浩之. 2019 (Dec.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 11 ムラモミジハナダイ, No. 12 デイゴハナダイ, No. 13 トビイシハナダイ. さくらじまの海, 23 (3): 8.
- 本村浩之. 2020 (Mar.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 14 ツケアゲエソ. さくらじまの海, 23 (4): 8.
- 本村浩之. 2020 (Mar.). 奄美群島と周辺島嶼域の魚類相調査, pp. 54-55. 鈴木英治・河合 溪(編)平成28年度~令和元年度文部科学省特別経費(プロジェクト)薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備活動報告書. 南太平洋海域調査研究報告 No. 61.

5) 学会・シンポジウム等発表

- 本村浩之. 2019 (1 June). 琉球列島の海産魚類の多様性. 2019年度日本魚類学会 市民公開講座 世界自然遺産登録に向けて—琉球列島の魚類の多様性と次世代への継承—. 沖縄県立博物館美術館, 那覇市. Oral
- 和田英敏・伊東正英・本村浩之. 2019 (8-9 June). 日本初記録種のアジ科魚類 *Trachinotus anak* および近年鹿児島県本土近海から確認された南方系魚類成魚の偶来記録の総括. 日本動物分類学会第55回大会. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原. Poster
- Wibowo, K. and H. Motomura. 2019 (19-20 June). Taxonomic status of seven nominal species of the genera *Scorpaena* and *Scorpaenopsella* (Teleostei: Scorpaenidae). The Annual Conference of the Asian Society of Ichthyologists 2019. Syiah Kuala University, Banda Aceh, Aceh. Oral
- Wada, H., Y. Kai and H. Motomura. 2019 (19-20 June). Validity of the deepsea scorpionfish genus *Lythrichthys*, previously regarded as a junior synonym of *Setarches* (Setarchidae). The Annual Conference of the Asian Society of Ichthyologists 2019. Syiah Kuala University, Banda Aceh, Aceh. Poster
- Fujiwara, K., and H. Motomura. 2019 (24-28 July). Two undescribed species of the genus *Lepadichthys* (Gobiesocidae) from southern Japan and the Pitcairn Islands. Joint Meeting of Ichthyologists and Herpetologists (American Society of Ichthyologists and Herpetologists). Snowbird Ski and Summer Resort, Snowbird, Utah. Oral
- Fujiwara, K., T. Suzuki and H. Motomura. 2019 (2-9 Sept.). Two undescribed species of the genus *Eviota* (Gobiidae) from southern Japan. The 16th European Congress of Ichthyology. Aquatis Hotel and Aquatis Aquarium, Lausanne. Poster
- Okamoto, J. and H. Motomura. 2019 (2-9 Sept.). An undescribed species of the genus *Brachirus* (Soleidae) from Japan, Taiwan, and the Philippines. The 16th European Congress of Ichthyology. Aquatis Hotel and Aquatis Aquarium, Lausanne. Poster
- 畑 晴陵・S. Lavoué・本村浩之. 2019 (21 Sept.). フィリピンとマレーシアから得られたカタクチイワシ科インドアイノコイワシ属の2未記載種. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Oral
- 中村潤平・本村浩之. 2019 (21 Sept.). ホウセキハタ *Epinephelus chlorostigma* 類似種群の分類学的再検討. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Oral
- 和田英敏・甲斐嘉晃・本村浩之. 2019 (21 Sept.). シロカサゴ科シロカサゴ属魚類 *Setarches guentheri* の新参異名とされていた *S. fijiensis* の有効性. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市.

Oral

- 森下悟至・本村浩之. 2019 (21 Sept.). カマス科魚類 *Sphyræna novaehollandiæ* 類似種群の分類学的再検討. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Oral
- Delloro, E. S. Jr, H. Motomura and R. P. Babaran. 2019 (21 Sept.). Sexual dimorphism in the Spotted Stinger *Inimicus sinensis* (Valenciennes, 1833) and notes on pore structures on the body. The 52nd Annual Meeting of the Ichthyological Society of Japan. Kochi University, Kochi. Oral
- 泉 幸乃・遠藤広光・本村浩之. 2019 (21 Sept.). 鹿児島県与論島および台湾から得られたチゴダラ科チゴダラ属の1未記載種. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Poster
- 星野和夫・大澤洋太・本村浩之. 2019 (21 Sept.). フサカサゴ科マメサンゴカサゴ類似種群の分類学的再検討. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Poster
- 荒木萌里・本村浩之. 2019 (21 Sept.). ヨウジウオ科オクヨウジ属の分類学的再検討. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Poster
- Wibowo, K. and H. Motomura. 2019 (21 Sept.). An undescribed species of the genus *Scorpaena* (Teleostei: Scorpaenidae) from the east coast of Queensland, Australia. The 52nd Annual Meeting of the Ichthyological Society of Japan. Kochi University, Kochi. Poster
- 堀内大敬・甲斐嘉晃・本村浩之. 2019 (21 Sept.). ハオコゼ科ハチオコゼに確認された形態的二型. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Poster
- Chungthanawong, S. and H. Motomura. 2019 (21 Sept.). Review of the waspfish genus *Neocentropogon* (Tetrarogidae). The 52nd Annual Meeting of the Ichthyological Society of Japan. Kochi University, Kochi. Poster
- 渋谷駿太・本村浩之. 2019 (21 Sept.). マルキーズ諸島から得られたウミヒゴイ属の1未記載種. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Poster
- 出羽優風・桜井 雄・中村潤平・本村浩之. 2019 (21 Sept.). 沖縄県から得られた標本に基づく日本初記録のベラ科魚類 *Oxycheilinus arenatus*. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Poster
- 岡本 情・本村浩之. 2019 (21 Sept.). 日本産ササウシノシタ科ミナミシマウシノシタ属の分類学的再検討. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Poster
- 吉田朋弘・武藤望生・本村浩之. 2019 (22 Sept.). *Asperapogon* 属の有効性と1未記載属を含むコミナトテンジクダイ属の形態学的再定義 (スズキ目: テンジクダイ科). 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Poster
- 上城拓也・J. E. Randall・本村浩之. 2019 (22 Sept.). 西太平洋に分布するオハグロベラ属の1未記載種. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Poster
- 藤原恭司・本村浩之. 2019 (22 Sept.). ウバウオ科アンコウウバウオ属の分類学的再検討. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Poster
- Cabebe, R. A, R. P. Babaran, J. Okamoto and H. Motomura. 2019 (22 Sept.). New records of fishes from Panay Island, Philippines. The 52nd Annual Meeting of the Ichthyological Society of Japan. Kochi University, Kochi. Poster
- 伊藤大介・本村浩之. 2019 (22 Sept.). 甌島列島の魚類相. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Poster
- 武藤望生・柿岡 諒・本村浩之・武藤文人・武島弘彦・石川智士. 2019 (21 Sept.). Phylogeographic Concordance Factors による系統地理パターンの定量比較. 第52回日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知市. Poster
- 和田英敏・是枝伶旺・古橋龍星・本村浩之. 2020 (1 Feb.). 韓国原産淡水性魚類コウライオヤニラミの九州・大淀川水系における分布状況. 熊本野生生物研究会第54回会員研究発表会. 熊本市男女共同参画センターはもにい, 熊本市. Oral
- 中村潤平・本村浩之. 2020 (8-9 Feb.). 日本周辺海域におけるハタ科ハタ族魚類相. 第31回魚類生態研究会. 九州大学病院キャンパス, 福岡市. Oral
- 原田明里・本村浩之・川口眞理. 2020 (14 Mar.). ピグミーシーホースの抱卵時の腹腔の形態進化. 日本動物学会関東支部第72回大会. 慶應義塾大学日吉キャンパス, 横浜市.

(3) 外部資金

- 文部科学省 特別経費 - 地域貢献機能の充実 - 「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」(分担)
- オーストラリア連邦科学産業研究機関 助成金「オーストラリアの海産魚類の分類学的研究」(代表)
- 日本さかな検定協会・鹿児島大学産学・地域共創センター「南九州・南西諸島域における魚食文化継承のための魚介類情報収集に関する研究」(分担)
- 出水市 受託研究「高尾野川河口の生きもの調査」(代表)
- 日本学術振興会 科研費基盤研究(A)「鹿児島湾海底火山活動によって放出される水銀及びセレンの環境動態」(分担)

(4) 社会貢献・学外活動

- 日本魚類学会 代議員
- 日本魚類学会 学会賞選考委員会 委員
- 日本魚類学会 2019年度日本魚類学会優秀発表賞選考委員会 委員
- 日本魚類学会 ABS対策チーム 委員
- 日本生物地理学会 評議員
- 国際自然保護連合 種の保存委員
- オーストラリア博物館 客員研究員
- かごしま水族館 評議員
- 鹿児島県自然環境保全協会 理事
- 鹿児島県純心女子短期大学 非常勤講師

桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 委員
フィリピン生物分類学雑誌 編集顧問
マレーシア・トレンガヌ大学 教授/准教授昇進外部人事評価委員

(5) 学内委員等

総合研究博物館 館長
総合研究博物館 企画展「薩摩半島の魚類」in 笠沙恵比寿 企画・担当
総合研究博物館 企画展「薩摩半島の魚類」in 鹿児島大学 企画・担当
総合研究博物館 学祭企画イベント「サメに触ろう！」 企画・担当
総合研究博物館 第37回市民講座「ミステリーサークルをつくるフグ」in 鹿児島大学 企画・担当
総合研究博物館 特別講演会「ミステリーサークルをつくるフグ」in かごしま水族館 企画・担当
総合研究博物館 ミニ企画展「アマミホシゾラフグのすべて」 企画・担当
ABS推進室 委員
企画・評価委員会 委員
男女共同参画推進センター 委員
グローバルセンター 兼務教員
国際島嶼教育研究センター 兼務教員
大学院連合農学研究科入試委員会 委員
大学院連合農学研究科 学位論文審査委員会 委員

(6) 報道関係

Here are 4 new fish species from Manila Bay, Batangas, and Mindoro. Flip Science, 5 April 2019
Propherallodus longipterus, an Adorable New Clingfish from the Philippines. Reef Builders, 1 May 2019
世界さまあ〜リゾート。ベトナム・ホイアンのお得スポット SP. TBS, 2019年5月11日, 0:00〜(魚の同定と解説)
世界さまあ〜リゾート。ベトナム ビーチリゾート ダナン おすすめスポット. TBS, 2019年5月18日, 0:00〜(魚の同定と解説)
世界さまあ〜リゾート。放送300回 ナイープ大竹パラオ絶景 SP. TBS, 2019年6月22日, 0:00〜(魚の同定と解説)
天草諸島 下島の海. NHK さわやか自然百景. NHK, 2019年6月23日, 7:45-7:59(再放送6月29日, 6月30日, 7月1日)
世界さまあ〜リゾート。ナイープ大竹パラオ癒しスポット SP. TBS, 2019年6月29日, 0:00〜(魚の同定と解説)
世界さまあ〜リゾート。一生に一度は行ってみたいタヒチ・ボラボラ島王道 SP. TBS, 2019年7月6日, 0:00〜(魚の同定と解説)
世界さまあ〜リゾート。タヒチ島&セレブな離島ゴージャスからリーズナブルまで丸ごと楽しんじゃうぞ SP. TBS, 2019年7月20日, 0:00〜(魚の同定と解説)
大型アジ「ヨコヅナマルコバン」 笠沙沖で発見 大相撲ファンの鹿大院生命名. 南日本新聞, 2019年7月25日
潜れ! さかなクン 火の島 薩摩硫黄島の海へ. MHK 総合, 2019年8月3日, 19:30-20:43(再放送2020年7月23日, 8:43-9:56)
世界さまあ〜リゾート。まだ間に合う! 沖縄本島最新スポット SP. TBS, 2019年8月10日, 0:00〜(魚の同定と解説)
初確認 ビッグな「ヨコヅナ」鹿児島. 読売新聞, 2019年8月15日
世界さまあ〜リゾート。この夏行きたい! 宮古諸島徹底攻略 SP. TBS, 2019年8月17日, 0:00〜(魚の同定と解説)
笠沙の魚類600種ざらり。鹿大図書館で標本展. 南日本新聞, 2019年9月6日
世界さまあ〜リゾート。インドネシア・バリ島 お得情報 SP. TBS, 2019年9月7日, 0:00〜(魚の同定と解説)
企画展「薩摩半島の魚類」。情報WAVE かごしま. NHK 鹿児島, 2019年9月11日 18:10-
世界さまあ〜リゾート。インドネシア・バリ島 話題のサービス徹底調査. TBS, 2019年9月14日, 0:00〜(魚の同定と解説)
和名「ヤクシマダテイシモチ」屋久島・原崎さん 発見15年 念願かなう. 南日本新聞, 2019年9月30日
世界さまあ〜リゾート。さまあ〜ずがサンディエゴ現地調査 SP. TBS, 2019年10月12日, 0:00〜(魚の同定と解説)
新種ハゼ2種、鹿児島大発見 奄美大島と加計呂麻島にも生息. 南海日日新聞, 2019年10月17日
県内生息ハゼ2新種発見 鹿大大学院・藤原さんら論文. 南日本新聞, 2019年10月17日
世界さまあ〜リゾート。さまあ〜ず&すみれ サンディエゴ マストタウン調査. TBS, 2019年10月19日, 0:00〜(魚の同定と解説)
世界さまあ〜リゾート。さまあ〜ずがサンディエゴ現地調査SP第3弾. TBS, 2019年10月26日, 0:00〜(魚の同定と解説)
池の水抜き 外来種駆除 いちき申木野. 南日本新聞, 2019年10月28日
ヤクシマ(屋久島)の名を冠した4種目の魚が誕生 発見から15年念願かなう。標準和名「ヤクシマダテイシモチ」。やくしま町報, 2019年11月号 (No. 146): 8.
鹿児島島の海は「魚種日本一」鹿大、シンボで紹介。水産のことをもっと知ろう。南日本新聞, 2019年11月11日
ザ! 鉄腕! DASH!! DASH 海岸. 日本テレビ, 2019年11月17日, 19:00-19:58
ハゼ新種2種類命名 鹿大大学院生 藤原さん研究. 読売新聞, 2019年11月20日
世界さまあ〜リゾート。オーストラリア ケアンズの魅力をまるごと紹介 SP. TBS, 2019年11月30日, 0:00〜(魚の同定と解説)
世界さまあ〜リゾート。オーストラリア ゴールドコースト エキサイティングスポット情報 SP. TBS, 2019年12月7日, 0:00〜(魚の同定と解説)
世界さまあ〜リゾート。平野ノラ フィジー七変化レポート SP. TBS, 2019年12月14日, 0:00〜(魚の同定と解説)
世界さまあ〜リゾート。フィジー マストスポット SP. TBS, 2019年12月21日, 0:00〜(魚の同定と解説)
世界さまあ〜リゾート。ハワイ・ワイキキ 王道スポット SP. TBS, 2019年12月28日, 0:00〜(魚の同定と解説)
世界さまあ〜リゾート。ハワイ・おすすめスポット SP. TBS, 2020年1月4日, 0:00〜(魚の同定と解説)
世界さまあ〜リゾート。クイズハンター日村 in フィリピン・ボラカイ島. TBS, 2020年1月11日, 0:00〜(魚の同定と解説)
国内2例目、ウグイスゴマダラハタ 鹿大総合研究博物館が鑑定 昨年末、名瀬漁協に水揚げ。奄美新聞, 2020年1月16日
世界さまあ〜リゾート。クイズハンター日村 ボラカイ島現地調査 SP. TBS, 2020年1月18日, 0:00〜(魚の同定と解説)
世界さまあ〜リゾート。未開のリゾート地 セントマーチン島 SP. TBS, 2020年1月25日, 0:00〜(魚の同定と解説)
世界さまあ〜リゾート。未開のリゾート地 セントマーチン島 SP2. TBS, 2020年2月1日, 0:00〜(魚の同定と解説)

ハタ科の魚 実は新種/チュラシマハナダイ/美ら海水族館 鹿大研究で判明. 沖縄タイムス, 2020年2月4日
 新種だった…美ら海水族館で別名展示された時期も. 沖縄タイムス, 2020年2月5日
 目がくりくり、愛くるしい姿 世界初、新種の深海魚を展示 美ら海水族館で「チュラシマハマダイ」. 琉球新報, 2020年2月5日
 沖縄の美ら海水族館でまたも世界初展示 琉球列島固有の深海魚. 沖縄テレビ, 2020年2月5日
 不思議いっぱい!奄美 奇跡の海. かごスピ. NHK, 2020年2月14日(19:30-19:55), 2020年2月15日(07:35-08:00)
 パンダゲンロクダイ、チョウチョウウオの新種発見 鹿児島湾で鹿大研究チーム. 南日本新聞, 2020年2月19日
 海のパンダ?新種の魚 鹿大チームが発見 学生が命名も. KKB鹿児島放送, 2020年2月19日, 18:33~
 世界さまぁ〜リゾート. タイの秘境 クラビ最新情報SP. TBS, 2020年2月22日, 0:00~(魚の同定と解説)
 和名「ヒイロモチノウオ」 鹿大チームが国内初標本 水産学部1年・出羽さん命名. 南日本新聞, 2020年2月25日
 世界さまぁ〜リゾート. タイの秘境 ランタ諸島徹底解剖SP. TBS, 2020年2月29日, 0:00~(魚の同定と解説)
 鹿児島大など、サンゴ・海藻に擬態するタツノオトシゴ属2種を日本初確認. 環境展望台, 2020年3月2日
 タツノオトシゴ属2種を沖永良部島沖で国内初記録. 南海日日新聞, 2020年3月3日
 かも 魚に魅了された鹿児島大学大学院2年 上城拓也さん. 南日本新聞, 2020年3月8日
 日本初記録の魚種を特定 鹿児島大学の大学生. 読売新聞, 2020年3月12日
 パンダ色のチョウチョウウオ 新種 深場に生息し白黒模様!? 朝日新聞, 2020年3月14日
 世界さまぁ〜リゾート. さまぁ〜ず&ファーストサマーウイカ フィリピン・セブ島 現地調査SP. TBS, 2020年3月14日, 0:00~(魚の同定と解説)
 鹿児島大、エソ科マエソ属魚類「ツケアゲエソ」を発表. 環境展望台, 2020年3月17日
 鹿大生「未知の魚」を発見. KKB鹿児島放送, 2020年3月19日, 18:15-19:00
 鹿大院生が国内初の魚発見! MBC 南日本放送, 2020年3月19日, 18:15-19:00
 つけあげ原料「ツケアゲエソ」 鹿大大学院・中村さんが命名. 南日本新聞, 2020年3月22日
 鹿児島大、エソ科マエソ属魚類「ツケアゲエソ」を発表. 環境展望台, 2020年3月17日

大西佳子 [助教]

出版物

大西 佳子 2020「For Mac Office365、Excelの検索抽出のプログラム」『鹿児島大学総合研究博物館 NewsLetter』No.45

田金秀一郎 [特任助教]

(1) 教育活動

1) 全学共通教育

集中講義「屋久島の環境文化Iー植生ー」(後期)

2) その他

博物館資料論(前期)

博物館実習(前期)

博物館実習事前事後指導(前期)

理学部地域自然環境実習(前期)

理学部野外生態実習(後期)

(2) 研究活動

1) 研究論文(査読付)

Zhang M., Yahara S., Tagane S., Rueangruea S., Suddee S., Moritsuka E., Suyama Y. 2020 (Mar). *Cryptocarya kaengkrachanensis*, a new species of Lauraceae from Kaeng Krachan National Park, southwest Thailand. *PhytoKeys* 140: 139-157.

Toyama H., Mu Mu Aung, Tagane S., Naiki A., Suddee S., Nagamasu H., Nagahama A., Swe Swe Win, Tanaka N., Yahara T. 2020. Contributions to the Flora of Myanmar V: a new record of *Mallotus tokiaë* (Euphorbiaceae) with the description of flower morphology from Lampi Island, Myanmar. *Thai Forest Bulletin, Botany* 48(1): 1-6.

Tagane S., Maruno K. 2019. Natural Hybrid of *Arisaema* (Araceae) from Shimokoshiki Island, Japan. *Journal of Japanese Botany*, accepted. [in Japanese].

Tagane S., Kameda C., Phouphasouk S., Souladeth P. 2019. *Gluta laosensis* (Anacardiaceae), a new species from Vientiane, Laos. *Phytotaxa* 415(3): 153-156.

Middleton D.J., Armstrong K., Baba Y., Balslev H., Chayamarit K., Chung R.C.K., Conn B.J., Fernando E.S., Fujikawa K., Kiew R., Luu H.T., MuMu Aung, Newman M.F., Nobuyuki T., Tagane S., Thomas D.C., Tran T.B., Utteridge T.M.A., van Welzen P.C., Widyatmoko D., Yahara T., Wong K.M. 2019. Progress on Southeast Asia's Flora projects. *The Gardens' Bulletin Singapore* 71: 267-319.

Tagane S., Rueangruea S., Nagamasu H., Suddee S. 2019. Two new species and one new record of *Dichapetalum* (Dichapetalaceae) in Thailand. *Thai Forest Bulletin, Botany* 47(2): 133-144.

Tanaka Nob., Nagamasu H., Tagane S., Mu Mu Aung, Aung Khaing Win, Phyu Phyu Hnin. 2019. Contributions to the Flora of Myanmar IV: A new species and a newly recorded taxon of the genus *Sapria* (Rafflesiaceae). *Taiwania* 64(4): 357-362.

田金秀一郎・丸野勝敏. 2019. 下甌島におけるテンナンショウ属(サトイモ科)の自然雑種 *Arisaema ringens* × *japonicum*. *日本植物研究雑誌* 94: 366-368.

Larridon I., Tanaka N., Tanaka Nob., Liang Yuxi, Barfod A., Cho S.-H., Gale S., Jobson R., Kim Y.-D., Li

- J., Muasya A.M., Parnell J., Philips S., Prajaksood A., Shuto K., Souladeth P., Tagane S., Yano O., Mesterházy A., Newman M., Ito Y. 2019. First molecular phylogenetic insights into the evolution of *Eriocaulon* (Eriocaulaceae, Poales). *Journal of the Plant Research* 132: 589-600.
- Nagahama A., Tagane S., Souladeth P., Sengthong A., Yahara T. *Gentiana bolavenensis* (Gentianaceae), a new species from Dong Hua Sao National Protected Area, southern Laos. *Thai Forest Bulletin, Botany* 47(2): 133-136.
- Oguri E., Tagane S., Dang V.-S., Yang C.-J., Toyama H., Tran H., Murakami N., Yahara T. 2019. A new species of *Gynochthodes* (Rubiaceae), *G. honbaensis* from Hon Ba Nature Reserve, southern Vietnam. *Phytotaxa* 406: 213-217.
- Souladeth, P., Tagane S., Yahara T. 2019. Flora of Nam Kading National Protected Area V: Two new species of *Camellia* (Theaceae), *C. namkadingensis* and *C. roseacea*. *Thai Forest Bulletin, Botany* 47(1): 84-90.

2) 研究論文 (査読無)

- 田金秀一郎. 2019. 第17回日本植物分類学会奨励賞 受賞記念論文「東南アジアの植物インベントリーから分かったこと」. *植物地理・分類研究* 67(1): 1-11.
- 田金秀一郎・丸野勝敏・鈴木英治. 2019. ハリガネワラビとヤワラシダ (ヒメシダ科) をトカラ列島中之島に記録する. 46: 231-234.
- 田金秀一郎. 2019. 鹿児島県におけるニホンカモシカの日撃報告. *Nature of Kagoshima* 46: 111-112.

3) 学会・シンポジウム等発表

- 手塚賢至・山下大明・斉藤俊浩・田金秀一郎・布施健吾・廣田峻・手塚田津子・手塚木咲. 2019年12月12月. 屋久島低地照葉樹林帯における植物種多様性評価 2019年版. 屋久島学ソサエティ. 屋久島町総合センター, 屋久島町. Poster
- 永濱藍・田金秀一郎・陶山佳久・矢原徹一. 南ベトナム熱帯山地林の種多様性とフェノロジー. 2019年12月. 種生物学会第18回大会. コテージヒムカ, 宮崎県. Oral (invited speaker)
- 田金秀一郎・鈴木英治. 2020年3月. 鹿児島県総合研究博物館の植物標本室 (KAG) の紹介. 日本植物分類学会第19回大会. 岐阜大学, 岐阜市. Oral

(3) 外部資金

- 日本学術振興会 科研費基盤研究 (C) 「次世代シーケンサー導入による植物相調査の迅速化～ベトナム中部高原地帯を事例として」(分担)
- 一般財団法人沖縄美ら島財団 共同研究「西表島植物誌編纂に係る植物標本データベースの作成」
- 長尾自然環境財団 研究者育成支援プログラム (CGF) 「Floristic inventory and plant diversity assessment of Bolaven Plateau, southern Laos」(プロジェクトコーディネーター)
- プロ・ナトゥーラ・ファンズ 第30期助成「世界自然遺産候補地奄美群島の森林生態系に関する基礎的研究」(分担)

(4) 社会貢献・学外活動

- 日本植物分類学会 標本問題対応委員会 委員
- 日本植物分類学会 普及推進委員会委員 委員
- 一般財団法人 沖縄美ら島財団 西表島植物誌編纂事業 協力委員
- 鹿児島植物研究会 会誌編集委員
- 屋久島照葉樹林ネットワーク 会員
- 首都大学東京 客員研究員

(5) 学内委員等

- 鹿児島大学理学部地球環境学科 非常勤講師
- 総合研究博物館 第1回バックヤードツアー「植物標本室」企画・担当
- 総合研究博物館 第19回自然観察ツアー「寺山の植物」企画・担当

(6) 主な調査研究 (学会や会議は除く)

- 2019年4月7日 日置市の植物相調査
- 2019年5月4日 下甌島の植物相調査
- 2019年5月6日 大隅半島の植物相調査
- 2019年5月12日 霧島山の植物調査
- 2019年6月15-25日 西表島の植物相調査
- 2019年7月2-12日 ラオス・Bolaven 台地の植物相調査
- 2019年8月19-22日 ベトナム・Kon Chu Rang 自然保護区の植物相調査
- 2019年8月23-25日 ベトナム・Kon Ka Kinh 自然保護区の植物相調査
- 2019年9月14日 伊佐市の植物相調査
- 2019年9月27-29日 甌島列島の植物相調査
- 2019年10月8-9日 トカラ列島中之島の植物相調査
- 2019年10月13日 屋久島の植物相調査
- 2019年10月16-17日 高隈山系の植物相調査
- 2019年10月20-24日 鹿児島県北部～宮崎県南部の植物相調査
- 2019年11月2-3日 上・中甌島の植物相調査
- 2019年11月17日 さつま町の植物相調査
- 2019年11月20-28日 マレーシア・ランビルヒルズ国立公園の植物相調査、サラワク森林局植物標本館の標本調査
- 2019年12月17-22日 ラオス・Bolaven 台地の植物相調査
- 2020年2月10-14日 徳之島の植物相調査
- 2020年2月15-19日 奄美大島の植物相調査

鹿児島大学総合研究博物館
第19回 特別展



Biostratigraphy and Paleoenvironments of
mammalian fossils from the Late Cenozoic Thailand

大学院理工学研究科
仲谷英夫教授の長年にわたる調査と
その標本を紹介します。

2019.
12.16(月)
~1.16(木)
10:00 ~17:00 入場無料

場所

鹿児島大学附属図書館
1F ギャラリー アトリウム

休館日

12/27~1/5,1/13

後期新生代の哺乳類化石の
年代層序とその古環境

ギャラリートーク：講師 仲谷英夫

12/17(火)・1/9(木) 12:15~12:45 展示会場にて



タイ王国 化石の王国



鹿児島大学総合研究博物館 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30
099-285-8141 <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿兒島大学
総合研究博物館
第26回研究交流会

2018年、世界遺産に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が登録されました。近年、戦国時代のキリシタン遺跡で新たな調査・発見が続いています。講師は千々石ミゲル基の調査など、その最先端研究を主導する一人です。

キリシタン考古学の最新動向
—遺物・墓地・ミゲル墓所—

田中裕介 別府大学教授
2019年7月27日
13:30～15:00
場所：鹿兒島大学総合教育研究棟
102講義室（入場無料）
車でお越しの方は13:05～13:20の間に図書館側ゲートをお通りください



鹿兒島大学総合研究博物館
099-285-8141
<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿兒島大学総合研究博物館 2019年度イベント
自然体験ツアー & バックヤードツアー

1) 第19回自然体験ツアー
寺山の植物
日時：2019年8月3日（土）9:00～15:30
場所：鹿兒島大学教育学部 寺山自然教育施設（〒892-0871 鹿兒島市吉野町10857-1）※現地集合・解散
案内者：田金秀一郎（鹿兒島大学総合博物館）
参加費：100円（保険料）
持参物：弁当・飲み物（剪定ばさみやルーペ、デジカメなどがあると良いです）
※小雨決行、大雨の場合は中止
※ハイキングのできる服装でご参加ください
地域にはどんな植物が生えている？
鹿兒島市郊外の寺山で植物標本の作成を通して地域の自然を調べる学術的手法について解説します



2) 第1回バックヤードツアー
植物標本庫
日時：2019年8月10日（土）9:00～12:00
場所：鹿兒島大学都元キャンパス内 総合研究博物館植物標本庫（共同利用棟2階）※現地集合・解散
案内者：田金秀一郎（鹿兒島大学総合博物館）
植物標本庫はどこなところ？
何のために存在するのか？
普段入らない鹿兒島大学総合研究博物館の植物標本室において、植物標本の取り扱いと研究の意義について解説します



申込方法：次の事項をハガキ、FAX、またはemailに明記し、下記までお送りください。個人情報はこの企画の目的以外には使用致しません。参加決定者には後日詳しいプログラムをお送りします。

- ① 参加を希望するイベント名
- ② 参加希望者全員分の氏名・年齢
- ③ 住所
- ④ 電話番号、FAXまたはemailアドレス

応募締切：2019年7月16日（火）16:00必着
定員：寺山の植物 7名
植物標本庫 5名（どちらも希望者が定員を超えた場合は抽選となります）

応募先：鹿兒島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿兒島市都元1-2-30
Tel: 099-285-8141 Fax: 099-285-7267 email: info@kaum.kagoshima-u.ac.jp
<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp>

鹿兒島大学総合研究博物館 第37回市民講座/かごしま水族館 特別講演会

ミステリーサークルをつくる
フグ

アマミホシゾラフグは全長わずか10cmの小さな体で直径2mもある精巧な円形幾何学模様の構造物を海底につくります。いったいフグがどのように、何のためにこのミステリーサークルをつくるのか、ビデオを交えて解説します

2020年1月11日（土）川瀬裕司氏 千葉県立中央博物館分館 海の博物館主任上席研究員

10:00～12:00 講演&展示解説（大学生・一般向け）
アマミホシゾラフグの繁殖行動をはじめ、ミステリーサークルの3D構造や形成メカニズムについて解説します。講演後に総合研究博物館学芸展示室へ移動して実物のアマミホシゾラフグ標本とフグの標本を展示します
会場：鹿兒島大学連合農学研究所3階会議室
無料/事前申し込み不要

14:30～15:15 講演&フリートーク（小中高生・一般向け）
アマミホシゾラフグの生態とミステリーサークルの構造をわかりやすく解説します
会場：かごしま水族館1階レクチャールーム
無料/事前申し込みが必要（下記参照）

申込方法：参加者全員の氏名、年齢、代表者の郵便番号、住所、電話番号、メールアドレスを記入の上、はがきでお申込ください。また、かごしま水族館のホームページの専用応募フォームからご応募いただけます。
申込先：〒810-0814 鹿兒島市本港新町3-1 かごしま水族館（特別講演会係）
申込時期：1月6日（月）先着50名（定員に達しない場合は当日参加可）

鹿兒島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿兒島市都元1-21-36
Tel: 099-285-8141 Fax: 099-285-7267
URL: www.museum.kagoshima-u.ac.jp

いおワールドかごしま水族館
〒813-0214 鹿兒島市本港新町3-1
Tel: 099-236-2211 Fax: 099-223-2602
URL: <http://www.ioworld.jp>

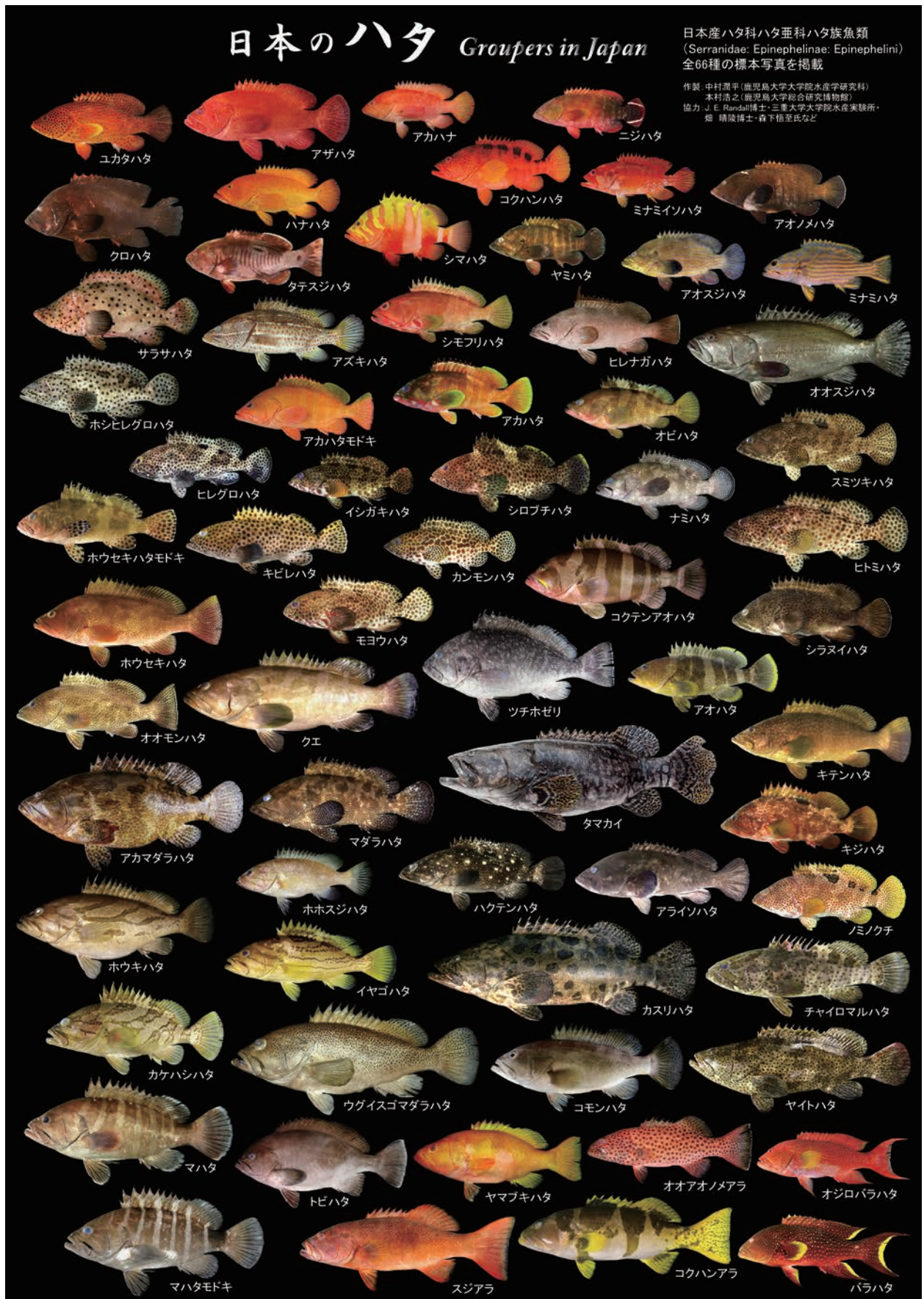
鹿兒島大学総合研究博物館 ミニ企画展

アマミホシゾラフグのすべて

アマミホシゾラフグは全長わずか10cmの小さな体で直径2mもある精巧な円形幾何学模様の構造物を海底につくります。いったいフグがどのように、何のためにこのミステリーサークルをつくるのでしょうか

2020年1月11日（土）～3月31日（火）

アマミホシゾラフグの生態を研究されている、千葉県立中央博物館分館・海の博物館の川瀬裕司氏がこれまでに明らかにされた研究成果を紹介します。また、本種が新種として記載された際に使用された標本も特別公開します。



11 総合研究博物館の組織－ 2020 年度－

2019 年と変更なし。

12 2020 年度の企画事業

1. 研究交流会

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の拡がりを受けて実施しなかった。

2. 市民講座

第 38 回市民講座「有明海の干潟の生物と人々の暮らし」

以下のように企画したが、COVID-19 の拡大のため中止した。

2021 年 1 月 23 日（土）15:00～16:30。場所：鹿児島大学 郡元キャンパス 農・獣医共通棟 101 講義室。
講師：佐藤正典（鹿児島大学理工学域・理学系 教授）。定員：なし（入場無料）

【要旨】 干潟は、海と陸の境界にあって、古来、豊富な魚介類を養ってきたが、沿岸開発や防災という名目で破壊され続けている。有明海では、日本中で姿を消した貝やゴカイがまだ生き残っており、人々の伝統的な漁業も今まで維持されてきた。それがどんなにかけがえのないことなのか、伝えたいと思う。

3. 公開講座

第 20 回自然体験ツアー「磯間岳の植物」

2021 年 3 月 13 日（土）9：00～12：00。南薩の名峰である磯間岳（標高 363 m）に生育する植物を解説するイベントとして開催した。当初は 2020 年 10 月の催行を予定していたが、コロナ禍により延期して状況を見極め、年が明けてから少人数限定で実施した。70 代男性 1 名、20 代女性 2 名の計 3 名の参加者があり、磯間岳の岩稜コースを登り、大浦登山口方面に下山した。イベント催行



第 20 回 自然体験ツアー

時期を3月にずらしたために、開花・結実している植物にはあまり出会えなかったが、ロープや鎖場のある岸壁や展望の良い稜線の連続で、参加者一同、純粹に登山を楽しんだ。

4. 第20回特別展 「有明海の干潟の生物と人々の暮らし」

2021年1月14日（木）～2月10日（水）（10：00- 17：00）まで、鹿児島大学郡元キャンパス中央図書館のギャラリー“アトリウム”で開催した。

鹿児島大学理学系 佐藤正典 教授が長年、調査研究を続けてきた有明海の干潟の生物と人々の暮らしについての展示である。干潟で見られる多種多様な生物について、鹿児島湾 重富干潟のゴカイ（NPO 法人「くすの木自然館」浜本麦氏のご協力）と比較しながら、標本や写真（長崎県諫早市 富永健司氏のご協力）で紹介した。会期中、佐藤氏による展示解説を2回（1/19、1/26）行った。会場係を常時、配置しなかったため、見学者数はカウントしていない。

なお、特別展の解説を NewsLetter 46 号、特別展号として発行した。



第20回 特別展

5. その他の活動

(1) 特別公開「南西諸島で国内35年ぶり新種発見 アカボシルリゴキブリ・ウスオビルリゴキブリ」

鹿児島大学農学部 坂巻祥孝准教授らのチームが南西諸島でゴキブリの新種としては1985年以來となる国内35年ぶりに発見・記載した新種のルリゴキブリ2種の標本を2020年12月1日～2021年1月29日の間、常設展示室の展示ケース1台を用いて特別公開を行った。新種発見のニュースがYahoo ニュースのトップ記事になったこともあり、新型コロナウイルス感染症対策中であっても、注目度は



特別公開 アカボシルリゴキブリ・ウスオビルリゴキブリ

高く、本標本見学を目的とした来館者もあった。

小さな標本が3点という非常に小さい展示企画であったが、わずかな資料であっても、トピックとなる標本の展示で新たな来館者の動員に結びつく機会となった。

(2) 特別公開「ホソバノキミズ」

2021年2月14～28日、鹿児島大学総合研究博物館常設展示室。日本では100年近く生育情報がなく、環境省や鹿児島県のレッドリストでも「絶滅」とされていたイラクサ科の小低木「ホソバノキミズ」を博物館の田金が2020年10月に奄美大島で再発見した。この成果は新聞やテレビ放送でも取り上げられて反響が大きかったため、博物館に収蔵したホソバノキミズの証拠標本を特別公開し、博物館における標本資料の大事さと奄美大島の自然について考える機会を提供した。



特別公開 ホソバノキミズ

(3) ミニ企画展「出水市高尾野川河口の生きもの」

2021年3月2日～31日、場所：鹿児島大学総合研究博物館常設展示室。

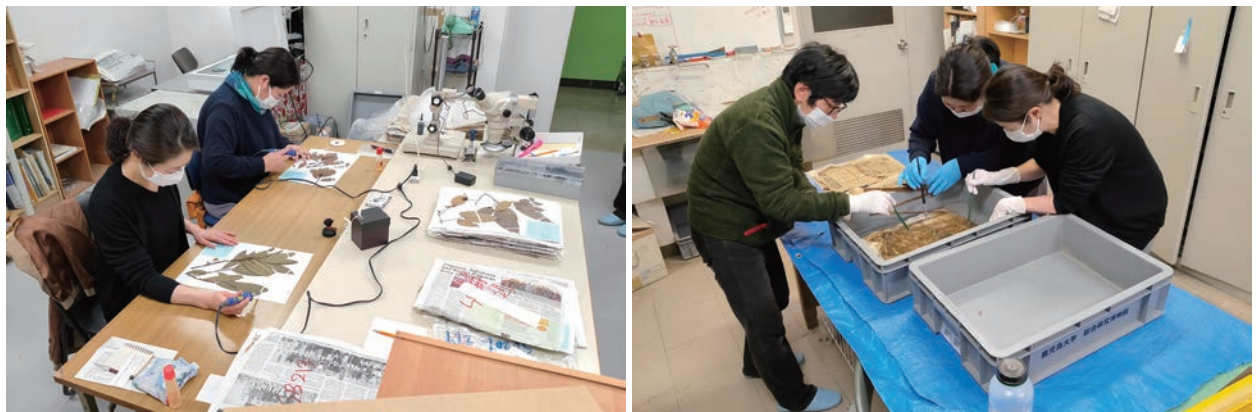
2020年、出水ツル渡来地内に位置する高尾野川河口域の学術調査が実施された。豊かな生物多様性を有する高尾野川河口域から得られた、絶滅危惧に指定されている魚類や鹿児島県で初めて記録された甲殻類の標本を展示した。来場者には「高尾野川河口の生きもの」のA1ポスターをプレゼントした。

(4) 第2回 バックヤードツアー「植物標本庫」

2021年3月6日(土)9:00～12:00、総合研究博物館植物標本室にて。コロナ禍のために募集人数を制限し、2名のみ参加者で催行した。植物標本資料の作成法や収蔵庫の管理などに関する解説を行った。また、参加者の希望もあって、令和2年7月豪雨により被災した人吉城歴史館の植



特別公開 出水市高尾野川河口の生きもの



第2回 バックヤードツアー

物標本のレスキュー作業（洗浄と乾燥）も一部で実施した。参加者からは植物標本の存在意義、そして普段見ることのできない博物館のバックヤードについても理解が深まったと好評であった。

13 常設展示室

1. 入館者数

常設展示室 月別入館者数 2020年度

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|
| 総入館者数 | 18 | 7 | 15 | 48 | 32 | 42 | 152 | 88 | 87 | 86 | 80 | 184 | 839 |
| 団体 | 0 | 0 | 0 | 23 | 0 | 0 | 45 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 74 |
| 一般 | 18 | 7 | 15 | 25 | 32 | 42 | 107 | 82 | 87 | 86 | 80 | 184 | 765 |
| 開館日数 | 14 | 8 | 21 | 21 | 18 | 19 | 23 | 20 | 20 | 18 | 18 | 21 | 221 |

常設展示室 曜日別入館者数 2020年度

| | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | | 土 | | 日 | | 月 | | 合計 | | 総計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | 団体 | 一般 | |
| 4月 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 6 | 0 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 | 18 |
| 5月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 7 |
| 6月 | 0 | 4 | 0 | 1 | 0 | 4 | 0 | 5 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 | 15 |
| 7月 | 0 | 2 | 0 | 5 | 10 | 2 | 13 | 14 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 23 | 25 | 48 |
| 8月 | 0 | 14 | 0 | 5 | 0 | 5 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 32 | 32 |
| 9月 | 0 | 18 | 0 | 9 | 0 | 6 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 42 | 42 |
| 10月 | 0 | 22 | 0 | 19 | 0 | 22 | 23 | 28 | 7 | 16 | 15 | 0 | 0 | 0 | 45 | 107 | 152 |
| 11月 | 0 | 12 | 0 | 16 | 6 | 18 | 0 | 18 | 0 | 18 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 82 | 88 |
| 12月 | 0 | 13 | 0 | 19 | 0 | 16 | 0 | 22 | 0 | 16 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 87 | 87 |
| 1月 | 0 | 28 | 0 | 28 | 0 | 13 | 0 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 0 | 86 | 86 |
| 2月 | 0 | 13 | 0 | 25 | 0 | 10 | 0 | 15 | 0 | 14 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 80 | 80 |
| 3月 | 0 | 31 | 0 | 58 | 0 | 26 | 0 | 33 | 0 | 36 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 184 | 184 |
| 合計 | 0 | 158 | 0 | 188 | 16 | 133 | 36 | 162 | 7 | 108 | 15 | 0 | 0 | 16 | 74 | 765 | 839 |
| | 158 | | 188 | | 149 | | 198 | | 115 | | 15 | | 16 | | 839 | | |

今年度の総入館者数は839名で、昨年度に比べ1329名減少している。団体が656名、一般が673名の減少だった。新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休館が4月から5月にかけて19日間あった。

2. 利用・活用状況

今年度の団体利用は以下のとおりである。

- ・大学関係
 - ・理事視察
 - ・教育学部「地学概論」
 - ・教員免許状更新講習
- ・学外
 - なし

3. 室内環境

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 平均 |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 1階ケース温度(℃) | 19.4 | 21.8 | 24.2 | 25.2 | 25.2 | 26.4 | 23.6 | 18.4 | 17.0 | 15.8 | 16.6 | 17.8 | 20.9 |
| 1階ケース湿度(%) | 64.6 | 67.8 | 62.1 | 58.2 | 60.9 | 62.8 | 62.9 | 69.4 | 64.8 | 57.4 | 63.7 | 64.8 | 63.3 |
| 2階ケース温度(℃) | 20.1 | 22.6 | 23.0 | 24.3 | 25.9 | 25.5 | 23.4 | 18.5 | 16.5 | 15.8 | 18.5 | 17.7 | 21.0 |
| 2階ケース湿度(%) | 65.3 | 64.5 | 59.2 | 56.1 | 60.8 | 62.2 | 63.3 | 65.9 | 63.2 | 61.5 | 58.6 | 60.0 | 61.7 |

4. 常設展示室アンケート

アンケート集計結果

1) 性別

男 30名 女 11名 無回答 0名 合計 41名

2) 年齢

小学生以下 5名 中学生 0名 高校生 0名 大学生 8名
上記以外の10代 0名 20歳代 0名 30歳代 5名 40歳代 9名
50歳代 5名 60歳代 8名 70歳以上 1名 無回答 0名

3) 居住地

鹿児島市内 14名 鹿児島県内 15名 鹿児島県外 10名
大学関係者(学生・教職員) 2名 無回答 0名

4) 常設展示室を知った理由

立て看板 13名 ホームページ 8名 ポスター 2名
授業・講座等 5名 人にすすめられて 3名 その他 10名 無回答 0名

5) 感想

大変よい 15名 よい 22名 どちらともいえない 2名
つまらない 0名 大変つまらない 0名 無回答 2名

6) 感想・意見・要望等

アンケート41件中36件に自由記述欄の記入があった。

内容を見てみると全般的な感想としては、「大学だからこそ残っている機器や標本が興味深い」「クロノメーターなど写真でしか見たことのないものを間近に見られてよかった」「鹿大生として歴史を感じられるものを知るよい機会になった」などがあった。

展示内容については、「金鉱石について着目した展示が地元の特徴が出ていてよかった」「(特別公開の)ゴキブリの研究の展示がもう少し詳しく見たかった」などがあった。

来館のきっかけとしては「鹿大卒業生(OB)向けの情報で知った」「文化財HPで見た」「近代建築のサイトで知った」「水族館で聞いた」「Twitterでポスター(高尾野川河口の生き物)がもらえるのを知って来た」などがあった。

その他に意見・要望として、「戦後の鹿大の変遷がわかるような写真や昔使用された学生のノートなどがあれば、展示してはどうか」「解説シートの種類を増やしてほしい」などがあった。

5. 常設展示室 展示品目録－2020年度－(2019年度からの変更点)

展示追加

- ・植物標本(乾燥標本・液浸標本) 種子 植物採集道具 展示解説パネル
常設展示室(2階)リニューアル(4/9)
- ・成川式土器(甕・壺・鉢・甗)20点 鹿大埋蔵文化財調査センター報告書作成のため展示
入替(8/11)
- ・ルリゴキブリ標本 特別公開(12/1～1/29)
- ・ホソバノキミズ標本 特別公開(2/12～2/27)
- ・液浸標本(タイワンガザミほか) 解説パネル
企画展「出水市高尾野川河口の生きもの」(3/2～31)

展示終了

- ・カオリナイト・カオリナイト(入来鉱山)・シリカスケール・玉滴石・火山性ガスによる粘土

- 化の過程・シリカシンター・魚卵状シリカシンター・菱マンガン鉱・郡山層中の黄鉄鉱・自然硫黄（薩摩硫黄島）・自然硫黄（赤石鉱山）・茄子田安山岩類中のオパール・麓凝灰岩
常設展示室（2階）リニューアルのため撤去（4/9）
- ・成川式土器（甕・壺・鉢・甗）20点
鹿大埋蔵文化財調査センター報告書作成のため撤去（8/11）
 - ・金銀鉱石
特別公開「ルリゴキブリ」のため撤去（12/1）

6. 常設展示室の課題

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、検温消毒器の設置、清掃・消毒および換気の徹底、入館人数の制限など対策を講じたうえで、4月21日から5月20日までの19日間の臨時休館をのぞく221日間で通常開館を行った。

入館者数については感染症拡大の影響で一般・団体とも昨年度より大きく減少し、年度前半は臨時休館明け以降もしばらく来館者数0の日が続いた。とくに大学祭が中止になったのと団体見学の利用が大きく減少したのとで、4～11月まではいずれの月も前年度までの月平均入館者数を下回った。しかし、12・1月の特別公開（ルリゴキブリ）、2月の特別公開（ホソバノキミズ）、3月の企画展（出水市高尾野川河口の生き物）開催中は、各期間とも入館者数が前年度までの平均を上回る結果となった。

特別公開や企画展をきっかけに来館した人の多くは市内・県内など近隣からの来館者で、アンケートには「新聞で見た標本（ルリゴキブリ・ホソバノキミズ）が見られてよかった」「展示替えがあればまた来たい」「小中学校にも大学博物館の常設展や企画展の告知をしてほしい」などの意見・要望が寄せられている。Twitterでの情報発信とあわせて、身近に利用できる施設としてより多くの人に博物館への関心を高めてもらえればと思う。

14 教育活動

1. 博物館実習・博物館学関連講義

博物館実習 総合研究博物館では、博物館実習の学内実習を分担で担当している。実習受講登録学生は法文学部5名、教育学部2名、理学部5名、水産学部7名であった。当初は、例年どおり5月に総合研究博物館での実習予定としていたが、COVID-19の拡大を受けて、この時期の実習は不可能となったため、再度日程調整を行い10月を中心に実施した。

10月17日は法文学部・教育学部、10月24日は理学部・水産学部の学生に対して、橋本が担当し、博物館に関わる全分野において基本技術である写真に関する実習を行った。まずは、カメラ・写真に関する基礎知識について説明を行い、理解を深めた後に撮影台の設営から、博物館資料の撮影まで行った。今回の被写体は土師器・須恵器・鍛冶関連遺物・陶器とした。実際に全員が一眼レフカメラで撮影するまでを行った。また本年度からはSfM/MVS技術による三次元データの作成も実習で行った(橋本)。

9月26日、10月10、17日は田金が担当し、植物標本室にて植物のさく葉標本の作成・データベース化(台紙への貼り付け、ラベル情報の入力、標本のスキャンによるデジタル画像化)を行い、78点の植物標本の情報をデータベースに登録した(田金)。

10月10日と24日は本村が担当し、博物館標本作成室で魚類の液浸標本の作製、登録、撮影作業を行い、およそ200点の標本を新規登録した(本村)。

博物館学関連講義 学芸員資格取得のための講義は、資格の取得可能な法文学部・教育学部・理学部・水産学部が受講する科目として共通教育において開講されているが、総合研究博物館の教員も分担して担当している。橋本は、博物館教育論・博物館展示論の責任教員として担当、各2名の非常勤講師の調整を行いつつ講義を実施している。本村・田金は、博物館資料論を分担で実施している(橋本)。



写真撮影実習成果



植物実習



魚類実習

2. 教員免許更新講習

2009年4月1日から教員免許更新制が導入され、鹿児島大学でも例年、教員免許状をもつ人に対して、文部科学大臣の認定を受けて大学などが開設する最新の知識技能の修得を目的とする講習が開設されている。総合研究博物館では同講習の選択科目の開設を行っている。

7月31日（金）には橋本が、「郷土の歴史の学び方～考古学と博物館～」を開講した。参加者は13名、小学校・中学校（社会）・高等学校（地歴）を主な対象者として実施した。実講義は考古学という学問の概要から、遺跡の調べ方、考古資料の見方について説明し、また博物館の役割とその活用方法の解説をとおして、各地域の郷土の歴史を学ぶ方法を考えるものである。講義と実習は8:50から16:30まで行われ、プログラムには博物館見学・拓本実習を含んでいる（橋本）。

毎年実施していた本村の「自然を記録する方法～魚類の博物学と標本の作製法～」はCOVID-19のため中止した（本村）。

3. インターンシップ

毎年実施していたインターンシップはCOVID-19のため実施されなかった。

15 出版・広報

2020度の出版物を下記のとおり報告する。

ニューズレター ニューズレターは1冊を特別展関連の解説資料として刊行した。ニューズレター No.46、佐藤正典「有明海の干潟の生物と人々の暮らし」、全16pである。

研究報告等 研究報告を3冊、文書目録1冊を刊行した。

研究報告 No.13

大木公彦（編著）・早坂祥三代表：オウムガイグループ 『オウムガイ自生地域の調査記録―鹿児島大学総合研究博物館に登録されたオウムガイ標本』 62 pp.

Bulletin of the Kagoshima University Museum No.14

Fujiwara, K. and H. Motomura 『An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records.』 73 pp.

研究報告 No.15

橋本達也（編） 『大隅大崎 神領 10 号墳の研究』 154 pp.

文書資料目録 No.2

橋本達也・上村文（編） 『鹿児島高等農林学校得業論文・学生調査報告書等』 58 pp.

その他出版物 総合研究博物館関連出版物として下記の2冊を刊行している。

本村浩之・山本智子・田金秀一郎（編） 『高尾野川河口周辺のいきものたち』 316 pp

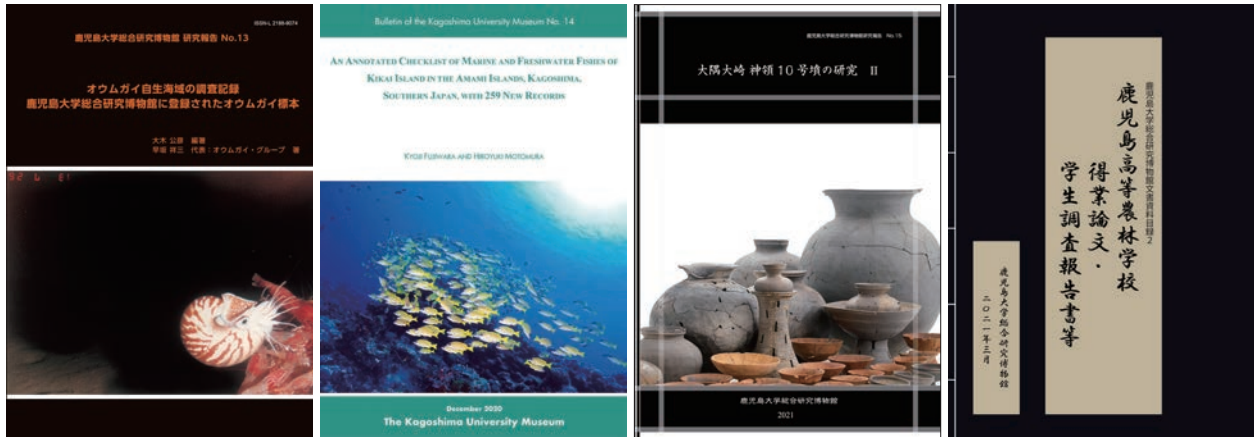
小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之（編） 『大隅市場魚類図鑑』 634 pp.

Motomura, H., S. Kimura, Y. G. Seah, S. T. Sheikh Abdul Kadir, and M. A. Ghaffar (eds). Reef and shore fishes of Bidong Island, off east coast of Malay Peninsula 80 pp.

本村浩之 『日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名』 560 pp.

年報 毎年1冊、前年度分の年報を刊行しているが、本年度は、刊行せず No.19 として、2019年度と2020年度分をあわせて2021年度に刊行することとした。

ポスター・チラシ 第20回特別展にあわせて、展示案内用のB2版ポスター・A4版チラシを



2020 年度出版物（研究報告・文書目録）



2020 年度出版物（その他）

作成し、特別展の公開は学内限定となってしまったが学内各所および他の博物館、教育委員会などに送付し、掲示・配布を依頼した。「鹿児島県北西部八代海にそそぐ高尾野川河口域の水生物」のポスターを作成し、常設展示室での企画展にあわせて配布した。

WEB 公開・広報 Ichthy, Natural History of Fishes of Japan（魚類専門査読誌）を 2020 年 10 月に創刊し、総合研究博物館ホームページおよび J-Stage から公開をはじめた。2020 年度は 61 論文を出版している。

その他、ホームページ、ブログ、Twitter を継続的に更新している。とくに Twitter については 2020 年から教員 3 人（橋本・本村・田金）がそれぞれ書き込むこととし、更新頻度を多くした。

16 ボランティア活動

魚類標本の作製・登録・データベース化 総合研究博物館では 2006 年度から魚類標本の受け入れおよび標本の作製を積極的に行っている。ボランティアは本学学生、一般市民、漁業従事者、水族館職員など多彩な構成である。ボランティアの活動は、大きく分けると魚類の採集、学習会、標本の作製と保存、および教育普及活動の 4 つの要素から成る（詳しくは『総合研究博物館ニューズレター No. 16』と総合研究博物館出版『魚類標本の作製と管理マニュアル』を参照）。本年度は本学水産学部と鹿児島県環境技術協会から移管された標本と鹿児島県産の標本を中心に約 10000 標本の登録を行い、標本データのデータベースと、約 50000 件の画像データベースを作成した。

生きもの観察会 総合研究博物館の魚類ボランティアチームは、県内の各種自然観察会に講師・採集指導者として依頼されて参画している。今年度は甲突川の生きもの観察会（5 月 24 日）、愛宕



植物ボランティア活動



魚類ボランティア活動

川の生きもの観察会（8月19日）、思川の生きもの観察会（10月3日）などを行った。

植物標本の登録・データベース化 植物標本室では、本学の学生3名が博物館ボランティアとして植物標本の管理に関わる活動に従事することを希望し、2020年7月より活動を開始した。今年度の活動では未整理標本のデータベース登録、マウント作業（台紙への貼り付け）、収蔵庫への配架作業を中心に行った。また令和2年豪雨により被災した人吉城歴史館所蔵の植物標本のレスキュー作業（洗浄と乾燥）についても本活動の一環として積極的に取り組んだ。

17 標本管理活動

1. 植物標本室

植物標本のデータベース化 植物標本室では収蔵する植物標本の全容把握、および管理・利便性向上のため、植物標本のデータベース化を2003年から継続して実施している。2020年度も継続し、鈴木英治氏（前館長、現国際島嶼教育研究センター）、および一般財団法人沖縄美ら島財団との共同研究「西表植物誌編纂事業のためのデータベース」の遂行に伴って雇用した技術補佐員2名（中原敏昭氏・西原茉莉氏）と共に、標本整理・データベース化作業を進めた。

2020年度は21,697点の植物標本をKAGデータベースに登録した。登録した標本情報は博物館植物標本室のwebsite (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/hyouhonsitu.html>) にて公開を行っている。また、これらの標本情報のうち10,000件をサイエンスミュージアムネット（S-Net <http://science-net.kahaku.go.jp>）に提供し、そちらでも公開を行うようにした。

学外研究者等による研究活動 学外研究者の丸野勝敏氏は、2019年度に引き続き、ご自身が採集された植物標本約2万点を整理するため、ほぼ毎日標本室に来館し、標本ラベル作成などの作業に従事された。福元しげ子氏には通年を通してマウント作業（標本貼り）にご協力いただいた。

新規植物標本の受け入れ・寄贈状況 2020年度は田金が鹿児島県内を中心とする野外調査を通して1,362点の植物標本を収集し、これらをKAGデータベースに登録した。外部の方からの標本寄贈として、片野田逸朗氏から奄美大島の植物標本709点、藤井伸二氏から日本各地の植物標本91点、金光浩伸氏からツクシワラビ、ウスバツクシワラビのタイプ標本を含む九州産のシダ植物の標本76点、川西基二氏から鹿児島県内の植物標本26点、中西弘樹氏から日本新産のオオヒメキセワタを含む長崎県産の植物標本4点、山本好和氏から鹿児島県産の地衣類の標本53点をご寄贈いただき、

KAG データベースに登録した。埼玉県の有馬氏からはご遺族が残された数百点の植物標本をご寄贈いただき、整理を進めている。

植物標本の利用状況 今年度は新型コロナウイルス感染症に伴う県外移動の自粛要請が続き、植物標本室を利用する外部からの訪問者は少なかったが、一方で標本の貸出や DNA 分析を行うための試料提供の依頼が微増した。インターネット上に公開している植物標本室のデータベースには 1217 件の閲覧者があった。

植物標本の利用状況

| 利用年月日 | 所属 | 分類群 | 点数 | 利用目的 |
|-------------|---------------------|---|-------|--------|
| 2020年4月17日 | 熊本大学 | Croomia | 42 | 研究 |
| 2020年9月7日 | MA Herbarium, Spain | Hypericum | 21 | 研究 |
| 2021年11月6日 | 琉球大学 | Elatostoma | 1 | 研究 |
| 2021年12月21日 | 東北大学 | Clinopodium, Hydrangea | 34 | 研究 |
| 2021年1月29日 | 東北大学 | Arundinella, Deutsia, Hypericum, Eupatorium, Swertia, Phryma, Cardamine | 68 | 研究 |
| 2021年2月3日 | 東北大学 | Elatostema, Pelleonia | 22 | 研究 |
| 2021年3月4日 | 九州オープンユニバーシティ | Arundinella | 3 | 研究 |
| 通年 | 日本シダの会 | シダ類 | 21000 | 図鑑執筆資料 |

2. 魚類標本の利用状況

2020年度の総合研究博物館所蔵脊椎動物標本・資料の利用状況を報告する（学内での利用数は膨大であるため除く）。

動物標本の利用状況

| 貸出・利用年月 | 分類群 | 標本・資料 | 点数 | 貸出・利用先 | 目的 |
|---------|------|-------|-----|---|------|
| 2020年3月 | 魚類 | 筋肉組織 | 6 | 近畿大学 | 研究 |
| 2020年4月 | 魚類 | 標本画像 | 6 | 津山洋学資料館 | 企画展 |
| 2020年5月 | 魚類 | 標本画像 | 53 | 高知大学 | 研究 |
| 2020年5月 | 魚類 | 液浸標本 | 17 | 高知大学 | 研究 |
| 2020年5月 | 半索動物 | 液浸標本 | 3 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2020年5月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 講談社 | 図鑑 |
| 2020年5月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | TBS テレビ | 番組 |
| 2020年6月 | 魚類 | 液浸標本 | 14 | 近畿大学 | 研究 |
| 2020年6月 | 半索動物 | 筋肉組織 | 3 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2020年6月 | 甲殻類 | 液浸標本 | 6 | 千葉県立中央博物館 | 研究 |
| 2020年6月 | 甲殻類 | 筋肉組織 | 1 | 千葉県立中央博物館 | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 標本画像 | 192 | Institute of Marine Research, Norway | 研究 |
| 2020年6月 | 甲殻類 | 標本画像 | 1 | 琉球大学 | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 液浸標本 | 19 | 高知大学 | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 標本画像 | 26 | 高知大学 | 研究 |
| 2020年6月 | 多毛類 | 標本画像 | 1 | 慶応義塾大学 | 研究 |
| 2020年6月 | 多毛類 | 液浸標本 | 1 | 慶応義塾大学 | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 奄美新聞 | 新聞 |
| 2020年6月 | 魚類 | 標本画像 | 8 | 美ら島水族館 | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 液浸標本 | 3 | 美ら島水族館 | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 筋肉組織 | 3 | 美ら島水族館 | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 標本画像 | 25 | National Sun Yat-sen University, Taiwan | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 液浸標本 | 17 | National Sun Yat-sen University, Taiwan | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 筋肉組織 | 6 | National Sun Yat-sen University, Taiwan | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 標本画像 | 75 | 海響館 | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 標本画像 | 104 | 黒潮生物研究所 | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 標本画像 | 108 | 宮崎県庁 | ポスター |
| 2020年6月 | 魚類 | 液浸標本 | 37 | 海響館 | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 標本画像 | 20 | 近畿大学 | 研究 |
| 2020年6月 | 魚類 | 液浸標本 | 1 | 北九州市立自然史・歴史博物館 | 研究 |
| 2020年6月 | 甲殻類 | 標本画像 | 20 | 千葉県立中央博物館 | 研究 |

| | | | | | |
|----------|-----|------|------|---|-----|
| 2020年6月 | 魚類 | 標本画像 | 18 | 美ら島水族館 | 企画 |
| 2020年6月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | フジテレビ | 番組 |
| 2020年7月 | 魚類 | 標本画像 | 10 | Monterey Bay Aquarium, USA | 企画展 |
| 2020年7月 | 甲殻類 | 液浸標本 | 2 | 琉球大学 | 研究 |
| 2020年7月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | Museum & Art Gallery of the Northern Territory, Australia | 研究 |
| 2020年7月 | 魚類 | 液浸標本 | 3 | 近畿大学 | 研究 |
| 2020年7月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 近畿大学 | 研究 |
| 2020年7月 | 腹足類 | 標本画像 | 8 | かごしま水族館 | 研究 |
| 2020年7月 | 腹足類 | 液浸標本 | 1 | かごしま水族館 | 研究 |
| 2020年7月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | 黒潮生物研究所 | 研究 |
| 2020年7月 | 魚類 | 液浸標本 | 18 | Institute of Marine Research, Norway | 研究 |
| 2020年7月 | 魚類 | 筋肉組織 | 17 | Institute of Marine Research, Norway | 研究 |
| 2020年7月 | 魚類 | 液浸標本 | 177 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2020年7月 | 魚類 | 筋肉組織 | 95 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2020年8月 | 魚類 | 筋肉組織 | 1 | 近畿大学 | 研究 |
| 2020年8月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | 須磨海浜水族園 | 企画展 |
| 2020年8月 | 魚類 | 液浸標本 | 1 | 須磨海浜水族園 | 企画展 |
| 2020年8月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | Pacific Islands Forum Fisheries Agency, Fiji | 研究 |
| 2020年8月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | TBS テレビ | 番組 |
| 2020年8月 | 魚類 | 標本画像 | 3 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2020年8月 | 魚類 | 標本画像 | 130 | 沖縄科学技術大学院大学 | 研究 |
| 2020年8月 | 魚類 | 標本画像 | 145 | 国際水産資源研究所 | 研究 |
| 2020年8月 | 魚類 | 筋肉組織 | 4 | National Taiwan University, Taiwan | 研究 |
| 2020年8月 | 魚類 | 液浸標本 | 16 | 国際水産資源研究所 | 研究 |
| 2020年9月 | 魚類 | 標本画像 | 3 | 黒潮生物研究所 | 研究 |
| 2020年9月 | 魚類 | 液浸標本 | 2 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2020年9月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | Seafood in Europe, Italy | 研究 |
| 2020年9月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | TBS テレビ | 番組 |
| 2020年9月 | 魚類 | 標本画像 | 112 | 学研プラス | 図鑑 |
| 2020年9月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | Victoria Museum, Australia | 研究 |
| 2020年9月 | 魚類 | 標本画像 | 123 | Victoria Museum, Australia | 研究 |
| 2020年9月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 読売テレビ | 番組 |
| 2020年9月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | NHK 鹿児島 | 番組 |
| 2020年9月 | 魚類 | 標本画像 | 4 | 読売新聞 | 新聞 |
| 2020年9月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | 黒潮生物研究所 | 研究 |
| 2020年10月 | 魚類 | 標本画像 | 24 | 水産研究・教育機構 開発調査センター | 研究 |
| 2020年10月 | 魚類 | 液浸標本 | 1 | 高知大学 | 研究 |
| 2020年10月 | 魚類 | 筋肉組織 | 3 | 大阪府立環境農林水産総合研究所 | 研究 |
| 2020年10月 | 魚類 | 液浸標本 | 16 | 近畿大学 | 研究 |
| 2020年10月 | 魚類 | 筋肉組織 | 11 | 千葉県立中央博物館 | 研究 |
| 2020年10月 | 甲殻類 | 液浸標本 | 21 | 北海道大学 | 研究 |
| 2020年10月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | Royal Ontario Museum, Canada | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 液浸標本 | 1 | 水産資源研究所 水産資源研究センター | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 筋肉組織 | 6 | 東海大学 | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 標本画像 | 11 | 南那珂農林振興局 | 企画 |
| 2020年11月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | National Sun Yat-sen University, Taiwan | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 黒潮生物研究所 | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 筋肉組織 | 7 | 京都大学 | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 液浸標本 | 9 | 近畿大学 | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 標本画像 | 12 | 南那珂農林振興局 | 企画 |
| 2020年11月 | 魚類 | 標本画像 | 58 | 高知大学 | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 標本画像 | 40 | 美ら島財団 | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 液浸標本 | 25 | 高知大学 | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 標本画像 | 52 | 近畿大学 | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 液浸標本 | 2 | 美ら島財団 | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 液浸標本 | 1 | 近畿大学 | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 標本画像 | 1161 | 北海道大学 | 研究 |
| 2020年11月 | 魚類 | 標本画像 | 413 | 京都大学 | 研究 |
| 2020年12月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | かごしま水族館 | 企画展 |
| 2020年12月 | 魚類 | 液浸標本 | 1 | かごしま水族館 | 企画展 |
| 2020年12月 | 魚類 | 液浸標本 | 10 | 北海道大学 | 研究 |
| 2020年12月 | 甲殻類 | 液浸標本 | 12 | 北海道大学 | 研究 |
| 2020年12月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | 種子島開発総合センター鉄砲館 | 展示 |
| 2020年12月 | 魚類 | 標本画像 | 7 | テレビ朝日 | 番組 |

| | | | | | |
|----------|----|------|-----|------------------------------|-----|
| 2020年12月 | 魚類 | 標本画像 | 6 | Australian Museum, Australia | 研究 |
| 2020年12月 | 魚類 | 標本画像 | 10 | 宮崎県日南市南郷町商工会 | 企画 |
| 2020年12月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | 宮崎県日南市役所 | 企画 |
| 2021年1月 | 魚類 | 標本画像 | 48 | 筑波大学 | 研究 |
| 2021年1月 | 魚類 | 液浸標本 | 1 | 国立科学博物館 | 研究 |
| 2021年1月 | 魚類 | 液浸標本 | 17 | ふじのくに地球環境史ミュージアム | 研究 |
| 2021年2月 | 魚類 | 標本画像 | 186 | 大島支庁林務水産課水産係 | チラシ |
| 2021年2月 | 魚類 | 標本画像 | 54 | 京都大学 | 研究 |
| 2021年2月 | 魚類 | 液浸標本 | 7 | 京都大学 | 研究 |
| 2021年2月 | 魚類 | 筋肉組織 | 2 | 京都大学 | 研究 |
| 2021年2月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 宮崎大学 | 図鑑 |
| 2021年3月 | 魚類 | 液浸標本 | 15 | 近畿大学 | 研究 |
| 2021年3月 | 魚類 | 筋肉組織 | 11 | 近畿大学 | 研究 |
| 2021年3月 | 魚類 | 筋肉組織 | 1 | 京都大学 | 研究 |
| 2021年3月 | 魚類 | 標本画像 | 3 | MBC 南日本放送 | 番組 |
| 2021年3月 | 魚類 | 標本画像 | 5 | 南日本新聞 | 新聞 |
| 2021年3月 | 魚類 | 標本画像 | 2 | 讀賣新聞 | 新聞 |
| 2021年3月 | 魚類 | 標本画像 | 1 | Monterey Bay Aquarium, USA | 企画展 |
| 2021年3月 | 魚類 | 筋肉組織 | 5 | 水産資源研究所 水産資源研究センター | 研究 |
| 2021年3月 | 魚類 | 液浸標本 | 3 | 水産資源研究所 水産資源研究センター | 研究 |
| 2021年3月 | 魚類 | 液浸標本 | 2 | 北九州市立自然史・歴史博物館 | 研究 |
| 2021年3月 | 魚類 | 液浸標本 | 8 | かごしま水族館 | 企画展 |
| 2021年3月 | 魚類 | 液浸標本 | 5 | 神奈川県立生命の星・地球博物館 | 研究 |

合計 118 件 3999 点

3. その他の標本等の管理・利用

標本の登録 総合研究博物館開設当初に、農学部害虫学教室から移管された鹿児島高等農林学校の得業論文等のデータの登録を継続して行い、年度末に文書資料目録 No. 2 の刊行のための、編集作業を行い、3月30日付で刊行を行った。学生論文232点、旅行報告40点、農村調査報告1点、作物調査報告7点、佐多旅行報告43点、木市調査報告4点、農地設計報告4点、書籍5点、渋谷正健氏関係資料57点、その他74点について、書誌情報等を掲載した。

鹿児島高等農林学校の植物採集において、新聞には含まれたまま保管された予備標本が大量に存在しており、その標本および新聞の整理・登録を継続している。とくに新聞は他に残っていないような稀少なものを含む可能性があるため、新聞名・年月日等の基本情報に加えて、記載記事見出しのテキストデータの登録を行っている。2020年度は約700件ほどの登録を行った。

理学部地球環境科学科（旧地学科）から移管された化石標本について、標本収蔵状態に問題があり、資料情報も不明なものが多いため、整理・再収納を継続的に行っている。本年度は約330件の整理を行った。

資料の移管 旧獣医学科家畜解剖学研究室から移管された動物骨格標本のうち、遺跡出土標本のなかには、昭和50年（1975）の文化財保護法改正以後の行政的手続きによって地方自治体を実施した埋蔵文化財発掘調査において出土し、分析依頼を受けたものが含まれていた。これらは法的に当館の所蔵品とすることはできないものであり、本来調査主体である地方自治体で管理されるべきものであるため、資料分析の責任者である西中川 駿 名誉教授に資料返還の手続きを依頼した。

鹿児島県および県下市町村調査分の出土資料は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに運ぶこととなった。鹿児島県分が最も多く、一部の市町村調査分はそこから返却されることとなった。また指宿市教育委員会のみは直接、当館で引き渡しを行った。

また、鹿児島県外の自治体調査分は、共同獣医学部獣医学科松元光春教授のもとに一端引き上げ、そこで発送等返却作業を行うこととなった。資料としては福岡・熊本・佐賀・宮崎といった九州以外に、静岡、神奈川各県の資料が含まれている。

資料の受け入れ 以下の古い機器資料を受領した。農学部から顕微鏡2台、教育学部より卓上計算機1台、医歯学総合研究科よりデントテスター1台。

その他標本の利用状況

| 利用年月 | 標本・資料 | 利用形態 | 点数 | 利用先 | 目的 |
|---------|---------------|--------|----|--------------|----------|
| 2020年6月 | 神領10号墳出土盾持人埴輪 | 貸出・掲載 | 4 | 埼玉県立埼玉史跡の博物館 | 特別展・図録掲載 |
| 2020年9月 | 神領10号墳出土盾持人埴輪 | 撮影 | 1 | 朝日新聞西部本社 | 掲載 |
| 2020年9月 | 遺跡出土動物骨格標本 | 調査 | 3箱 | 金沢大学 | |
| 2021年3月 | 神領10号墳出土土器 | 借用(継続) | 5 | 国立歴史民俗博物館 | 常設展示 |

4. 奄美の高倉補修

当館で管理する高倉は現存最古の資料として、その重要性からもともと鹿児島県立博物館が保有していたものであるが、火災に遭ったことを契機として、2002年に土田充義工学部教授(当時)が引き取り、現在地に再建したものである。その後、たびたび修理・補修を行っており、2013年には大がかりな修理を行い、その後2018年にも茅葺きに傷みが目立ったため修理を行った。

2020年は、雨が多く、とくに9月6日～7日の台風10号によって大きく茅葺きが破損した。幸いにして災害復旧事業としての補助金が得られたため、2021年1月19日から1週間で修復工事を行うことができた。修復はこれまでと同様、知覧茅葺き保存会(南九州市)に委託した。



2020年高倉修復作業

18 2020年度専任教員の活動業績

橋本達也 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「古代東アジアの王陵」担当

共通教育科目「博物館展示論」担当

共通教育科目「博物館教育論」担当

2) その他

「博物館実習」担当

教員免許状更新講習

放送大学 非常勤講師 面接授業「古墳と隼人による新しい古代史」

(2) 研究活動

1) 著書

橋本達也 2020.12「九州南部における鳥居龍蔵の調査」『鳥居龍蔵の学問と世界』徳島県立鳥居龍蔵記念博物館、鳥居龍蔵を語る会 思文閣出版

橋本達也 2020.11『巨大古墳の時代を解く鍵 黒姫山古墳』新泉社 93 pp.

2) 編著・研究報告

橋本達也、中久保辰夫、仲辻慧太、甲斐康大、坂本稔、上野祥史(担当:編者(編著者)) 2021.03『大隅大崎 神領10号墳の研究 II』鹿児島大学総合研究博物館 154 pp.

橋本達也、沢田むつ代・比佐陽一郎・末吉昌宏・青笹基史・肥田翔子・平井洸史・樋口太地(担当:編者(編著者)) 2021.03『島内139号地下式横穴墓 II』えびの市文化財調査報告書第60集 えびの市教育委員会 101 pp.

橋本達也、上村文(担当:編者(編著者)) 2021.03『鹿児島大学総合研究博物館文書資料目録2 鹿児島高等農

林学校得業論文・学生調査報告書等』鹿児島大学総合研究博物館 57 pp.

3) 論文等 (査読無)

比佐陽一郎・松園菜穂・橋本達也・中野和浩 2020.09.05「古墳時代の南部九州における錫製品」『日本文化財科学会第37回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会第37回大会実行委員会 pp. 205-251

4) 学会発表

比佐陽一郎・松園菜穂・橋本達也・中野和浩 2020.09.05「古墳時代の南部九州における錫製品」『日本文化財科学会第37回大会』(別府大学・別府市・WEB開催)

5) その他

橋本達也 2020.12「古墳時代の武器・武具研究、そして中国東北部文物の旅」『柳本照男さん古稀記念論集—忘年之交』柳本照男さん古稀記念論集刊行会 pp. 447-448

(3) 外部資金

研究分担者

基盤研究B. 2019～2022年度. 「「消滅」首長墳の再評価による古墳時代研究資料の基盤整備」(阪口英毅・京都大学大学院文学研究科助教ほか4名との共同研究)

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

文化財保存全国協議会全国委員

鹿児島県考古学会幹事

九州前方後円墳研究会幹事

東串良町唐仁古墳群保存活用検討委員会 委員 (鹿児島県肝属郡東串良町)

2) 公開講座等講師

2020年11月29日 えびの市歴史民俗資料館 企画展講演会「島内139号墓の調査と新発見5—古墳時代の鉄のヨロイと革のヨロイ—」えびの市文化センター大研修室

3) 調査指導・協力

2020年10月27日 えびの市島内177号地下式調査指導

2020年10月15日 志布志市教育委員会原田3号地下式横穴墓整理作業指導

2020年10月5日 えびの市島内176号地下式調査指導

2020年9月22日 えびの市島内175号地下式調査指導

2020年9月3日 都城市築池2020-1号地下式横穴墓調査協力

2020年7月21日 えびの市島内139号出土資料 調査指導

(5) 学内委員

放射線安全管理委員会委員

学芸員資格科目委員会委員

総合研究博物館 特別公開「南西諸島で国内35年ぶり新種発見 アカボシルリゴキブリ・ウスオビルリゴキブリ」

(6) 調査研究

神領10号墳出土資料の調査研究 (曾於郡大崎町)

島内139号地下式横穴墓出土資料の調査研究 (えびの市教育委員会)

原田3号地下式横穴墓の出土資料の調査研究 (志布志市)

(7) 報道関係

研究紹介

2021年2月25日「巨大古墳の5世紀 鍵は塚・美原 黒姫山古墳巡り鹿児島大学教授が新著」朝日新聞

2020年12月9日「5世紀の謎 黒姫山古墳から挑む 鹿大教授が刊行」朝日新聞

2020年9月9日「日本書紀と九州 下 隼人「異民族」と位置づけか」朝日新聞

本村浩之 [教授]

(1) 教育活動

1) 専門教育

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学倫理特論」

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅰ」

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅱ」

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅲ」

農林水産学研究科専門科目「生物環境科学特別講義」

大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別演習」(前期・後期)

大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別研究」(前期・後期)

2) その他

博物館資料論 (前期)

博物館実習 (後期)

博物館実習 (理系学部合同) 事後指導 (後期)

3) 研究教育

博士課程4人, 修士課程5人, 学部2人

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読付)

- Hata, H., N. V. Quan, T. M. Ha and H. Motomura. 2020 (Apr.). *Thrissina belvedere*, a new thryssa from Ha Long Bay, northern Vietnam and redescription of *Thrissina chetuisensis* (Günther 1874) (Clupeiformes: Engraulidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-020-00743-9 (11 Apr. 2020), 67 (4): 473-482 (23 Oct. 2020)
- Yoshida, T. and H. Motomura. 2020 (Apr.). *Apogon soloriensis*, a new species of cardinalfish (Perciformes: Apogonidae) from the Bonin Islands, Japan. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-020-00749-3 (23 Apr. 2020), 67 (4): 525-532 (23 Oct. 2020)
- Shibuya, S. and H. Motomura. 2020 (May). *Parupeneus williamsi*, a new species of goatfish (Perciformes: Mullidae) endemic to the Marquesas Islands, French Polynesia. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-020-00753-7 (10 May 2020), 68 (1): 11-20 (17 Jan. 2021).
- Morishita, S. and H. Motomura. 2020 (May). *Sphyræna stellata*, a new barracuda from the Indo-Pacific, with redescription of *S. helleri* Jenkins, 1901 and *S. novaehollandiae* Günther, 1860 (Perciformes: Sphyrænidae). Zootaxa, 4772 (3): 545-566. Doi: 10.11646/zootaxa.4772.3.6 (11 May 2020)
- Nakamura, J., Y. Sakurai, T. Yoshino and H. Motomura. 2020 (May). The Bluespotted Hind *Cephalopholis cyanostigma* (Perciformes: Serranidae) from the southern Ryukyu Islands: first specimen-based records from Japan. Species Diversity, 25 (2): 129-133. Doi: 10.12782/specdiv.25.129 (15 May 2020)
- 渋谷駿太・緒方悠輝也・三木涼平・和田英敏・本村浩之. 2020 (May). 九州南部と琉球列島から確認されたヒキマユメイチ (スズキ目フエフキダイ科). Fauna Ryukyuna, 55: 9-16 (19 May 2020)
- Fujiwara, K., T. Suzuki and H. Motomura. 2020 (June). First Pacific record of *Priolepis goldshmidtae* (Gobiidae), previously regarded as a Red Sea endemic. Cybium, 44 (2): 157-159. Doi: 10.26028/cybium/2020-442-006 (30 June 2020)
- Okamoto, M., W.-J. Chen and H. Motomura. 2020 (June). New distributional records of three deepwater cardinalfishes *Epigonus angustifrons*, *E. denticulatus*, and *E. exodon* (Perciformes: Epigonidae) in the South Indian Ocean. Cybium, 44 (2): 165-168. Doi: 10.26028/cybium/2020-442-008 (30 June 2020)
- Wada, H., Y. Kai and H. Motomura. 2020 (July). Redescription of the circumglobal deepwater scorpionfish *Setarches guentheri* (Setarchidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-020-00762-6 (11 July 2020), 68 (1): 32-54 (17 Jan. 2021).
- Araki, M., K. Uehara, H. Senou and H. Motomura. 2020 (Aug.). First records of the Pughead-pipefish *Bulbonaricus davaoensis* (Teleostei: Syngnathidae) from Japan. Species Diversity, 25 (2): 163-169. Doi: 10.12782/specdiv.25.163 (7 Aug. 2020)
- 荒木萌里・高山真由美・本村浩之. 2020 (Aug.). 鹿児島県種子島から得られた日本初記録のタツノオトシゴ属魚類 *Hippocampus spinosissimus* タマヨリタツ (新称). タクサ, 49: 56-61. (31 Aug. 2020)
- 渋谷駿太・前川隆則・本村浩之. 2020 (Aug.). 奄美大島から得られた準絶滅危惧種ヤエヤマフエフキの北限記録. タクサ, 49: 62-66. (31 Aug. 2020)
- 和田英敏・福地伊美映・宮本 圭・立原一憲・本村浩之. 2020 (Aug.). 沖縄県初記録のアヤメイズハナダイ (ハタ科ハナダイ亜科) および本種の標徴に関する再評価. タクサ, 49: 67-73. (31 Aug. 2020)
- Hata, H. and H. Motomura. 2020 (Sept.). First Northern Hemisphere records of the Samoan Anchovy, *Stolephorus apiensis* (Actinopterygii: Clupeiformes: Engraulidae). Acta Ichthyologica et Piscatoria, 50 (3): 367-372. (1 Sept. 2020)
- Wibowo, K. and H. Motomura. 2020 (Sept.). Review of the *Scorpaena papillosa* species complex (Scorpaenidae) with description of a new species from southwestern Australia. Zootaxa, 4852 (5): 527-546. Doi: 10.11646/zootaxa.4852.5.2 (18 Sept. 2020)
- Koeda, K., M. Itou, M. Yamada and H. Motomura. 2020 (Sept.). *Rhynchobatus mononoke*, a new species of wedgefish (Rhinopristiformes: Rhinidae) from Japan, with comments on *Rhynchobatus laevis* (Bloch and Schneider 1801). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-020-00777-z (20 Sept. 2020), 68 (2): 223-238 (10 Apr. 2021)
- Yoshida, T., K. Kuriwa and H. Motomura. 2020 (Sept.). Second Japanese record of the Confused Podge *Pseudogramma brederi* (Perciformes: Serranidae) from the Volcano Islands. Biogeography, 22: 61-64. (20 Sept. 2020)
- Hata, H., S. Lavoué and H. Motomura. 2020 (Sept.). Redescriptions of *Dussumieria acuta* Valenciennes 1847 and *Dussumieria albulina* (Fowler 1934), two valid species of rainbow sardines (Clupeiformes: Dussumieriidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228020-00778-y (22 Sept. 2020), 68 (1): 126-138 (17 Jan. 2021).
- 和田英敏・前川隆則・本村浩之. 2020 (Oct.). 横当島から得られたトカラ列島初記録のイトマンオオキンギョ *Meganthias kingyo* (ハタ科: ハナダイ亜科). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 1: 1-5. Doi: 10.34583/ichthy.1.0_1 (1 Oct. 2020)
- 畑 晴陵・中村潤平・本村浩之. 2020 (Oct.). トカラ列島平島から得られたニジョウサバ *Grammatorecynus bilineatus*. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 1: 6-10. Doi: 10.34583/ichthy.1.0_6 (1 Oct. 2020)
- 畑 晴陵・本村浩之. 2020 (Oct.). ニシン目の Dussumieriidae に適用すべき和名の検討. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 1: 11-14. Doi: 10.34583/ichthy.1.0_11. (1 Oct. 2020)
- 藤原恭司・高山真由美・本村浩之. 2020 (Oct.). 長崎県から得られた九州初記録のサクライレズミハゼ *Priolepis winterbottomi*. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 1: 15-18. Doi: 10.34583/ichthy.1.0_15 (6 Oct. 2020)
- 中村潤平・西田和記・本村浩之. 2020 (Oct.). 甌島列島近海から得られた九州初記録のバラムツ *Ruvettus pretiosus*. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 1: 19-21. Doi: 10.34583/ichthy.1.0_19 (6 Oct. 2020)
- 渋谷駿太・本村浩之. 2020 (Oct.). 喜界島のタイドプールから得られた琉球列島初記録のヒメウナギギンボ *Xiphasia matsubarae*. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 1: 29-31. Doi: 10.34583/ichthy.1.0_29 (13 Oct. 2020)
- Hata, H. and H. Motomura. 2020 (Oct.). Redescription of *Encrasicholina oligobranchus* (Wongratana 1983)

- (Clupeiformes: Engraulidae) and description of a new species of *Encrasicolina* from New Guinea. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-020-00789-9 (27 Oct. 2020), 68 (2): 277-286 (10 Apr. 2021)
- 是枝伶旺・古橋龍星・赤池貴大・本村浩之. 2020 (Nov.). 奄美群島から得られた琉球列島初記録および北限記録のコブキカウツボ, および本種の標徴に関する再評価と生態学的新知見. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 2: 13-19. Doi: 10.34583/ichthy.20_13 (9 Nov. 2020)
- Hata, H., S. Lavoué and H. Motomura. 2020 (Nov.). *Stolephorus acinaces*, a new anchovy from northern Borneo, and redescription of *Stolephorus andhraensis* Babu Rao, 1966 (Clupeiformes: Engraulidae). Marine Biodiversity, doi: 10.1007/s12526-020-01115-2 (14 Nov. 2020), 50 (6): 102 (11 pp) (Dec. 2020)
- Fujiwara, K., K. Hagiwara, T. Suzuki and H. Motomura. 2020 (Nov.). *Acentrogobius limarius* (Gobiidae) from the Ryukyu Islands, Japan: First Northern Hemisphere records. Species Diversity, 25 (2): 355-359. Doi: 10.12782/specdiv.25.355 (17 Nov. 2020)
- 古橋龍星・是枝伶旺・本村浩之. 2020 (Nov.). 奄美群島から得られた薩南諸島初記録および北限記録のハスジマハゼ *Cryptocentroides insignis*. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 2: 20-24. Doi: 10.34583/ichthy.20_20 (29 Nov. 2020)
- 和田英敏・加藤昌一・本村浩之. 2020 (Dec.). 琉球列島とバブアニューギニアから得られた水中写真によって明らかになったフエダイ科ハスジマタルミ *Lutjanus dodecacthoides* の幼魚の色彩的特徴. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 3: 1-4. Doi: 10.34583/ichthy.3.0_4 (1 Dec. 2020)
- 畑 晴陵・本村浩之. 2020 (Dec.). ニシン目の Spratelloididae に対する標準和名キビナゴ科 (新称) の提唱. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 3: 10-15. Doi: 10.34583/ichthy.3.0_10 (4 Dec. 2020)
- Reinecke, T., J. Pollerspöck, H. Motomura, H. Bracher, L. Dufraing, T. GÜthner and F. V. der Hocht. 2020 (Dec.). Sawsharks (Pristiophoriformes, Pristiophoridae) in the Oligocene and Neogene of Europe and their relationships with extant species based on teeth and rostral denticles. Palaeontol., 33: 57-163. (4 Dec. 2020)
- 井上賢太郎・三木涼平・和田英敏・本村浩之. 2020 (Dec.). 宮崎県南部沿岸から得られた日本 2 例目のカチドキダルマガレイ *Crossorhombus valderostratus*. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 3: 20-24. Doi: 10.34583/ichthy.3.0_20 (8 Dec. 2020)
- 古橋龍星・是枝伶旺・本村浩之. 2020 (Dec.). 奄美大島から得られた薩南諸島初記録のセイタカスジハゼ *Acentrogobius multifasciatus*. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 3: 25-29. Doi: 10.34583/ichthy.3.0_25 (8 Dec. 2020)
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020 (Dec.). A new species of *Lepadichthys* from the central South Pacific and comments on the taxonomic status of *Lepadichthys springeri* Briggs, 2001 (Gobiesocidae). Copeia, 108 (4): 833-846 (8 Dec. 2020). Doi: 10.1643/CI2020036.
- 藤原恭司・上原航知・松岡 翠・Kunto Wibowo・本村浩之. 2020 (Dec.). 琉球列島と奄美群島初記録種を含む沖永良部島初記録の魚類 50 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 3: 30-40. Doi: 10.34583/ichthy.3.0_30 (17 Dec. 2020)
- 畑 晴陵・本村浩之. 2020 (Dec.). 鹿児島県甌島列島から得られたメガネウマヅラハギの記録. 南紀生物, 62 (2): 158-162. (20 Dec. 2020)
- Fujiwara, K., T. Suzuki and H. Motomura. 2020 (Dec.). A new species of *Egglestonichthys* (Teleostei, Gobiiformes, Gobiidae) from Okinawa Island, Japan. ZooKeys, 1006: 91-98. Doi: 10.3897/zookeys.1006.58874 (21 Dec. 2020)
- 是枝伶旺・清水直人・本村浩之. 2020 (Dec.). 鹿児島湾から得られた南限記録となるダイダイイソミミズハゼの記載と本種の生態学的新知見. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 3: 51-55. Doi: 10.34583/ichthy.3.0_51 (25 Dec. 2020)
- Tafzimeriam, S. S. A. K., N. A. Manaf, A. N. Ali, J. A. Bidai, H. Ahmad, C. M. K. A. C. Abdullah, M. N. Mohamad, M. F. Ahmad, A. Ahmad, Z. Bachok, H. Motomura, M. L. Husan, M. A. Ambak, M. A. Ghaffar. 2021. Physical-chemical parameters in relation to fish assemblages in the east coast of Peninsular Malaysia. Malaysian Applied Biology, 49 (4): 193-199. (Dec. 2020)
- Hata, H., M. Itou and H. Motomura. 2021 (Jan.; dated as Dec. 2020). First record of *Ariomma indica* (Teleostei: Perciformes: Ariommatidae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan. Kuroshio Biosphere, 17 (2): 55-64. (12 Jan. 2021)
- 畑 晴陵・本村浩之. 2021 (Jan.). ニシン目の Pristigasteridae に適用すべき標準和名. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 4: 18-21. Doi: 10.34583/ichthy.4.0_18 (14 Jan. 2021)
- Nakamura, J. and H. Motomura. 2021 (Jan.). *Epinephelus insularis*, a new species of grouper from the western Pacific Ocean, and validity of *E. japonicus* (Temminck and Schlegel 1843), a senior synonym of *Serranus reevesii* Richardson 1846 and *E. tankahkeei* Wu et al. 2020 (Perciformes: Epinephelidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-020-00790-2 (14 Jan. 2021), 68 (2): 263-276 (10 Apr. 2021)
- Okamoto, J. and H. Motomura. 2021 (Jan.). Redescription of *Brachirus aspilos* (Bleeker 1852), a senior synonym of four nominal species, with a note on the distribution of *Dagetichthys marginatus* (Boulenger 1900) (Pleuronectiformes: Soleidae). Zootaxa, 4908 (3): 354-368. Doi: 10.11646/zootaxa.4908.3.2 (15 Jan. 2021)
- 和田英敏・松井英司・松井謙弥・本村浩之. 2021 (Feb.; dated as 2020). 熊本県菊池川および唐人川から得られたカライワシ仔魚の記録. 熊本野生生物研究会誌, 10: 9-12.
- Wada, H., Y. Kai and H. Motomura. 2021 (Feb.). Revision of the resurrected deepwater scorpionfish genus *Lythrichthys* Jordan and Starks 1904 (Setarchidae), with descriptions of two new species. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-020-00793-z (19 Feb. 2021)
- Hata, H., S. Lavoué and H. Motomura. 2021 (Feb.). Taxonomic status of nominal species of the anchovy genus *Stolephorus* previously regarded as synonyms of *Stolephorus commersonii* Lacepède 1803 and *Stolephorus indicus* (van Hasselt 1823), and descriptions of three new species (Clupeiformes: Engraulidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-020-00792-0 (21 Feb. 2021)
- 渋谷駿太・伊東正英・本村浩之. 2021 (Feb.). 薩摩半島南西沖から得られたソコカワムキ (フゲ目ベニカワムキ科): 国内における土佐湾以外からの初記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 5: 20-23. Doi: 10.34583/ichthy.5.0_20 (22 Feb. 2021)
- Okamoto, M., J. E. Randall and H. Motomura. 2021 (Feb.). *Acropoma musorstom*, a new lanternbelly

- (Acropomatidae) from the South Pacific and the first record of *Acropoma splendens* from the Andaman Sea off southwestern Thailand. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-021-00802-9 (23 Feb. 2021).
- Chungthanawong, S. and H. Motomura. 2021 (Feb.). Review of the waspfish genus *Neocentropogon* (Tetrarogidae), with a key to genera in the family. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-020-00796-w (23 Feb. 2021).
- 本村浩之・有馬啓人. 2021 (Feb.). 伊豆大島で撮影されたフサカサゴ科の稀種ハタタテカサゴ：国内における八重山諸島以外からの初記録および本種の北限記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 5: 29-31. Doi: 10.34583/ichthy.5.0_29 (24 Feb. 2021)
- 古橋龍星・前川隆則・本村浩之. 2021 (Feb.). 奄美大島から得られた琉球列島初記録ならびに国内2個体目のカエデエソ. タクサ, 50: 1-5. Doi: 10.19004/taxa.50.0_1 (28 Feb. 2021)
- Uiblein, F. and H. Motomura. 2021 (Mar.). Three new goatfishes of the genus *Upeneus* from the eastern Indian Ocean and western Pacific, with an updated taxonomic account for *U. itoui* (Mullidae, japonicus-species group). Zootaxa, 4938 (3): 298-324. Doi: 10.11646/zootaxa.4938.3.2 (1 Mar. 2021).
- 橋本慎太郎・本村浩之. 2021 (Mar.). 奄美大島から得られた奄美群島初記録および北限記録のシズクキカイウツボ *Uropterygius marmoratus*. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 6: 1-3. Doi: 10.34583/ichthy.6.0_1 (3 Mar. 2021)
- 伊藤大介・武藤望生・本村浩之. 2021 (Mar.). メギス科 *Labracinus cyclophthalmus* Müller and Troschel, 1849 (メギス) の新参異名とされていた *L. ocelliferus* (Fowler, 1946) (ガンテンメギス) の形態的・遺伝的根拠に基づく有効性と再記載. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 6: 9-24. Doi: 10.34583/ichthy.6.0_9 (8 Mar. 2021)
- 是枝侂旺・本村浩之. 2021 (Mar.). 鹿児島県から得られた分布の南限記録となるホソミミズハゼ, および本種の生息環境に関する知見. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 6: 25-32. Doi: 10.34583/ichthy.6.0_25 (8 Mar. 2021)
- 畑 晴陵・中村潤平・本村浩之. 2021 (Mar.). 薩南諸島から得られたリュウキュウキビナゴ *Spratelloides atrofasciatus*. Fauna Ryukyuan, 59: 41-49 (11 Mar. 2021).
- 赤池貴大・前川隆則・本村浩之. 2021 (Mar.). 標本に基づく魚類6種の奄美大島からの初めての記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 6: 41-47. Doi: 10.34583/ichthy.6.0_41 (15 Mar. 2021)
- 和田英敏・本村浩之. 2021 (Mar.). タイ科魚類の一属 *Amamiichthys* Tanaka and Iwatsuki, 2015 に適用すべき和名. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 6: 48-50. Doi: 10.34583/ichthy.6.0_48 (17 Mar. 2021)
- Hata, H. and H. Motomura. 2021 (Mar.). Two new species of *Stolephorus* (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae) from the western Pacific. Raffles Bulletin of Zoology, 69: 109-117. Doi: 10.26107/RBZ-2021-0009 (26 Mar. 2021)
- 井上賢太郎・伊東正英・和田英敏・本村浩之. 2021 (Mar.). 宇治群島初記録のエビスシイラ *Coryphaena equiselis*. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 6: 66-68. Doi: 10.34583/ichthy.6.0_66 (27 Mar. 2021)
- Fujiwara, K., K. Kawama, N. Muto, H. Senou and H. Motomura. 2021 (Mar.). Validity and redescription of the poorly known Japanese blenny *Alticus orientalis* Tomiyama, 1955 (Perciformes, Blenniidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-020-00798-8 (27 Mar. 2021)
- 藤原恭司・鈴木寿之・本村浩之. 2021 (Mar.). 西表島で撮影された水中写真に基づく *Egglestonichthys rubidus* (ハゼ科) の北半球からの初記録, および *Egglestonichthys* の新標準和名ライテイハゼ属. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 6: 74-75. Doi: 10.34583/ichthy.6.0_74 (30 Mar. 2021)
- Hata, H., P. N. Psomadakis, H. B. Osmany and H. Motomura. 2021 (Mar.). A new species of *Thrissina* from Pakistan (Arabian Sea), with redescription of *Thrissina whiteheadi* (Wongratana 1983) (Clupeiformes: Engraulidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-021-00799-1 (30 Mar. 2021).
- Wibowo, K. and H. Motomura. 2021 (Mar.). Distributional range extension of the rare scorpionfish, *Hipposcorpaena filamentosa* (Actinopterygii, Scorpaeniformes, Scorpaenidae). Acta Ichthyologica et Piscatoria, 51 (1): 23-28. Doi: 10.3897/aiep.51.63344 (31 Mar. 2021)
- Wibowo, K. and H. Motomura. 2021 (Mar.). First records of the Bandfin Scorpionfish, *Scorpaenopsis vittapinna* (Actinopterygii, Scorpaeniformes, Scorpaenidae), from Australia. Acta Ichthyologica et Piscatoria, 51 (1): 53-57. Doi: 10.3897/aiep.51.63347 (31 Mar. 2021)
- 2) 研究論文 (査読なし)
- 中村潤平・立原一憲・福地伊美映・本村浩之. 2020 (Apr.). 八重山諸島西表島から得られた絶滅危惧魚類ホウセキハタモドキ. Nature of Kagoshima, 46: 499-502. (3 Apr. 2020)
- 中村潤平・本村浩之. 2020 (Apr.). 平島における魚類相調査で確認されたトカラ列島記録のハタ科魚類4種. Nature of Kagoshima, 46: 503-507. (3 Apr. 2020)
- 古橋龍星・是枝侂旺・本村浩之. 2020 (Apr.). 鹿児島県薩摩半島南岸から得られた魚類4種の記録. Nature of Kagoshima, 46: 535-539. (7 Apr. 2020)
- 古橋龍星・是枝侂旺・本村浩之. 2020 (Apr.). 種子島初記録の準絶滅危惧ハゼ科魚類ヒゲワラスボ. Nature of Kagoshima, 46: 541-544. (7 Apr. 2020)
- 藤原恭司・伊東正英・本村浩之. 2020 (Apr.). 鹿児島県薩摩半島西岸から得られた国内2例目のカガヤキミゾイサキ, および過去20年間に同海域から新種・日本初記録種として記録された魚類リスト. Nature of Kagoshima, 46: 569-572. (29 Apr. 2020)
- 畑 晴陵・本村浩之. 2020 (Apr.). トカラ列島初記録のホウキハタとカケハシハタ (スズキ目ハタ科). Nature of Kagoshima, 46: 573-579. (30 Apr. 2020)
- 赤池貴大・古橋龍星・是枝侂旺・本村浩之. 2020 (Apr.). 鹿児島県薩摩半島の鹿児島湾に注ぐ小河川から得られた準絶滅危惧種ルリヨシノボリ. Nature of Kagoshima, 46: 581-585. (30 Apr. 2020)
- 中川龍一・本村浩之. 2020 (May). トカラ列島初記録のオオクチイワシの成魚とシロハナハダカ (ハダカイワシ科). Nature of Kagoshima, 46: 587-593. (3 May 2020)
- 是枝侂旺・中川龍一・本村浩之. 2020 (Aug.). 八代海南部から得られた南限記録のシラウオ. Nature of Kagoshima, 47: 101-104. (21 Aug. 2020)
- 荒木萌里・高久 至・本村浩之. 2020 (Aug.). 屋久島で撮影された水中写真に基づくシューヤジリチンヨウジウオ (ヨウジウオ科: チンヨウジウオ属) の北限記録. Nature of Kagoshima, 47: 109-110. (28 Aug. 2020)

- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020 (Dec.). An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 14: 1-73. (1 Dec. 2020)
- 畑 晴陵・本村浩之. 2021 (Jan.). 甌島列島初記録のウメイロ (スズキ目フエダイ科). Nature of Kagoshima, 47: 209-214 (21 Jan. 2021)
- 中川龍一・樋之口蓉子・Kunto Wibowo・ジョン ビョル・和田英敏・藤原恭司・荒木萌里・望月健太郎・飯野友香・石原祥太郎・小川奈津・出羽優風・本村浩之. 2021 (Mar.). 鹿児島湾北部の霧島市小浜海岸の魚類相. Nature of Kagoshima, 47: 373-379. (23 Mar. 2021)
- 3) 本
- 小宮輝之・三宅裕志・本村浩之 (監). 2020 (July). 学研の図鑑 LIVE 生き物サバイバル. 学研プラス, 東京. 193 pp.
- 今泉忠明・本村浩之 (監). 2020 (Sept.). こどもずかん 777 英語つき しゃしんばんジョン. 学研プラス, 東京. 45 pp.
- 本村浩之・山本智子・田金秀一郎 (編). 2020 (Sept.). 鹿児島県北西部 不知火海にそそぐ 高尾野川河口周辺の生きものたち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 316 pp.
- 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編). 2020 (Nov.). 大隅市場魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市. 634 pp.
- Motomura, H., S. Kimura, Y. G. Seah, S. T. Sheikh Abdul Kadir, and M. A. Ghaffar (eds). 2021 (Jan.). Reef and shore fishes of Bidong Island, off east coast of Malay Peninsula. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. 80 pp., 224 figs. (5 Jan. 2021)
- Bullock, R., G. Ralph, E. Stump, F. Al Abdali, J. Al Asfoor, B. Al Buwaiqi, A. Al Kindi, A. Ambuali, T. Birge, P. Borsa, F. Di Dario, B. Everett, S. Fennessy, C. Fonseca, C. Gorman, A. Govender, H. Ho, W. Holleman, N. Jiddawi, M. Khan, H. Larson, C. Linardich, P. Matiku, K. Matsuura, C. Maunde, H. Motomura, T. Munroe, R. Nair, C. Obota, B. Polidoro, B. Russell, S. Shaheen, Y. Sithole, W. Smith-Vaniz, F. Uiblein, S. Weerts, A. Williams, S. Yahya and K. Carpenter. 2021 (Mar.). The conservation status of marine biodiversity of the western Indian Ocean. IUCN Red List of Threatened Species - Regional Assessment. IUCN, Gland. vii + 32 pp.
- 4) その他の出版物
- 本村浩之. 2020 (June). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 15 ヤシャカマス, No. 16 トラカマス, No. 17 タツカマス. さくらじまの海, 24 (1): 8.
- 本村浩之. 2020 (July). 南の島を満喫マイクローリズムプラン ウェルネス・ストーリー. LIVING×かごしま魅力発掘プロジェクト. 観光かごしま大キャンペーン水深協議会, 2.
- 本村浩之. 2020 (Sept.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 18 タマヨリタツ. さくらじまの海, 24 (2): 8.
- 本村浩之. 2020 (Dec.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 19 パンダゲンロクダイ. さくらじまの海, 24 (3): 8.
- 本村浩之. 2021 (Mar.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 20 イワナガヒメジ. さくらじまの海, 24 (4): 8.
- 5) 学会・シンポジウム等発表
- 和田英敏・甲斐嘉晃・本村浩之. 2020 (31 Oct.). シロカサゴ科シロカサゴ属 *Setarches* の新参異名とされていたアカカサゴ属 *Lythrichthys* の有効性と 2 未記載種. 2020 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会), 2020 年 10 月 30-11 月 1 日. Oral
- 藤原恭司・K. Conway・本村浩之. 2020 (31 Oct.). インド・西太平洋から得られたウバウオ科ハシナガウバウオ亜科の 1 未記載種と 2 未記載種およびミサキウバウオ属に帰属されている 2 種の帰属の再検討. 2020 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会), 2020 年 10 月 30-11 月 1 日. Oral
- 畑 晴陵・S. Lavoué・本村浩之. 2020 (1 Nov.). ギンイワシ属 *Dussumieria elopsoides* 類似種群の分類学的再検討. 2020 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会), 2020 年 10 月 30-11 月 1 日. Poster
- 古橋龍星・本村浩之. 2020 (1 Nov.). 琉球列島から得られたエソ科マエソ属の 1 未記載種. 2020 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会), 2020 年 10 月 30-11 月 1 日. Poster
- 荒木萌里・小枝圭太・何 宣慶・本村浩之. 2020 (1 Nov.). 台湾とアンダマン海から得られたヨウジウオ科タツノオトシゴ属の 1 未記載種. 2020 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会), 2020 年 10 月 30-11 月 1 日. Poster
- Wibowo, K. and H. Motomura. 2020 (1 Nov.). An undescribed species of the genus *Scorpaena* (Teleostei: Scorpaenidae) from northwestern Australia. The 54th Annual Meeting of The Ichthyological Society of Japan (Web Meeting), 30 Oct.-1 Nov. 2020. Poster
- 伊藤大介・武藤望生・本村浩之. 2020 (1 Nov.). メギス科メギスに確認された形態的・遺伝的に異なる 2 種. 2020 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会), 2020 年 10 月 30-11 月 1 日. Poster
- 渋谷駿太・前川隆則・桜井 雄・本村浩之. 2020 (1 Nov.). フエフキダイ科キツネフエフキに確認された形態的・遺伝的二型. 2020 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会), 2020 年 10 月 30-11 月 1 日. Poster
- 是枝伶旺・本村浩之. 2020 (1 Nov.). 鹿児島県におけるミミズハゼ属魚類の分布状況と形態学的知見. 2020 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会), 2020 年 10 月 30-11 月 1 日. Poster
- 中川龍一・桜井 雄・本村浩之. 2020 (1 Nov.). フエダイ科ウスハナフエダイの西太平洋広域からの記録と新たな色彩的特徴. 2020 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会), 2020 年 10 月 30-11 月 1 日. Poster
- 赤池貴大・塚脇真二・本村浩之. 2020 (1 Nov.). カンボジア・トンレサップ湖の魚類相. 2020 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会), 2020 年 10 月 30-11 月 1 日. Poster
- 中村潤平・本村浩之. 2020 (1 Nov.). ニホンイトヨリ *Nemipterus japonicus* の日本国内における確かな記録. 2020 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会), 2020 年 10 月 30-11 月 1 日. Poster
- 本村浩之. 2020 (15 Nov.). 鹿児島と琉球列島の魚類多様性. 放送大学公開講座. 鹿児島県立奄美図書館, 奄美市.
- 本村浩之. 2020 (12 Dec.). 奄美群島の魚たち. 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター「奄美群島 島めぐり講演会 第 11 回喜界島」. 喜界町役場, 喜界町.
- 本村浩之. 2021 (4 Feb.). 基礎研究 (分類学・生態学) における海外遺伝資源利用の実践. 沖縄美ら島財団総合研究センター, 本部町.
- 和田英敏・松井英司・松井謙弥・本村浩之. 2021 (6 Feb.). 熊本県菊池川および唐人川から得られたカライワシ仔魚の記録. 熊本野生生物研究会第 55 回会員研究発表会 (web). Oral

(3) 外部資金

日本学術振興会 科研費基盤研究 (A)「鹿児島湾海底火山活動によって放出される水銀及びセレンの環境動態」(分担)
日本学術振興会 科研費基盤研究 (B)「渡瀬線に代わる海洋生物における新たな生物地理境界線「大隅線」の検証」(代表)
日本学術振興会 研究拠点形成事業-B. アジア・アフリカ学術基盤形成型-「持続的な東南アジア海洋生態系利用のための研究教育プロジェクト」(分担)
文部科学省 特別経費-地域貢献機能の充実-「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」(分担)
出水市 受託研究「高尾野川河口の生きもの調査」(代表)

(4) 社会貢献・学外活動

| | |
|----------------------------------|--------------------|
| 日本魚類学会 代議員 | 日本魚類学会 学会賞選考委員会 委員 |
| 日本魚類学会 ABS 対策チーム 委員 | 日本生物地理学会 評議員 |
| 日本博物科学会 理事 | 国際自然保護連合 種の保存委員 |
| オーストラリア博物館 客員研究員 | かごしま水族館 評議員 |
| 鹿児島県自然環境保全協会 理事 | 鹿児島県純心女子短期大学 非常勤講師 |
| 桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 委員 | フィリピン生物分類学雑誌 編集顧問 |
| マレーシア・トレンガヌ大学 教授 / 准教授昇進外部人事評価委員 | |

(5) 学内委員

総合研究博物館 館長
総合研究博物館 ミニ企画展「出水市高尾野川河口の生きもの」企画・担当
総合研究博物館 Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 編集委員長
ABS 推進室 委員 企画・評価委員会 委員
男女共同参画推進センター 委員 グローバルセンター 兼務教員
国際島嶼教育研究センター 兼務教員 大学院農林水産学研究所 入試委員会 委員
大学院連合農学研究科 入試委員会 委員
大学院連合農学研究科 学位論文審査委員会 委員

(6) 報道関係

世界さまぁ〜リゾート. モルディブ贅沢リゾートアイランド SP. TBS, 2020年4月4日, 0:00~(魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート. 行った気分になれる!? 世界のベストビーチセレクション. TBS, 2020年4月11日, 0:00~(魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート. 王林初めてのグアム 王道 SP. TBS, 2020年4月18日, 0:00~(魚の同定と解説)
鹿児島大学院生が発見. 快拳 日本近海の生息魚「ツケアゲエソ」. KTS 鹿児島テレビ, KTS Live News, 2020年4月21日, 18:14~
世界さまぁ〜リゾート. お家でグアム気分 王林アクティビティ調査. TBS, 2020年4月25日, 0:00~(魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート. モルディブ絶景アイランド SP. TBS, 2020年5月2日, 0:00~(魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート. さまぁ〜リゾート検定. TBS, 2020年5月9日, 0:00~(魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート. さまぁ〜リゾート検定. TBS, 2020年5月16日, 0:00~(魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート. 世界のベストビーチ SP. TBS, 2020年6月13日, 0:00~(魚の同定と解説)
世界でも珍しい種 イトマンオオキンギョ 日本で4カ所目の記録. 南海日日新聞, 2020年6月19日
世界さまぁ〜リゾート. ナイブ大竹ベストビーチセレクション SP. TBS, 2020年6月20日, 0:00~(魚の同定と解説)
日本で2例目の「カエデエソ」. 南海日日新聞, 2020年6月23日
偶然釣れた“色鮮やかすぎる”怪魚が話題…この配色には理由があった. FNN プライムオンライン, 2020年7月1日
上皇さま ハゼの新種発見か. まるっと! サタデー. TBS, 2020年7月18日, 5:30~7:00 (コメント)
世界さまぁ〜リゾート. 伊豆・下田リゾートホテル SP. TBS, 2020年8月1日, 0:00~(魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート. 日本のビーチリゾート熱海 SP. TBS, 2020年8月8日, 0:00~(魚の同定と解説)
ダーウィンが来た! ひつつかない! コバンザメ 謎の大集結. NHK, 2020年8月9日, 19:30-19:58
北限更新魚類を初確認. シューヤジリチンヨウジウオと命名. 沖永良部島. 南海日日新聞, 2020年8月13日
未知の魚の宝庫. 魅惑の島々, 奄美群島~研究成果を地元で 37. 南海日日新聞, 2020年8月14日
世界さまぁ〜リゾート. 王道ビーチリゾート SP. TBS, 2020年8月15日, 0:00~(魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート. 夏休みに行きたかったビーチリゾート第2弾 世界の秘島 SP. TBS, 2020年8月22日, 0:00~(魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート. 日本リゾートホテル投稿 SP. TBS, 2020年8月29日, 0:00~(魚の同定と解説)
タツノオトシゴの仲間 県内離島沖 2種初確認. 鹿大院生ら標準和名命名. 南日本新聞, 2020年9月3日
世界さまぁ〜リゾート. 日本のリゾートホテルスタッフ投稿 SP. TBS, 2020年9月5日, 0:00~(魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート. 日本のリゾートホテルスタッフ投稿 SP. TBS, 2020年9月12日, 0:00~(魚の同定と解説)
鹿児島 奄美の海 コバンザメ 謎の大集結に迫る! NHK BS プレミアム, 2020年9月14日, 20:00~
ふらっとあの街 旅ラン 10キロ. NHK BS プレミアム, 2020年9月16日, 19:30~
「サメか」指宿沖で3時間半の攻防 150センチ 33キロの大口クエ, タイラバで釣った ゴムボートにようやく引き上げ 鹿児島. 南日本新聞, 2020年9月17日
世界さまぁ〜リゾート. 日本のリゾートホテルスタッフ投稿 SP. TBS, 2020年9月19日, 0:00~(魚の同定と解説)
20年以上展示のエイ 実は新種と判明 かごしま水族館. MBC 南日本放送, 2020年9月24日
飼育中のエイ, 実は新種! かごしま水族館. 南日本新聞, 2020年9月25日

水族館のエイ 実は新種だった. 鹿児島 NEWS WEB. NHK 鹿児島, 2020年9月25日
 水族館のエイ、実は新種 20年展示も気付かず 鹿児島. 時事通信, 2020年9月26日
 世界さまぁ〜リゾート. 沖縄 宮古島 徹底解剖 SP. TBS, 2020年9月26日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 23年飼育のエイ、実は新種 三角巾着けた幽霊? 鹿児島. 共同通信, 2020年9月26日
 スピード自慢の魚に新種のエイも! かがしま水族館. KTS鹿児島テレビ, 2020年9月29日
 珍生物ハンターが南の島の龍魚 アロワナを追う! 朝生ワイド す・またん! & ZIP! 読売テレビ, 2020年9月30日, 5:20-8:00
 魚の論文2本が学術誌に掲載された 荒木萌里さん. 南日本新聞, 2020年10月1日
 世界さまぁ〜リゾート. キングオブ離島 沖縄・石垣島 SP. TBS, 2020年10月3日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 オープンから20年超、だれも気付かず…展示のエイは「新種」だった. 読売新聞, 2020年10月4日
 飼育中のエイ 実は新種. オセモコ 南日本新聞, 2020年10月17日
 琉球列島で初確認. ヤハズアオハタ、笠利沖で. 奄美新聞, 2020年10月28日
 珍魚水揚げ、奄美近海初か 笠利沖でヤハズアオハタ. 南海日日新聞, 2020年10月28日
 奄美海域は魚種日本一 放送大学公開講座で本村氏 奄美市名瀬. 南海日日新聞, 2020年11月16日
 奄美大島の魚類種「日本一」. 奄美新聞, 2020年11月17日
 世界さまぁ〜リゾート. 世界海中ウォーカー SP. TBS, 2020年11月28日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 世界さまぁ〜リゾート. 世界ビーチウォーカー in ニューカレドニア. TBS, 2020年12月5日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 ハゼ科魚類を北半球で初記録 鹿大の藤原恭司さんが確認 「ホコサキキララハゼ (新称)」と命名. 奄美新聞, 2020年12月18日
 北半球初記録のハゼ確認 鹿児島大学. 南海日日新聞, 2020年12月19日
 沖縄深海に新種のハゼ 雷模様「ライテイハゼ」鹿大院 藤原さん発見. 南日本新聞, 2020年12月29日
 新種「マホロバハタ」発見 かがしま水族館と鹿大博物館 種子島以南、奄美近海などに分布. 南海日日新聞, 2021年1月20日
 くりいむ ミラクル9. テレビ朝日, 2021年1月20日 (魚のクイズ)
 世界さまぁ〜リゾート. 世界ビーチウォーカー in タイ ホアヒン. TBS, 2021年1月30日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 種子島近海でハタ新種確認. 南日本新聞, 2021年2月4日
 世界さまぁ〜リゾート. タイ ホアヒンの絶景アイランド SP. TBS, 2021年2月6日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 新種の魚に「マホロバハタ」と命名した かがしま水族館職員 中村潤平さん. 南日本新聞, 2021年2月7日
 世界さまぁ〜リゾート. 世界ビーチウォーカー in グアム. TBS, 2021年2月27日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 鹿大院生が国内初確認 カサゴ研究 100年の歴史覆す. MBC ニュースナウ, 2021年3月3日, 18:15 ~
 アカカサゴと100年間混同の2種 別種カサゴと確認. 鹿大院・和田さん、英文誌に掲載. 南日本新聞, 2021年3月4日
 カサゴ2種 別種と判明 鹿大大学院・和田さん 国際誌で研究発表 国内外1000超の標本比較. 読売新聞, 2021年3月14日
 鹿大 薩摩半島沖深海 2種類のカサゴ新たに発見. 情報 WAVE かがしま. NHK 鹿児島, 2021年3月16日, 18:10 ~
 次世代狙う中2の「魚博士」 本州初記録の標本に論文も執筆. 産経新聞, 2021年3月18日
 世界さまぁ〜リゾート. 世界ビーチウォーカー in グアム SP. TBS, 2021年3月20日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 世界さまぁ〜リゾート. 世界ビーチウォーカー in サイパン SP. TBS, 2021年3月27日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)

大西佳子 [助教]

博物館活動

「鹿児島大学総合研究博物館 特別展マニュアル」作成
 第20回 特別展「有明海の干潟の生物と人々の暮らし」開催準備担当 (途中まで)
 第38回 市民講座「有明海の干潟の生物と人々の暮らし」開催準備担当 (中止)
 『鹿児島大学総合研究博物館 NewsLetter 特別展号「有明海の干潟の生物と人々の暮らし」』No.46 発行準備担当

田金秀一郎 [特任助教]

(1) 教育活動

1) 全学共通教育
 集中講義「屋久島の環境文化Iー植生ー」(後期) [新型コロナウイルス感染症により中止]
 2) その他
 博物館資料論 (前期)
 博物館実習 (前期)
 博物館実習事前事後指導 (前期)
 理学部地域自然環境実習 (前期) [新型コロナウイルス感染症により中止]
 SITH-ITB online course on conservation biology “Tropical Biodiversity: Bioprospecting and Conservation”, School of Life Sciences and Technology - ITB, Indonesia (後期)

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読有)
 Okabe N., Yahara T., Tagane S., Mitsuyuki C., Matsuo A., Sasaki T., Moritsuka E., Fuse K., Shimizu-kaya

- U., Julia S., Runi P., Suyama Y. 2021. A new species of *Actinodaphne* (Lauraceae), *A. lambirensis* from Sarawak, Malaysia, and an analysis of its phylogenetic position using MIG-seq and ITS sequences. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 72(1): 43–59.
- Hirata M., Mitsuyuki C., Moritsuka E., Chhang P., Tagane S., Toyama H., Sokh H., Rueangruea S., Suddee S., Suyama Y., Yahara T., Teshima K.M., Tachida H., Kusumi J. 2021. Evaluating the genetic diversity in two tropical leguminous trees, *Dalbergia cochinchinensis* and *D. nigrescens*, in lowland forests in Cambodia and Thailand using MIG-seq. *Genes & Genetic Systems* 96: 1–13.
- Tagane S., Souladeth P., Nagahama A., Suyama Y., Ishii N., Tanaka N., Yahara T. 2020. Twenty-five new species records in the flora of Laos. *The Natural History Bulletin of the Siam Society* 64: 25–41.
- Tanaka N., Tagane S., Souladeth P. 2020. *Zingiber collinsii* Mood & Theilade (Zingiberaceae), a newly recorded ginger from Laos. *Journal of Thai Botany* 12(2): 105–111.
- Souladeth P., Tagane S., Newman M.F., Prajaksood A. 2020. Two new species of *Eriocaulon* (Eriocaulaceae) from Laos. *Kew Bulletin* 75: 56.
- Tagane S., Souladeth P., Yang C.-J., Yahara T. 2020. Flora of Nam Kading National Protected Area VII: a new species of *Diospyros* (Ebenaceae), *D. laoensis*. *Phytotaxa* 477: 90–96.
- Tagane S., Ngoc N.V., Binh H.T., Nagahama A., Zhang M., Cuong T.Q., Son L.V., Dang V.S., Toyama H., Komada N., Nagamasu H., Yahara T. 2020. Fifteen new species for the flora of Bidoup-Nui Ba National Park, southern highland of Vietnam, *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 71(3): 201–229.
- Suetsugu K., Dančák M., Hroneš M., Naiki A., Tagane S., Yahara T. 2020. Resurrection and emended description of *Sciaphila major* (Triuridaceae). *Phytotaxa* 459: 25–38.
- Mase K., Tagane S., Chhang P., Yahara T. 2020. A taxonomic study of *Machilus* (Lauraceae) in Cambodia based on DNA barcodes and morphological observations. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 71: 79–101.
- Suddee S., Tagane S., Souladeth P., Kongxaysavath D., Rueangruea S., Suyama Y., Suzuki E. 2020. *Coleus bolavenensis* (Lamiaceae), a new species from Laos. *Thai Forest Bulletin, Botany* 48(1): 82–85.
- Ha T.D., Quang B.H., Tran T.B., Do H.V., Thanh H.N.T., Thu H.B., Tagane S., Oguri E., Naiki A., V.-S.Dang. 2020. A new species of *Lasianthus* (Rubiaceae), *L. konchurangensis*, from the Central Highlands of Vietnam. *Phytotaxa* 451: 161–168.
- Strijk J.S., Binh H.T., Ngoc N.V., Pereira J.T., Ferry S., Sukri R.S., Suyama Y., Tagane S., Wieringa J.J., Yahara T., Hinsinger D.D. 2020 (May). Museomics for reconstructing historical floristic exchanges: Divergence of stone oaks across Wallacea. *PLoS ONE* 15(5): e0232936.

2) 研究論文 (査読無)

- 山崎海都・田金秀一郎. 2020. 鹿児島県の外来植物 V : アマゾンチカガミ *Limnobium laevigatum* (Humb. et Bonpl. ex Willd.) Heine. *Nature of Kagoshima* 47: 245–248.
- 田金秀一郎・山崎海都. 2020. リュウキュウマユミを下甌島に記録する. *Nature of Kagoshima* 47: 155–156.
- 田金秀一郎・布施健吾・佐藤広行・矢原徹一. 2020. 奄美大島におけるホソバノキミズの新発見. *Nature of Kagoshima* 47: 151–153.
- 田金秀一郎・久保紘史郎・山崎海都・鈴木英治. 2020. 鹿児島県の外来植物 IV : タイワンハチジョウナ, ダキバアレチハナガサ, オオマツバウンラン. *Nature of Kagoshima* 47: 17–20.
- 鈴木英治・田金秀一郎・久保紘史郎. 鹿児島県の外来植物 III : 特定外来生物ナルトサワギクの鹿児島県への侵入過程. *鹿児島植物研究会会誌* 10: 5–8.
- 田金秀一郎. 2020. 鹿児島県におけるチャセンシダ科スリトラノオ (*Asplenium normale*) とナンカイスリトラノオ (*A. serratifolium*) の分布. *鹿児島植物研究会会誌* 10: 1–4.
- 田金秀一郎・丸野勝敏. 2020. 鹿児島県の帰化植物 II : 南さつま市亀ヶ丘におけるフランスギクの分布報告. *鹿児島植物研究会会誌* 9: 9–10.
- 田金秀一郎・丸野勝敏・中川優花里・宮本句子. 2020. 鹿児島県の外来植物 I : ヨシススキとキンチャクソウ属の1種サケバキンチャクソウ (新称). *Nature of Kagoshima* 46: 481–485.

3) 書籍

- 本村浩之・山本智子・田金秀一郎 (編) 2020. 鹿児島県北西部不知火海にそそぐ — 高尾野川河口周辺の生きものたち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 316 pp.

4) 学会・シンポジウム等発表

- 山崎海都・Phetlasy Souladeth・田金秀一郎. 2021年3月. ラオス南部ボラベン台地における維管束植物相の解明に向けて. 第68回日本生態学会大会 (online). Poster
- 遠山弘法・田金秀一郎・相場慎一郎・鶴川信・鈴木英治・山崎海都・竹内やよい・角谷拓. 2021年3月. 奄美群島の常緑広葉樹における植物群集構造と多様性解析. 日本植物分類学会第20回大会 (online). Oral
- 鈴木英治・丸野勝敏・田金秀一郎・久保孝四郎・平城達哉. 2021年3月. 鹿児島県植物分布図集の作成. 日本植物分類学会第20回大会 (online). Oral
- 山本武能・遠山弘法・設楽拓人・指村奈穂子・田金秀一郎・阿部篤志・米倉浩司・天野正晴・古本良・横田昌嗣・内貴章世. 2021年3月. 西表島の植物相解明に向けて: 全島調査により見えてきた多様性の分布の傾向. 日本植物分類学会第20回大会 (online). Oral
- 田金秀一郎・Phetlasy Souladeth. 2020年11月. ラオス南部 Bolaven 台地における植物多様性インベントリ. 第30回日本熱帯生態学会 (online). Oral.
- 山崎海都・Phetlasy Souladeth・田金秀一郎. 2020年11月. ラオス南部ボラベン台地における標高傾度に沿った樹木の種多様性パターン. 第30回熱帯生態学会 (online). Poster

(3) 外部資金

- 日本学術振興会 科研費基盤研究 (C) 「次世代シーケンサー導入による植物相調査の迅速化〜ベトナム中部高原地帯を事例として」(分担)
- 一般財団法人沖縄美ら島財団 共同研究「西表島植物誌編纂に係る植物標本データベースの作成」
- 長尾自然環境財団 研究者育成支援プログラム (CGF) 「Floristic inventory and plant diversity assessment of Bolaven Plateau, southern Laos」(プロジェクトコーディネーター)

(4) 社会貢献・学外活動

日本植物分類学会 標本問題対応委員会 委員
日本植物分類学会 普及推進委員会委員 委員
一般財団法人 沖縄美ら島財団 西表植物誌編纂事業 協力委員
鹿児島植物研究会 会誌編集委員
屋久島照葉樹林ネットワーク 会員
首都大学東京 客員研究員
日本植物分類学会第20回大会（オンライン）ウェビナー委員

(5) 学内委員等

鹿児島大学理学部地球環境学科 非常勤講師
総合研究博物館 特別公開「国内100年ぶりの再発見！絶滅種 ホソバノキミズ」 企画・担当
総合研究博物館 第2回バックヤードツアー「植物標本室」 企画・担当
総合研究博物館 第20回自然観察ツアー「磯間岳の植物」 企画・担当

(6) 主な調査研究（学会や会議は除く）

2020年4月5日 鹿児島県出水市の植物相調査
2020年4月25日 伊佐市の植物相調査
2020年4月29日 南さつま市の植物相調査
2020年5月6日 鹿児島県出水市の植物相調査
2020年5月9日 大隅半島の植物相調査
2020年5月31日 鹿児島県出水市の植物相調査
2020年8月1日 大隅半島・木場岳の植物相調査
2020年8月4日 鹿児島県出水市の植物相調査
2020年8月7, 9-10日 鹿児島県霧島山の植物相調査
2020年8月22-27日 奄美大島の植物相調査
2020年8月29日 高隈山御岳・六郎館岳の植物相調査
2020年9月8-14日 和歌山県・三重県・愛知県の植物相調査
2020年9月20-23日 愛媛県・高知県の植物相調査
2020年10月11-13日 甌島列島の植物調査
2020年10月18日 鹿児島市西之谷ダムの植物相調査
2020年11月3日 鹿児島市内の植物相調査
2020年11月9-15日 西表島の植物相調査
2020年11月25-27日 屋久島の植物相調査
2020年12月5-7日 大隅半島の植物相調査
2021年1月16日 南九州市の植物相調査
2021年1月31日 桜島・鹿屋市・志布志市の植物相調査
2021年2月17-25日 奄美大島の植物相調査
2021年3月21日 薩摩半島の植物相調査
2021年3月31日 奥十層・えびの市の植物相調査

(7) 報道関係

人吉城歴史館の植物標本レスキューに関するニュース. NHK 岡山放送. 2020年9月2日
植物標本1200点鹿大修復. 南日本新聞. 2020年10月18日
次代につなぐ標本修復. 南日本新聞. 2020年11月14日
絶滅種、100年ぶり発見 奄美大島、小低木「ホソバノキミズ」. 共同通信社. 2020年11月19日
100年ぶり絶滅種発見 小低木「ホソバノキミズ」 奄美大島で鹿児島大チーム. 南日本新聞. 2020年11月19日
100年ぶり奄美大島で「ホソバノキミズ」発見. 奄美新聞. 2020年11月20日
「絶滅」の木・・・100年ぶり発見. 朝日新聞. 2020年11月21日
ホソバノキミズに関するニュース. NHK 情報WAVE かがしま. 2020年12月1日
奄美で100年ぶりに「絶滅」の木を発見. 朝日新聞鹿児島県版. 2020年12月27日
かお. 「イラクサ科の絶滅種を発見した 鹿児島大学特任助教 田金秀一郎さん」. 南日本新聞. 2021年1月9日

第20回 特別展

有明海の干潟の生物と人々の暮らし

入場
無料

Life on the tidal flats of the Ariake Sea

有明海の干潟の生物とそこでの人々の暮らしについて、
標本や写真パネルを展示します。諫早市在住の富永健司
氏が1980年代以降に撮影された諫早湾の閉め切り前後
の干潟の写真も展示します。

展示企画：佐藤 正典（鹿児島大学理学系教授）

展示協力：富永 健司（長崎県諫早市）



日時 2021年1月14日(木)～2月10日(水)

10:00～17:00

休館日 1月16日(土)、1月17日(日)

学内者
限定

場所 鹿児島大学郡元キャンパス
中央図書館ギャラリー“アトリウム”

ギャラリートーク 12:15～12:45(30分)

1月19日(火) 1月26日(火)



特別展関連企画 第38回 市民講座

「有明海の干潟の生物と人々の暮らし」

講師：佐藤 正典 教授（鹿児島大学工学域理学系）

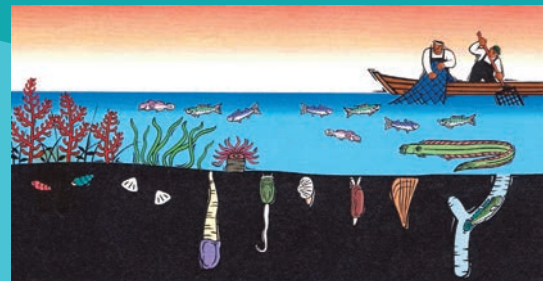
日時 2021年1月23日(土)

午後3時～4時半

場所 鹿児島大学 郡元キャンパス

農・獣医共通棟1階 101講義室

参加費
無料



イラスト：松本悟、佐藤正典（編）2000「有明海の生きものたち」海游舎より。



鹿児島大学総合研究博物館

鹿児島市郡元1-21-30

TEL : 099-285-8141 FAX : 099-285-7267

<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

新型コロナウイルス対策のため、場合によっては中止することもあります

鹿児島大学総合研究博物館 2020年度イベント
バックヤードツアー&自然体験ツアー

1) 第2回バックヤードツアー
植物標本庫
日時：2021年3月6日（土） 9:00～12:00
場所：鹿児島大学総合研究博物館 共同利用棟2階
※現地集合・解散
案内者：田金秀一郎（鹿児島大学総合博物館）
参加費：無料
持参物：基本的にありませんが、マスク着用等、コロナ対策にご協力をお願いします
植物標本庫はどこにあるの？
何のために存在するの？
普段入らない鹿児島大学総合研究博物館の植物標本室において、植物標本の取り扱いと研究の意義について解説します

2) 第20回自然体験ツアー
磯間岳の植物
日時：2021年3月13日（土） 9:00～12:00
場所：鹿児島県南さつま市磯間岳
※現地集合・解散
案内者：田金秀一郎（鹿児島大学総合博物館）
参加費：100円（保険料）
持参物：飲み物、観察道具（ルーペなど）
※小雨決行、大雨の場合は中止
※ハイキングのできる服装でご参加ください
磯間岳にはどんな植物が生えている？
往復約5.1kmの登山をしながら磯間岳に生育する植物を観察します

申込方法：次の事項をハガキ、FAX、またはemailに明記し、下記までお送りください。個人情報はこの企画の目的以外には使用致しません。参加決定者には後日詳しいプログラムをお送りします。

① 参加を希望するイベント名
② 参加希望者全員分の氏名・年齢
③ 住所
④ 電話番号、FAXまたはemailアドレス

応募締切：2021年2月26日（金）16:00必着
定員：植物標本庫 3名
磯間岳の植物 5名（どちらも希望者が定員を超えた場合は抽選となります）

応募先：鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿児島市郡元1-2-30
Tel: 099-285-8141 Fax: 099-285-7267 email: info@kaum.kagoshima-u.ac.jp
https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学農学部 坂巻祥孝准教授 研究グループ

南西諸島から 国内

35年ぶり

新種発見

2020.12.1
2021.1.29

場所：鹿児島大学 総合研究博物館 常設展示室内

アカボシシリ gokitburi
ウスオビシリ gokitburi

特別公開展示

鹿児島大学総合研究博物館
099-285-7259 https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/

国内約100年ぶりの再発見！

「絶滅種」

ホソバノキミズ

特別公開展示

日程 2021年2月11日～2月27日
場所 鹿児島大学総合研究博物館 常設展示室 10:00～16:30（休館：日・月曜日）入館無料
※ コロナ対策にご協力をお願いします

鹿児島大学総合研究博物館
TEL 099-285-7259 WEBSITE https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学総合研究博物館

三企画展

出水市高尾野川河口の生きもの

出水市高尾野川河口には豊かな生物多様性を有しています。2020年の学術調査で得られた、絶滅危惧に指定されている魚類・甲殻類、鹿児島県で初めて記録された種の標本を公開します。

AIポスタープレゼント！

入館無料
コロナ対策にご協力下さい

鹿児島大学総合研究博物館 常設展示室2階
2021年3月2日～31日（日曜日休館）10:00～16:30
Tel: 099-285-7259 https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/



鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No. 19

2019・2020

2021.09.30

鹿児島大学総合研究博物館 The Kagoshima University Museum
890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan
Printed in Japan